

令和6(2024)年度

進路指導研究会報告書

第36号

沖縄県特別支援学校進路指導研究会

はじめに

沖縄県特別支援学校進路指導研究会報告書の発刊にあたり、ご挨拶を申し上げます。

本研究会は、進学・就職等の進路指導の中でも、特に就労等について進路指導担当職員を中心に関係機関との連携を図りながら、各学校で行われる教育の充実に資するべく活動を行ってまいりました。今年度も業務の効率化を図るためオンラインを活用し、行政担当者からの情報提供、有識者を招いての研修会及び会員らによる協議等を行い、有意義な情報共有、意見交換等を行うことができました。また、キャリア教育・就労支援発表会においては、昨年度に引き続き参集型による開催ができたことを大変嬉しく思っております。

ここに、今年度の本研究会の活動を報告書として取りまとめるにあたり、各学校における進路指導の活動状況をご提供いただき、それを含めた形で報告書を完成することができました。

幼児児童生徒が個々の能力やニーズに合わせた支援を受け、自分らしい未来への道を築くことができるよう、幼小中高と各段階を通したキャリア教育、小学部での職場見学、中学部での職場体験活動、高等部での就業体験活動（インターンシップ）等は重要なステップです。各学校においては、系統的なキャリア教育の実施等のより一層の充実が求められています。

改めて、本研究会の大きな役割は、本県特別支援学校全校種・全教育部門の適切な進路指導の在り方を模索しながらそれを推進していくことだと考えており、生徒や教師の発表会等につきましても、引き続き取り組みを推進しつつ、役員会やその研修会の在り方も一部参集型として連携体制を強化すること、合理性のある予算執行等につきましても整理を図ってまいります。

更に、進路指導関係職員の研究・研修等について、本来の研究会の役割を再確認していく必要があると考えており、令和8年度には関係職員が負担のない範囲で研究大会を設定するなどの方策を検討し、実施体制を整理して引き継いでまいります。各学校におかれましても、今後の取り組みについてのご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

結びになりますが、今年度の各学校役員の皆様のご理解とご協力に改めて御礼を申し上げ、次年度への円滑な引継ぎをお願い申し上げます。また、本研究会活動を進めるにあたって指導助言をいただきました沖縄県教育庁 県立学校教育課 特別支援教育室 富川盛章指導主事、関係機関の皆さま、そして、本研究会活動の牽引役として各学校の進路指導を支える常任委員、進路指導担当の皆さまに心から感謝を申し上げます。

令和7年3月

会長 古我知 博樹

(県立大平特別支援学校長)

令和6年度(2024)年度
沖縄県特別支援学校進路指導研究会報告書 第36号

目次

はじめに

I	令和6年度活動方針	1
II	令和6年度活動報告	2～3
III	令和6年度活動決算報告	4
IV	各学校の進路指導活動報告	
	沖縄盲学校	5～8
	沖縄ろう学校	9～12
	名護特別支援学校	13～16
	美咲特別支援学校	17～22
	センター分教室・美里高分教室	20～22
	はなさき支援学校	23～26
	大平特別支援学校・久米島高分教室	27～30
	那覇みらい支援学校	31～34
	島尻特別支援学校	35～38
	西崎特別支援学校	39～42
	宮古特別支援学校	43～46
	八重山特別支援学校	47～50
	沖縄高等特別支援学校	51～54
	陽明高等支援学校	55～58
	南風原高等支援学校	59～62
	中部農林高等支援学校	63～66
	やえせ高等支援学校	67～70
	桜野特別支援学校	71～74
	泡瀬特別支援学校	75～78
	鏡が丘特別支援学校	79～82
	那覇特別支援学校	83～86
	森川特別支援学校	87～90

資料編

- 1 沖縄県特別支援学校進路指導研究会 会則
- 2 令和6年度 役員・常任委員一覧
- 3 令和6年度 各学校の進路指導担当者一覧
- 4 令和6年度 各学校生徒数一覧(中・高等部)
- 5 第36回沖縄県特別支援学校「キャリア教育・就労支援発表会」関係資料
- 6 令和6年度 就業体験・体験入所・就業先一覧

I 令和6年度 活動方針

事務局校 大平特別支援学校

生徒の障害の状態及び能力、適正に応じた適切な進路の選択がなされるよう、次の方針に基づいて活動を行う。

- 1 研修の充実に努める
 - (1) 各学校進路指導担当者の連携体制の構築、情報交換の場の設定
 - (2) 各学校の課題に沿った講演内容の選定（生活の質の向上を目指したライフキャリア）
- 2 各学校の進路指導計画の充実にを図る
 - (1) 小・中・高等部一貫した進路指導體制作り
 - (2) 各学校の進路活動報告書の作成と活用
- 3 職場開拓の充実にを図る
 - (1) 生徒理解についての各職場への情報提供及び学校説明会・授業見学等の開催
 - (2) 関係機関と連携した職場開拓の推進
- 4 生徒の体験発表会、各学校のキャリア教育の取り組み報告等の開催
 - (1) 「第36回 キャリア教育・就労支援発表会」の開催
 - (2) 各学校のキャリア教育の取り組みの発信
 - (3) 一般企業、一般の方、地区の中学校など各関係諸機関への参加の呼びかけ強化
- 5 関係機関との連携、協力を図る
県教育庁県立学校教育課、県商工労働部（労働政策課）、生活福祉部（障害福祉課）、職業安定所及び沖縄障害者職業センター、地域就業・生活支援センター、福祉関係機関、中小企業家同友会、沖縄県教育委員会が主催する「沖縄県特別支援学校技能検定」との連携
- 6 進路指導研究会報告書の作成
沖特進研の活動概要、各学校の進路指導活動報告、キャリア教育・就労支援発表会原稿、各学校の就業・実習先リスト

Ⅱ 令和6年度 活動報告

1 本会の目的

- (1) 各教科以外の教育活動の内容等に関する学業生活及び進路選択決定に関する問題の検討及び解決
- (2) 卒業後のアフターケアに関する問題の検討及び解決

2 本会の事業

- (1) 進路指導の研究
- (2) 進路指導に関する情報の交換
- (3) アフターケアに関する情報の交換及びその取組
- (4) 関係諸団体との連携
- (5) 機関誌及び研究調査物の発行
- (6) 調査活動
- (7) その他この会の目的達成に必要な事項

3 本年度の活動

(1) 令和6年度総会・第1回研修会

期日 令和6年5月9日(木)

場所 沖縄県立大平特別支援学校

(オンライン会議)

① 総会

- ・令和5年度活動報告及び会計報告
- ・令和6年度活動方針及び活動計画案

② 研修会

・行政報告 県教育庁県立学校教育課 指導主事 富川盛章 氏

- 1) 自立を目指す特別支援教育環境整備事業及び特別支援教育の専門性向上事業(キャリア教育関係)
- 2) 就労支援コーディネーターの活用
- 3) 令和5年度の特別支援学校高等部卒業生の進路状況等の共有

(2) 第1回役員会・第2回研修会

期日 令和6年7月4日(木)

場所 沖縄県立大平特別支援学校

(オンライン会議)

① 役員会

- ・第36回キャリア教育・就労支援発表会について
- ・行政報告

② 研修会

講話：卒業後の自立に向けた学校との連携・障害者就労支援の事例

講師：特定非営利活動法人ミラソルセンター長 葛原 明美 氏

- 1) 卒業後の自立に向けた学校との連携・障害者就労支援の事例
- 2) 事業所の具体的な訓練内容、本校卒業生の就労支援の事例
- 3) 余暇活動の取組、就労選択支援、就労定着支援等の制度説明

(3) 第2回役員会・第3回研修会

期日 令和6年10月3日(木)

場所 沖縄県立大平特別支援学校

(オンライン会議)

① 役員会

- ・第36回沖縄県特別支援学校キャリア教育・就労支援発表会

② 研修会

講話：企業・社会とつながる福祉の仕組み

講師：社会福祉法人 若竹福祉会
社会就労センターさまさまサービス管理責任者 比嘉 里美 氏

- 1) 企業・社会とつながる福祉の仕組み

2) 事業所の具体的な訓練内容、就労支援の事例等、多機能型事業所の現状

3) 障害者就業・生活支援センターの就業面・生活面の支援方法等

(4) 第36回沖縄県特別支援学校キャリア教育・就労支援発表会

期日 令和6年12月5日(木)

場所 沖縄市民会館

午前：展示・販売の部

午後：発表の部

① 展示の部(10校)

・各学校のキャリア教育の取組内容や制作物の展示



② 焼き菓子販売(2校)

・島尻特別支援学校、陽明高等支援学校

③ 発表の部(9校)

・体験発表7校
・技能検定デモンストレーション1校
・学校取り組み報告1校



④ 概要

・体験発表は、各学校の代表生徒がスライドや動画を活用しながら発表を行った。

・中ホールの展示および販売、大ホールの発表等は、各学校の生徒が取組報告することで、生徒がより将来に対する意識を高めることができた。

・来場者は沖縄県内の特別支援教育の取組を知ることで障害者雇用について理解を深める機会になったと考える。

(5) 第3回役員会・第4回研修会

期日 令和7年2月6日(木)

場所 沖縄県立大平特別支援学校
(オンライン会議)

① 役員会

・キャリア教育・就労支援発表会について
・令和7年度沖特進研活動について
・行政報告

② 研修会

講話：「障害者就労および福祉の現状」

講師：トータルサポート商会

就労支援コーディネーター

翁長 克 氏

(6) 課題

① 沖縄県特別支援学校キャリア教育・就労支援発表会への一般参加者への告知方法等の工夫

② オンライン役員会での意見交換の限界

③ オンラインと参集の併用開催の検討、各学校の課題等を共有し、情報交換できる場としていく必要がある。

④ 各学校間および関係機関との連携と生徒の適性に応じた進路先の開拓

Ⅲ 令和6年度 活動決算報告（令和7年2月3日現在）

	当初予算案	執行状況
収入金額	427,311	427,323
支出金額	246,000	166,305
差引金額	182,111	261,018

収入の部

科目	今年度予算額	現在まで	増減	備考
1 分担金	163,500	163,500	0	100円×1,635人 高：1,102人 中：533人
2 預金利息	2	14	12	
補助金	100,000	100,000	0	沖縄県産業教育 振興会
3 繰越金	163,809	163,809	0	
合計	427,311	427,323	12	

※県の補助金は含んでいない。（会場設備利用料、手話通訳派遣費）

支出の部

科目	今年度予算額	今年度執行状況	備考
1 会議費	6,000	4,932	茶菓子等
2 消耗品	10,000	0	文房具等
3 通信費	10,000	3,336	郵送・切手
4 キャリア教育・ 就労支援発表会 費	140,000	135,787	会場使用料、図書カード、 花、弁当、飲み物等 ※会場設備利用料80,000円、 手話通訳3名分38,100円は県 教育委員会より支出
5 備品費	5,000	0	
6 印刷製本費	35,000		報告書作成費 ※3月
7 講師謝礼金	20,000	20,000	講師2名分（10,000×2）
8 IT関係機器費	5,000	0	PC周辺機器等
9 雑費	5,000	2,250円	高速代等
10 予備費	10,000	0	
合計	246,000	166,305	

進路指導活動報告書

沖縄県立沖縄盲学校

I. 進路目標

- 1 小・中・高一貫した進路指導の推進及び事業所見学、就業体験、職場開拓の充実を図る。
- 2 保護者、関係機関等と連携した進路選択及び決定に向けた取り組みを推進する。
- 3 高校や大学等進学希望者への受験指導及びあん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師の国家試験対策の充実を図る。

II. 活動報告

- 1 年間の主な活動（中：中学部、高普：高等部普通科、専：高等部専攻科）
 - 4月 進路相談週間(高普)、進路ガイダンス(専)
 - 5月 高齢者職場見学(専)、職場見学(専)
 - 6月 前期就業体験(高普2・3年)、校内実習(高普1年)、校内就業体験(中)、職場体験(専)
 - 7月 ハローワーク求職者登録(専)
 - 8月 福祉サービス事業所見学会、就業体験(専)、後期国家試験対策(専)
 - 9月 九州地区盲学校進路指導等研究協議会、後期就業体験(高普3年)
進路講話(寄宿舎)、ヘルスキーパー見学(専)
 - 11月 模擬試験(専)、
 - 12月 就業体験(専)、スキルアップセミナー(専)、キャリア教育・就労支援発表会(高普)
 - 1月 ベネッセ実力診断テスト(高普)
 - 2月 国家試験受験(専3年)、スキルアップセミナー(専、高普)
 - 3月 進路講話(中学部) 国家試験合格発表(専)、進路先への引き継ぎ(高普)

2 小学部の取り組み

(1) 中学部体験入学(対象：小学6年生)

1月8日に小学部6年生の2人が、中学部の「体験入学」に参加しました。体育・数学・社会・英語などの学習を、それぞれの教室で先輩方と一緒に学習しました。小学部は学級担任制なので朝の登校時から帰りの下校まで、ほとんど同じ先生方と一緒にですが、中学部になると教科担任制になるため、教科ごとに学習する先生も変わります。毎時間変わる授業担当の先生方に小学部とは大きな違いを感じたと思います。6年生の二人は、いつもとは違う環境の中で緊張しながらも楽しく授業に参加し、給食の時間まで共に過ごし、体験入学を終えていました。中学部での学習を終え、小学部に戻ってきた二人は緊張も抜けホッとした表情でした。その様子から「体験入学頑張ってきたよ」という二人の頑張りが伝わってきました。この体験入学を通して、中学部での学習形態や進級することに対するイメージが持てたと思います。

(2) お仕事体験(対象：小学6年1組)

2月19日にラジオ沖縄へ仕事見学に行ってきました。車の移動中よくラジオ番組を聞き楽しんでいたり生徒会の取り組みを通してラジオ局の仕事に強く興味を持ったことが今回の見学のきっかけとなりました。実際の仕事見学では、アナウンサーの方からラジオ沖縄の5つの部署(放送部・技術部・制作部・営業部・総務部)について分かりやすく説明を受け、その一つ一つの部署を回り、仕事の様子を見学させていただきました。ラジオ局にはアナウンサーやラジオパーソナリティーだけでなく、多くの人が一つ一つのラジオ番組を支えるために仕事をしていることが分かりました。仕事見学の最後には、積極的に質問をして、その答えを真剣に聴く生徒の表情がとても印象的でした。今回の見学を通して、将来の進路選択を考えるきっかけとなり、とても充実した時間となりました。

3 中学部の取り組み

(1) 校内就業体験学習（対象：中学部全生徒）

内容：あんま実技体験、マッサージ実技体験、解剖学学習、ポチ袋の制作、スリッパ清掃、リサイクル活動、音楽的活動、体育的活動

生徒の様子：就業体験を終えての感想では「就業体験であんま実技体験とマッサージの実技体験をして、あんまとマッサージの違いがよく分かった。体験してみてとても気持ちよかった。施術の仕方を習い、初めてだったけどどうまく出来て嬉しかった。」などの声が聞かれた。また全体を通して、みんなと共同して働く意識を持つことができ、喜びや達成感を味わう良い機会となった。

(2) 進路講演会（対象：中学部1・2組）

講師：比嘉信子氏（NPO 法人 沖縄福祉教育研究会会長）

高等部普通科、高等部専攻科の生徒と一緒に、本校卒業生の比嘉信子氏の講話に参加した。本校に在籍していた頃の話やその後の進路、経験してきた仕事について、講師のキャリアストーリーを聞くことができた。講師の、様々な困難にも立ち向かっていく姿や、常に状況をポジティブに捉えていく考え方を聞くことで、自身の学校生活の過ごし方や卒業までになりたい自分の姿、更には高等部卒業後の進路についても考える、良い機会となった。

4 高等部（普通科）の取り組み

(1) 校内実習

進路に対する意識や関心を高め、進路選択の可能性を増やすため、1年生を対象に5日間、校内実習を行った。準ずる教育課程を受けている生徒は、普段の生活の中で働く体験をする機会が少ないため、鉢植えや小物を作って販売する活動を通して、ものを作る楽しさや難しさを体感したり、お客様とのやりとりや売上高、利益の計算等を学んだりするよい機会となった。その他の生徒に関しても、リサイクルや清掃、余暇活動等、来年度の校外での実習を想定した活動を行い、個々の適性や課題を見いだすきっかけとなった。

(2) 就業体験

2年生はⅠ課程前期3日間、Ⅱ課程前期5日間、3年生はⅡ課程前期・後期各5日間とそれぞれ就業体験を実施した。本校は生徒の居住地が県内全域と広いため、他校の進路指導部の先生や相談事業所の計画相談員さんより情報を提供していただきながら、個々の希望に合った体験先を選定した。将来の進路に直結する体験先を希望する生徒もいれば、自分たちの知らない世界を体験してみたいと興味のある業種や憧れの職業などを選ぶ生徒もおり、その職種の具体的な仕事内容を知ること、社会のしくみを理解し、自分の視野や見聞を広める機会になった。

(3) 福祉サービス事業所見学会

夏休みに本校の保護者及び職員を対象に実施し、約25名余りが参加した。

①ハートフルユニオン【就労継続支援A型・就労継続支援B型】

②社会就労センター わかたけ【就労継続支援B型・生活介護】

③社会就労センター さまさま【就労継続支援B型】

④自立サポートセンター みらそる【就労移行支援】

⑤わっくわーく【生活介護】

全学部の保護者と職員を対象に実施した。参加した保護者からは「それぞれ事業所の雰囲気なども違って、実際に見ることが大事だと感じた。今後は自分たちでも気になる事業所は直接見学してみようと思った」という感想があった。また小学部や寄宿舎、専攻科の職員から「子ども達が社会の中で生活していくイメージができた。これから生徒と関わるときの意識が変わった」など、参加して良かったという声が多くあった。保護者と職員が一緒になって、幼児児童生徒の将来について考える場となった。

5 高等部（専攻科）の取り組み

1. 職場見学（1、2年生）

見学先：①ゆい鍼灸整骨院（保健医療科）、②しゃことんすはりきゅういん（理療科）、
③リハビリ型デイサービス息吹、④SCSK サービスウェア株式会社

生徒の感想：

- ・職場見学を終えて感じて事は、障害者の雇用に対して前向きに取り組まれていてとても共感しました。先輩に教えて頂いた事を今後生かして生きたいです。
- ・ヘルスキーパーがどのような仕事をしているのか、業務を効率的に行う工夫、利用者を増やすための広告方法など様々に学ぶ事ができました。改めて自分自身の進路を考える良い機会となりました。

2. 就業体験（3年生）

体験先：①ライオンハート ②光文堂コミュニケーションズ株式会社
③とも治療院 ④みんなの治療院 大翔 ⑤琉球銀行 本店

生徒の感想：

- ・利用者の男女比率は男性がほとんどでまだまだ利用者の開拓に余地があると感じた。予約がない時間は技術を高める学びや、ストレッチ指導や生活習慣指導を行いヘルスキーパーの利用に繋げているのが印象的でした。施術時間が一枠20分なので、学校で学んでいる技術から利用者の要望に応えられる様に日々意識して学ぼうと意欲が増しました。
- ・利用者への施術方針は鍼を中心に治療するか、あん摩・指圧にモビライゼーションを組み合わせ治療を行うか、患者に合わせて決めている。ヘルスキーパーになった後の方が技術を磨くために学生時代より練習する、新しい知識を得ることに貪欲になったと伺って、有資格者になってからがスタートだと感じて頑張ろうと思いました。

3. 特別支援学校就業支援キャンペーン

9月に県庁にてヘルスキーパー体験会を行った。約27名の県庁職員、来庁者に対し、施術し、加えて各部署にチラシ配りも実施。盲学校専攻科や、あはき免許、視覚障害者の職業選択についてなど広く知って頂く活動を行った。

4. スキルアップセミナー

(1) 堀 昌弘 堀治療院院長（和歌山県）

例年は専攻科3年生を対象に行うが、今年度は1、2年生も含めて実施した。医療の側面に加え、サービス業の側面についてお話いただき、商売の厳しさ・患者に信頼される説明能力やコミュニケーション、幅広い施術力の重要性を知るよい機会となった。また、本校卒業生が障害者職業生活相談員として活躍し、会社経営に貢献している様子を聞いた生徒達は刺激を受けている様子だった。

(2) 小那覇りな オフィスキャリアール代表（沖縄県）

本来は専攻科を対象とするがテーマがマナーに関わる為、今年度は普通科学生も対象に実施した。各地でビジネスマナー研修の講師として活躍されている講師より①マナーとは、コミュニケーションとは、③第一印象の重要性、④接遇とは、接遇の心構え、⑤感じの良い言葉づかい、⑥電話対応の基礎などをご教授いただいた。参加した生徒達は、研修当初緊張した面持ちであったが、研修修了後には笑顔で自信に満ちあふれた表情をしていた。

6 寄宿舎の取り組み

先輩の講話（9月 対象生徒：寄宿舎生全員）

(1) 講話の内容、講師について

社会で活躍する先輩の体験を聞く事で自分の将来について考える機会とし、今後の学校生

活の充実や社会的視野を広げる事へ繋げ、進学や就労に関する情報提供の機会として実施している。今年度は、本校の専攻科卒業生を講師として招聘し、ヘルスキーパーとして勤務している事を中心に講話をしていただいた。

(2) 寄宿舎生の感想

- ・メリハリをつけて勉強する事の大切さを知った。あん摩師の仕事は、お客さんの体を触る時の声かけが大事だと学んだ。
- ・援助依頼の大切さと学習のコツを学びました。相手に、自分がこういうことができないというのを伝えていないと、相手にも迷惑がかかることがあると言うのを聞いて、自分は今まで遠慮して言えなかった時もあるけど、言えるようにしていきたいと思いました。

Ⅲ. 進路決定状況（令和7年3月1日現在）

	事業所名など	職 種	人数	
普通科	生活介護事業所クローバーラビット	生活介護	1名	内定
	医療型ショートステイさくら 生活介護支援事業所 そらいろ	生活介護	1名	内定
専攻科	福岡高等視覚特別支援学校 専攻科研修科	進学	1名	内定
	就労（県内）	未定	3名	予定

Ⅳ. 成果と課題

[成果]

1. 児童の実態に応じた進路学習を設定し、実践することができた。（小中学部）
2. 生徒の居住範囲が広い中、関係機関と連携し、生徒一人一人の実態や保護者の要望に合った就業体験先や進路先を見つけることができた。（普通科）
3. 福祉サービス事業所見学会では、実際の活動の様子やサービスの内容について知り、児童生徒の進路について、保護者と学校が共に考える機会となった。（普通科）
4. 九州地区盲学校進路指導等研究協議会へ参加し、各学校の取り組みや進路状況について貴重な情報の交換及び課題等の共有を行うことができた。令和8年度の九盲進県運営に向けて、資料作成方法や会の進め方などを知ることができた（高等部）。
5. 進路講話やスキルアップセミナーなど、外部の講師を招いて研修する場面では、学部を問わず一緒に学ぶ機会を設定することができた。（高等部）
6. 職場見学、就業体験、講話を通して、あはき師としての自覚を促し、経験を積むことができた。また、卒業後の具体的なキャリアイメージに繋げることができた。（専攻科）
7. 積極的に校外での活動を行い、視覚障害者の就業に対する啓発、進路開拓を行うことができた。（高等部）

[課題]

1. 在籍している生徒の居住範囲が広いため、進路先及び就業体験先の新規開拓や関係機関との連携については、今後も継続して取り組んでいく必要がある。（高等部）
2. 福祉サービス事業所見学については、保護者の参加希望者を増やすため、実施時期や方法について、他校の実施状況についても情報を集めながら計画していきたい。（高等部）
3. あはき国家試験については、在校生の受験対策をより一層強化し、既卒生で不合格者の再受験に向けた支援体制を構築していきたい。（専攻科）
4. 引き続き進路先及び就業体験先の新規開拓を実施し、既卒生の就職先への定着を支援していきたい。（専攻科）

進路指導活動報告

沖縄県立沖縄ろう学校

I 進路目標

1 学校の教育目標

聴覚に障害のある幼児児童生徒の持てる力を最大限に伸ばし、生きる力を育み、自立し社会参加できる人間を育成する。

2 学校の教育目標を達成するための方針

- (1) 教師自らが人権意識を強く持ち、幼児児童生徒一人一人を大切にし、豊かな人間性を育む教育活動を行う。
- (2) 「個別の教育支援計画」及び「個別の指導計画」を活用して、一貫性のある「計画・指導・評価」の一体化を図り、一人一人の教育的ニーズに基づく教育実践を行う。
- (3) 学校の教育活動全体で、幼児児童生徒の日本語力及び学力を高める指導を行う。
- (4) 職員一人一人が、手話に関する知識と技能の向上に努め、多様な視覚情報を活用して学び残しのない「わかる授業」を行う。
- (5) 一人一人の生活的・社会的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度を育み、キャリア発達を促す「キャリア教育」を実践する。
- (6) 集団での活動や生活を通して、人間相互の関係や規律を理解させ、豊かな心を育む指導の充実を図る。
- (7) 健康でたくましい体づくりを目指すため、自ら体力づくりに励む態度を養う。
- (8) 生活的・社会的・職業的自立に必要な生活習慣やマナー（身辺整理や清潔な身なり、時間励行、報・連・相）などの習慣習得を目指す寄宿舎教育を行う。
- (9) 幼児児童生徒一人一人が、自己肯定感及び自己有用感の高揚を促し、自信を生み出す指導を行う。
- (10) 自己理解及び他者理解を促し、人間関係形成能力の発達を目指すとともに社会で生きていく力の育成を図る。

3 本年度の重点目標

- (1) 一人一人の社会的・生活的・職業的自立に向けて必要な日本語力やコミュニケーション力、「生きる力」の基盤となる能力や態度を育み、キャリア発達を促す「キャリア教育」を実践する。
- (2) 「わかる授業」を目指した指導の工夫改善により基礎学力の定着を図る。（基礎的基本的事項の徹底、概念の形成、国語力の推進、ICT 機器等の活用）
- (3) 発達段階及び生活年齢に応じたキャリア教育の充実と個のニーズに応じた進路指導の充実に努める。
- (4) 職員一人一人が、聴覚障害教育の専門性を高め、幼児児童生徒一人一人を大切にして豊かな人間性を育む教育活動を行うとともに、県に1校の聴覚障害教育のセンター校としての役割を発揮する。（教育相談、通級指導、関係機関との連携等）
- (5) 感染症防止対策を含めた安全教育の推進と安全管理体制の構築を徹底する。（学校医、バス、給食等委託業者との連携を含む）

- (6) 個別の指導計画を踏まえた PDCA サイクルの構築により、学習計画・評価や教育課程編成へ繋がるカリキュラム・マネジメントを推進する。
- (7) 学校教育を通して身に付けた資質・能力を活用し、生涯にわたって豊かな人生を送ることができるよう生涯学習への意欲を高める。

4 各学部の進路指導

(1) 幼稚部

- ① 身近な人や友だちに親しみをもって、あいさつをかわすことができる。
- ② いろいろな活動を通して経験を広げ、好奇心や探究心をもって主体的に関わろうとする意欲を持つ。
- ③ 自分には補聴器等が必要なことがわかり、大切に扱うことができる。

(2) 小学部

- ① 自己の抱える学習や社会生活上の困難について理解し、自立や社会参加に向けて持てる力を高める。
- ② 夢や希望を持ち、自分の好きなことや得意なことを見つけようとする態度を養う。
- ③ 係活動等を通して、集団の一員として自分の役割を果たすために主体的に考えて行動することができる。

(3) 中学部

- ① 個別の教育支援計画をもとに、キャリアパスポート等を活用しながら、生徒の実態について職員全体で共通理解を深める。
- ② 自己の進路について主体的意欲的に考える力を育むため、勤労・職業観を養う指導の充実に努める。
- ③ 希望進路等の把握に努め、個々の能力や適正に応じた情報提供に努めるとともに、生徒の情報活用能力を高める。
- ④ 就業体験及び事前・事後学習を通して、目標の明確化・評価・振り返りにより自己理解を深め、課題対応能力を高める。
- ⑤ 働く人の権利やルール（法や規制）を学ぶ「ワークルール教育」の充実に努める。

(4) 高等部

- ① 目的意識を持ち、自分で考え、計画し、行動に移し、様々な人々と協同して社会を支えることのできる能力・態度を養う。
- ② 生徒一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく事（キャリア発達）を促す。
- ③ キャリア教育の全体計画・年間指導計画を作成し、それらは教育活動全体を通して、組織的及び系統的に行われる。
- ④ 生徒たちの実態を踏まえてキャリア教育の目標を設定し、教科横断的な視点で教育の内容を組織的に配列して教育課程を編成し、それを実践・評価し改善を図っていく。
- ⑤ 教育活動全体を通して「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」をもとにした個々の障害の状態に応じたきめ細かい指導・支援を行う。
- ⑥ キャリア教育で育成すべき能力（人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力）の向上を推進する。
- ⑦ 就業体験実習をキャリア教育の重要な取り組みとして位置づける。
- ⑧ 授業展開の中にキャリア教育としての価値が潜んでいる場合に、その価値を見だし、学校の学びと社会とのつながりの意識を促す。
- ⑨ 要としての特別活動でバラバラに行っている活動をつなぎ、振り返ったり、見通したりする活動をキャリアパスポートによって積み重ねていくように、教師が対話的に関わり指導する。またそれにより生徒は自己理解を教師は生徒理解を深めていく。
- ⑩ 聴覚障害者が事業所で直面しがちなコミュニケーションに関する課題について教育活動全体を通して指導する。

II 活動報告

1 全体の取り組み（小中高）

学期	月	活 動 内 容
1 学 期	4	<ul style="list-style-type: none"> ・進路希望調査 ・進路+キャリアパスポートに関する授業
	5	<ul style="list-style-type: none"> ・四者面談 ・抽出実習 1 ・前期実習 生徒オリエンテーション・保護者説明会 (株)トヨタ紡織との懇談会（中高）
	6	<ul style="list-style-type: none"> ・前期実習 生徒事業所面談 ・前期実習[9日間] ・就職ガイダンス（中）
	7	<ul style="list-style-type: none"> ・前期実習 事後学習 ・四者面談 県外就業体験(株)トヨタ車体 ・県外職場見学（(株)Suzuki） ・就職ガイダンス（高）
	8	<ul style="list-style-type: none"> ・ハローワーク求職登録、地区就業・生活支援センターへの登録（一般就労希望の3年生） ・就労移行支事業所によるアセスメント（福祉就労見込みの3年生） ・お仕事体験（小）
2 学 期	9	<ul style="list-style-type: none"> ・抽出実習 2 ・(株)デンソー会社見学会 ・抽出実習 3
	10	<ul style="list-style-type: none"> ・抽出実習 4 ・後期実習 生徒事業所面談 ・後期実習 生徒オリエンテーション ・後期実習[9日間] ・後期実習 事後学習 ・実習報告会リハーサル
	12	<ul style="list-style-type: none"> ・抽出実習 5 ・幼稚部講話（保護者） ・「受給者証」取得手続き開始（卒業時に福祉利用希望の3年生） ・四者面談 ・実習報告会
3 学 期	2	<ul style="list-style-type: none"> ・就職手続き（3年：ハローワーク氏名求人票、最終面接） ・未来の語り場（株）富士通 中高 ・校外学習（お仕事インタビュー）中
	3	<ul style="list-style-type: none"> ・四者面談（1、2年生のみ）
年間		職場開拓、キャリアパスポートの取り組み 進路便り発行、資格取得に関すること、沖特進研関連、研修会や学習会への参加 卒業生の追指導、卒業生動向に関する報告（ハローワーク沖縄や県）

2 就業体験について (高)

(1) 時期：前期 (6月) 後期 (10月) ※各2週間

(2) 対象：2年～3年 (全学年)

	前期 (在籍4名)	後期 (在籍4名)
①	アイセック・ジャパン	サンエー v21 食品館照屋店
②	中部徳洲会病院	J0eB テック
③	測商	cotonowa
④	就労サポートセンターミラソル	自立サポートセンターみらそる
⑤	コープ沖縄 (心耕部B型)	

抽出実習 3名参加

	事業所	期間
①	具志川メインシティ	2週間 (5月)
②	沖縄ヤクルト株式会社	4日間 (夏休み)、2日間 (9月)
③	就労サポートセンターミラソル	4日間 (夏休み)
④	トヨタ車体株式会社	2日間 (6月)、3日間 (7月)
⑤	アチェンドぎのわん	5日間 (6月)

Ⅲ 進路決定状況

進路先	人数	備考 (サービスの種類、他)
沖縄ヤクルト株式会社	1	一般就労
トヨタ車体株式会社	1	一般就労

Ⅳ 成果と課題

1 成果

- (1) 年間2回の実習、5回の抽出実習を実施。三者面談や実習後に面談を行い丁寧に進路先を検討することができた。進路決定の進まない生徒の進路決定に繋げることができた。(高)
- (2) 外部機関 (ハローワーク、地区就業・生活支援センター等) と連絡会や連携を通して進路指導の充実を図ることができた。(高)
- (3) 職場開拓を積極的に行うことで、聴覚障害者についての理解を得ることができ、一般就労へとつなげることができた (高)。
- (3) 中高連携して外部との懇談会を実施し、生徒の意識向上へのつなげることができた。(中高)
- (4) 進路便りや体験授業等での進路講話を通して中高の進路指導の取り組みや卒業生の様子を紹介することができた。(中高)

2 課題

- (1) 校内の職業班との連携強化が重要であるが、なかなか連携できなかった。連携できる組織体制作りが課題である。(高)
- (2) 県外へ就職を希望する生徒がいるが、情報が不足しており今後の職場開拓の方法について検討が必要である。(高)
- (3) 卒業後の障害者福祉サービス利用に関して、市町村ごとのサービスの流れが異なっているため、情報交換する場が必要である。(中高)

進路指導活動報告

沖縄県立名護特別支援学校

I 進路目標

1 本校の教育目標

児童生徒の生命と人権を守るとともに、学習指導要領等の関係法令を遵守し

- (1) 各学部段階の教育内容の履修を基本に、学年間・学部間の学びの円滑な接続を図る
- (2) 生活年齢に即した指導の徹底（各教科等による多様な学び・豊かな生活経験）及び、障害特性等に応じた教育の充実（自立活動の重視）を図る。
- (3) 道徳・特別活動等を中心に職業生活・家庭生活等に必要な生きる力の育成、主体的・自主的に判断・選択する力の育成を通して、自律し社会参加・貢献出来る人間の育成を目指す。

2 本年度の重点目標（進路指導に関する部分のみ抜粋）

【幼児児童生徒の進路指導の充実・強化】

- (1) 幼稚部から高等部を通して将来の家庭生活や社会生活につながる系統性のあるキャリア教育
- (2) 進路指導体制の充実強化（進路指導部と学部・学級との連携、進路便りの定期発行による進路情報提供の充実、職場開拓と現場実習の充実、卒業生の追指導）
- (3) 幼児児童生徒の興味・関心、能力・適性、進路希望等の把握（継続的な進路希望調査）
- (4) 高等部入学時からの進路指導の充実・強化（進路相談の充実、卒業時の進路決定 100% 目標）
- (5) 特別活動及び特別の教科道徳を要としつつ各教科等の特質に応じたキャリア教育の充実（学ぶことと自己の将来とのつながりを見通すことのできる指導の工夫）

II 活動報告

1 小学部

小学部では、将来の日常生活及び社会的自立に向け、家庭や地域と連携しながら、各教科等の特質に応じた取り組みを実施した。

学校生活を通し、排泄、衣服の着脱、食事などの生活習慣の形成を目指し、一人一人の発達段階や生活年齢に応じた取り組みを行った。排泄や衣服の着脱等においては手順を示したカードを活用し、繰り返し行うことで定着を図れるよう取り組んだ。食事においては栄養士と連携し、噛むことを意識できるよう指導を行い、家庭と共有することで定着を図れるよう取り組んだ。

将来に向けた社会性や人間性を育むことを目的に、地域の小学校や高等専門学校との交流及び共同学習を実施した。地域の小学校との交流会では、同学年または異学年の児童と一緒に活動を行うことで、楽しみながらコミュニケーションを取る様子が見られた。また、高等専門学校との交流では、一緒に畑の土作りを行うことを通し、分からないことを積極的に質問する児童の様子が見られた。

児童の実生活と結び付けた校外学習を積極的に実施した。地域の公共施設への校外学習を通し、交通ルールや公共交通機関の利用方法等を学習することができた。また、様々な場所で働く人を見ることで、児童自身が将来や職業について興味を持てるよう校外学習に取り組んだ。

毎学期の始めと終わりにキャリアパスポートを活用し、児童それぞれが頑張りたいことや達成したことを考え、振り返りを実施した。児童自身が自分の成長を実感できる取り組みとなっている。

今後も、小学部段階からキャリア教育の視点を持ち、地域や家庭と連携しながら、様々な活用に取り組みたい。



2 中学部

中学部では、幼小部で培った基本的な生活習慣を基に、生徒の実態に応じた継続的な指導に加え、職業・家庭、学級活動（係活動や清掃）など、その過程で働く喜びや働くことの大切さを学び、将来の就労に向けたルールやマナーなどを身につけることを目的に、より発展的な取り組みを行っている。進路学習の一環として行われている校内実習や販売・買い物学習等では、生活経験の拡大を図り、働くことへの意欲の向上と自ら進路について具体的に考える機会としている。また、将来の進路を見据え、特に希望する生徒に対しては、路線バスなどの公共交通機関の利用を含めた自力通学指導を行っている。今後も高等部で行う就業体験や卒業後の進路を見据え、必要な基礎的な力の習得へ向け、継続的、発展的に取り組んでいきたい。

【活動の実際】

- ① 校内実習…木工班、家庭班、農園班に分かれ、5日間の実習を通して、以下の目標について学んだ。

- ・社会で必要な挨拶や返事などの礼儀作法を学ぶ。
- ・時間や実習中のきまりを守ることができる。
- ・作業へ関心を持ち、最後まで努力する気持ちを持つ。
- ・自ら進んで行動し、協力する力を育む。



- ② 自力通学指導…今年度は高等支援学校への進学を目指している3年生1名に対して実施し、路線バスと徒歩で学校から家まで帰宅する方法を学んだ。



3 高等部

高等部では、社会参加に向けて産業現場等における実習や校内実習を中心に校外学習（事業所見学・買い物・余暇体験）や販売学習、地域交流を行っている。また、生徒や保護者向けに外部関係機関と連携した学習会や卒業生による進路講話等の職業教育・進路指導の取り組みを行っている。加えて、保護者・生徒による職場見学や実習の評価をもとに行う四者面談を通して、生徒の適性や希望に応じた進路決定ができるよう努めている。

今年度は、デュアルシステム（地域企業と連携した実践型の授業）の協力先に名護市役所が加わり、計5ヶ所となった。在学中に継続して経験できる職種が増え、職業選択の機会を広げることができた。デュアルシステムでは、昨年度から普通コースの生徒へも対象を拡大し、今年度は産業コースの10名（1～3年）に加え、普通コースから1名（3年）が参加した。

（1）年間の主な取り組み

月	取り組み・活動内容
4	前期実習職場開拓 進路オリエンテーション(生徒)、進路の手引き配布(保護者・職員)
5	進路希望調査実施（※年間通して面談前後に適宜） 卒業生追跡調査 前期実習保護者説明会 学習会：保護者「児童生徒の将来を考える～家庭で出来る事～」 生徒・保護者(一般就労希望)「職業選択について」 ちゅらマナー週間（実習前1週間） 前期実習（5/27～6/7）
6	実習体験報告会

7	前期実習評価による四者面談（実態把握と後期実習の検討）
8	卒業生定着支援、後期実習職場開拓、ハローワーク、就業・生活支援センターへの登録
9	卒業生進路講話
10	後期実習保護者説明会 学習会：保護者「卒後のサービス利用について」 生徒（一般就労希望）「企業で働くことについて考えよう」 ちゅらマナー週間（実習前1週間） 後期実習（10/21～11/1）
11	実習体験報告会 後期実習の評価による四者面談
12	（1・2年生次年度に向けて実習先検討、3年生進路決定）
1	一般就労・福祉サービス利用者の手続き開始 次年度前期実習職場開拓
2	抽出実習（3年生一般就労対象者） 一般就労者の雇用契約までの支援（ハローワーク・ナカポツと連携）
3	四者面談（1・2年生：次年度実習先の確認、3年生：卒業後の進路確認、個別の移行支援計画の確認）、 次年度前期実習職場開拓、新入生オリエンテーション（保護者への説明）

4 寄宿舎

寄宿舎では、「将来の自立や社会参加に向けて起床、着替え、洗面、食事、入浴、就寝等の基本的な生活習慣とリズムを身につける」ことを目標に各種活動に取り組んでいる。

(1) 自立・社会参加に向けた主な活動

① 模擬買い物学習

月に1度のペースで寄宿舎内にお店を開店し、模擬買い物学習を行う『だがしやさん』を実施。生徒たちはこの活動を通して、金銭感覚や貯金について楽しく学んでいる。

② 『だがしやさん』でのアルバイト体験

履歴書作成の指導・・・ポスター等でアルバイト希望者を募り、履歴書を作成する。基本事項以外にも独自に、自己PR、希望職種、できる計算、希望給料についての記入項目あり



高専名称	自己PR/アピールポイントなど
応募職種	希望する職種にのりをつけてください
希望給料（おこづかい）	レジ ・ ゲーム ・ 飲み物 ・ 服
計算能力	※できる項目にのりをつけてください
	・ 足し算 ・ 引き算 ・ かけ算 ・ わり算
希望給料（おこづかい）	200 円
本人無記入欄	（特に得意・得意、その他についての希望などがあれば記入）

A	給料UP↑ 項目	A	B	C
	計算間違いが少ない	50円	30円	10円
	言葉遣いがいい			
	あいさつ・笑顔			
	お金の渡し方、受け取り方が上手			
	わからないことを自分から質問できる			
B	給料DOWN↓ 項目	-30円		
	持ち場から離れる(レジからいなくなる)			
	インチキやズルをする(お金や商品を盗むなど)			
	マイナス発言や暴言			
500円+A		円-B	円	
= 合計		円		

バイト	おつかれさまでした!
やってよかったこと	
うしろなら もっと 楽しかったこと	
やりたかったこと	
やりたかったこと	

面接と選考・・・不採用は次回の応募で対応
 ウ バイトミーティング・・・担当の係を決定し、値札作成や貼付の事前準備や会場と物品準備
 エ アルバイト体験(30～40分)・・・軌道に乗るまでは職員がサポートし、徐々に振る舞いや進め方は主体性に任せる
 オ 給料チェックシートの記入・・・仕事ぶりから給料UP項目と給料DOWN項目をチェック
 カ 給料の支給・・・チェックシートを活用して仕事の振り返りを行い、給料の査定、支給する
 キ 感想の記入

③ チャレンジルーム、洗車アルバイト体験

④ 学習会（体と心の学習会、歯磨き学習会、手洗い学習会、スマホ学習会、高3学習会）

さまざまな活動の中で、健康に生活していくための学びや、将来の就労へ向けた実践と就労意欲の向上につながるよう取り組んでおり、高等部卒業後の生活をイメージしながら、寄宿舎でできる就労に繋がる体験を模索中。これからも、社会の流れに合った、支援をしていきたい。

Ⅲ 進路決定状況（令和7年3月1現在）

1 進路状況（分類別）

一般就労	訓練等サービス利用				生活介護	進学	その他			計
	就労移行支援	継続支援 A型	継続支援 B型	自立訓練			入院	在宅	未定	
7名	1名	0名	8名	0名	3名	2名	0名	0名	1名	21名

※1名就労と進学を両立

2 卒業生の進路先（人数）

分類	事業所名	
一般就労	<ul style="list-style-type: none"> ・ホテルゆがふいんおきなわ(1) ・特別養護老人ホームでいご園(1) ・ゆめじん有限会社(1) ・タウンプラザかねひで なんぐすく桜市場(1) ・名護市役所(1) ・まほろば保育園(1) ・ぴっぴ学童クラブ(1) 	
進学	<ul style="list-style-type: none"> ・サイテクカレッジ美浜校 IT総合学科(1) ・小田原短期大学 保育学科 通信課程(1) 	
福祉サービス	就労移行	<ul style="list-style-type: none"> ・就労支援事業所ゆいまーる(1)
	就労継続 B型	<ul style="list-style-type: none"> ・就労継続支援 B型事業所 大夢(1) ・福祉サービス事業所のびる(1) ・ワーキングサポート アニマート宜野座(2) ・障害者福祉サービス事業所かけはし(4)
	生活介護	<ul style="list-style-type: none"> ・自立サポートセンター クローバー(1) ・障がい者支援施設かふう(1) ・デイサービスセンターどりーむ(1)

Ⅳ 成果と課題

1 成果

- (1) 新年度早くからの外部講師の活用により、生徒・保護者共に就労への意識付けをはかることができた。
- (2) 進学希望の生徒に対して、志望先と必要な書類の準備や成績の証明の仕方など綿密に確認をすることで進学につなげることができた。また、給付型の奨学金制度を活用することができた。
- (3) 次年度からの新たな取り組みとして、医療法人タピック宮里病院と「職業に係る教科及び就業体験等に関する協力協定」を締結することができた。

2 課題

- (1) 3学年の進路決定段階において、企業の経営状況、従業員の入れ替わりに起因する採用の見送りがあった。不採用時の代替案を用意しながらも、早い段階から、現場従業員と採用担当者との綿密な確認をしておく必要がある。
- (2) 新制度「就労選択支援」に関しての保護者・職員への周知と制度の理解を深めるための学習会を複数回設定していく必要がある。
- (3) 次年度は、医療法人タピック宮里病院との協定運用の初年度として、教育活動への効果的な活用を模索していく必要がある。

進路指導活動報告書

沖縄県立美咲特別支援学校

I 進路目標

1 指導方針

進路指導については、全職員がその意義と重要性を共通理解し、幼・小・中・高を通じ、計画的で一貫した指導を行う。

- (1) 一人一人の能力、適正を把握し、進路情報、資料のもとに適切な指導を行う。
- (2) 家庭や地域社会及び関係諸機関（相談支援事業所、ハローワーク、障害職業センター、就業・生活支援機関等）との連携を密接にし、職場開拓の強化を図る。
- (3) 校内における実習、産業現場等における実習、職場見学等の体験学習を通して社会自立、職業自立の意識を高める。

II 活動報告

1 全体の取り組み

月	活 動 内 容	学部
4	(1)「進路の手引き」配付 (2)進路希望調査、実習先確認 (3)前期就業体験先依頼 (4)追指導①採用1週目(対象：令和5年度卒)	全学部 高1～3 高2・3 R5卒業生
5	(1)前期就業体験事前学習 ちゅらマナー週間、就業体験前の心構え、実習先発表 (2)前期就業体験保護者説明会 ①前期実習(校内・校外)についての説明 ②令和5年度進路状況、進路の手引き説明 (3)前期就業体験 5/22(月)～6/2(金) 後期就業体験事後学習、報告会 (4)卒業生追跡調査(対象：令和3年～5年度卒) (5)追指導②採用1ヶ月(対象：令和5年度卒)	高1～3 高保護者 高1～3 卒業生 R5卒業生
6	(1)前期就業体験事後学習・報告会 (2)四者面談(※高等部は全学年、進路担当も同席)	高1～3 全学部
7	(1)進路学習会① 「自己理解と履歴書作成のポイント」 講師：ハローワーク沖縄 津波古みゆき氏 (2)追指導③採用3ヶ月(対象：令和5年度卒)	企業対象生徒 R5卒業生
8	(1)ハローワーク及び就業・生活支援センター登録 (2)後期就業体験先依頼	高3対象生徒 高2・3
9	(1)進路学習会② 「卒業生講話(令和5年度卒業生3名)」 (2)進路学習会③ 「面接のポイント」 講師：ハローワーク沖縄 津波古みゆき氏 (3)進路学習会お仕事発見フェア参加 (4)施設見学(中学部)	高1～3 企業対象生徒 高1・2抽出 中2
10	(1)後期就業体験事前学習 ちゅらマナー週間、就業体験前の心構え、実習先発表 (2)後期就業体験保護者説明会 ①「行政ガイダンス」うるま市・沖縄市・読谷村の福祉課 ②後期実習(校内・校外)についての説明 (3)後期就業体験(校内・現場実習)10/15(火)～10/25(金) 後期就業体験事後学習、報告会 (4)初任者研修講話(対象：初任者) (5)校内実習(中学部) 校内実習見学	高1～3 高保護者 高1～3 進路担当 中1～3 小6

	(6)施設見学(中学部) (7)追指導④採用半年(対象：令和5年度卒)	中1・3 R5卒業生
11	(1)四者面談(全学年実施 *高等部全学年、進路担当も同席)	全学部
12	(1)抽出実習(高3年 進路先未決定者) (2)進路学習会④ 「履歴書の書き方」講師：ハローワーク沖縄 津波古みゆき氏 (3)卒業生企業就職予定生徒履歴書作成 (4)第35回キャリア教育・就労支援発表会 (5)福祉サービス利用予定者 利用申請開始 (6)個別の移行支援計画作成	高3 高3企業対象者 高生徒代表 高3 高3担任
1	(1)重度判定の判定手続き(分教室も含め本校で実施) (2)抽出実習(高3年 進路先未決定者) (3)令和7年度卒業予定者対象 就労アセスメント説明会 (うるま市・沖縄市の障がい福祉課職員) (4)保護者進路学習会 「福祉就労で求められる力」「新制度「就労選択支援」について」 講師 沖縄県手をつなぐ育成会 理事長 おきなわ自立支援センター 理事長 田中 寛 氏	高3該当者 高3 高2保護者 全学部保護者
2	(1)抽出実習(高3年 進路先未決定者) (2)進路学習会⑤ 「卒業後の進路について」講師：進路部 (3)四者面談(全学年実施 *高等部1学年、進路担当も同席)	高3 高1・2 全学部
3	(1)個別の移行支援計画の確認と配付、卒業生引き継ぎ (2)追指導⑤採用1年(対象：令和5年度卒) (3)進路の手引き作成	高3担任 R5卒業生

2 高等部の活動

(1) 校外実習

前期実習 5月27日(月)～6月7日(金)

	一般企業	福祉サービス					その他	計
		就労移行	就継A型	就継B型	自立訓練	生活介護		
3年	4	10	3	4	0	10	0	31
2年	5	2	1	12	2	7	0	30

校内実習：3年(0名) 2年(1名) 1年(52名)

後期実習 10月15日(火)～10月25日(金)

	一般企業	福祉サービス					その他	計
		就労移行	就継A型	就継B型	自立訓練	生活介護		
3年	3	7	4	7	0	10	0	31
2年	5	1	2	11	2	7	0	30

校内実習：3年(0名) 2年(2名) 1年(52名)

(2) 進路学習会(生徒向け)

就労へのモチベーション向上を図り、将来の社会参加に向け主体的な進路選択ができることをねらいとして、各学年計画的に進路学習会を企画・実施した。

① 就労支援コーディネーター翁長克氏による就労相談。

高等部2学年企業実習生を対象とした進路面談。一般就労に向けた心構えと職種マッチングのための助言を頂き、次年度実習に向け意識の向上を図ることができた。

② 進路学習会

ハローワーク沖縄 津波古みゆき氏による学習会(企業就職対象：高2・3年)を1学期から計画的に3回実施。特に3年生は12月までに履歴書を完成することを目標に、学校生活と就業体験充実させ、夏季休業中の余暇活動も自己アピールの題材となるように取り組ませることができた。

③ 卒業生講話(高等部)

令和5年度卒の卒業生3名(企業：2名、福祉サービス事業所：1名)を招いて実施。卒業後の生活や働く心構えについて講話を行い、在校生からは「給料はいくらですか?」「働く上で大切なことはなんですか?」等の質問が多く寄せられ、卒業後の生活をイメージすることができた。

④施設見学(中学部)

地域の福祉サービス事業所の見学を実施。高等部の就業体験とも時期が重なり、身近にいる先輩の働いている姿を目の当たりすることができ、高等部進学後の実習への見通しと学校卒業後の進路に対する関心を持つことができた。

⑤校内実習(中学部)

全学年縦割りにし7つの班に分かれて実施。実際の事業所に見立てた日程、普段とは違うメンバーに戸惑いをみせつつも、働く上で必要な基本的な態度について知識を深めることができた。

⑥校内実習見学(小学部)

中学部の校内実習を小学部6年生が見学。児童からは「中学部に行ったら、〇〇〇班やってみたい」等の感想が寄せられ、中学部進学後の学習に見通しを持ち、将来の仕事について考える機会となった。



卒業生講話

進路学習会(履歴書)

施設見学(中学部)

校内実習見学(小6)

(3) 進路学習会(保護者向け)

保護者が児童・生徒の卒業後の進路や生活について関心や知識を深めていけることをねらいとして実施。今年度は次年度より始まる福祉サービスの新制度について、外部より講師(上記表記載)を招いて行った。

Ⅲ 進路決定状況(令和7年3月1日現在)

1 令和6年度進路先分類

一般就労	訓練等サービス利用			生活介護	進学	その他	計
	就労移行	継続A型	継続B型				
4名	7名	1名	7名	10名	0名	1名	30名
13%	23%	3%	23%	33%	0%	3%	

2 令和6年度卒業生進路先(令和7年3月1日現在)

進路先種目		事業所名	
一般就労		・タウンプラザかねひで比屋根市場・高原店 ・児童デイプラス ・トヨタウンうるま江洲店	
福祉サービスの利用	就労移行	・就労支援サービス JOB BOND ・サポートセンターゆい ・就労移行 IT スクール ・就労支援センターういず	
	就労継続A型	・障害者福祉工場	
	就労継続B型	・ひとつぼし ・あけぼの ・ありんこ ・琉球薬草苑 ・きずな ・有限会社ニヘーデービル サンキュー	
	生活介護	・北中はごろも支援センター ・ONE+ ・ゆいの郷 ・クローバーラビット ・サポータープラスあげな ・柎(momiji)	

Ⅳ 成果と課題

1 成果

- (1)前期・後期就業体験では、今年度から2学年から全員校外での就業体験を実施へと方針転換した。生徒数が多いため、受け入れ時期の調整等を図りながら、体調面等で配慮を要する生徒以外、全員が校外での実習を実施することができた。
- (2)高等部において3年間の計画的な進路学習や個別での事業所見学や体験を推進したことで生徒自身が主体的に進路選択しようとする姿勢が見られ、早期の進路決定を促すことができた。

2 課題

- (1)生徒数の増加に対応した、新たな就労先や実習先の開拓が求められる。
- (2)将来の就労を見据え、幼稚部・小学部・中学部の段階から児童・生徒・保護者ともに進路考える場を設け進路学習や進路情報の提供を行っていく。

進路指導活動報告書

沖縄県立美咲特別支援学校
教育センター分教室

I 進路目標

美咲特別支援学校本校高等部に準ずる。

II 活動報告

1 全体の年間計画

	教育センター分教室	(備考) 企業就職予定者等
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ●「進路の手引き」配布 ■ちゅらマナー週間（実習事前学習） ■実習等に関する保護者学習会 ■産業現場等における実習（前期）1～2週間 ●卒業生講話（生徒対象）※保護者参観 ●保護者面談（進路相談） ●職業訓練校見学（具志川職業能力開発校） ■抽出実習（必要に応じて） 	
夏 休	○資格取得に向けての取り組み （アーク溶接、子育て支援員）	<ul style="list-style-type: none"> ・求職登録 ・就労・生活支援センター登録 ・就労アセスメント（希望生徒）
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ■ちゅらマナー週間（実習事前学習） ■実習等に関する保護者学習会 ■産業現場等における実習（後期）1～2週間 ●保護者面談（進路相談） ●キャリア教育・就労支援発表会 ○【高3】サービス利用申請（各市町村 障害福祉課へ） ●抽出実習 	<ul style="list-style-type: none"> ・就労内定へ向けた手続き
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ●抽出実習 ●市役所障がい福祉課講話（うるま市役所） ●卒業生講話 ●保護者面談（進路相談） 	<ul style="list-style-type: none"> ・面接 ・各関係機関との連携
随 時	<ul style="list-style-type: none"> ※学習会等実施にあたり関係機関との連絡調整 ※職場開拓 	

2 センター分教室の活動

(1) 産業現場等における実習

①前期就業体験 5月20日（月）～5月31日（金）

	一般企業	就労移行	A型	B型	生活介護	生活訓練	その他	計
3年	7	0	2	1	0	0	0	10
2年	9	1	0	0	0	0	0	10

②後期就業体験 10月15日（火）～10月25日（金）

	一般企業	就労移行	A型	B型	生活介護	生活訓練	その他	計
3年	6	0	2	2	0	0	0	10
2年	9	1	0	0	0	0	0	10

(2) 進路学習会

①卒業生講話「先輩と語ろう会」（2回実施）

本教室は一般就労を目指す生徒が多く在籍しており、各企業に就職した卒業生に依頼し、

生徒との座談会を開催した。7月にイオン琉球（商品補充）、いきがいのまち（介護補助）にて就労を行っている卒業生2名、2月に沖縄ヤマト運輸（倉庫業務）で勤務している卒業生1名を招き、仕事内容や働く上で大切にしていることや余暇の取り組みの充実について説明してもらった。給与の使い道や運転免許について在校生から積極的に質問があり、資格取得のために貯金をしたり勉強を続けていることなど具体的な就労イメージを持つことができた。

②就労支援コーディネーターによる進路学習会・進路講話

就労支援コーディネーター翁長氏を講師に招き、進路学習を行った。（保護者学習会に記載）

③ハローワーク沖縄、うるま市役所等外部機関を招いた進路学習会

ハローワーク沖縄の津波古氏を招き、3年生を中心に履歴書の書き方や面接対策講座を実施し就労へ向け意識作りを図った。1月にはうるま市役所の障がい福祉課職員と地域活動支援センター職員を招き、卒業後の役所での各手続きの方法や療育手帳で利用できるサービスの内容や地活の利用など就労を含め卒業後の生活や余暇充実についても学習することができた。

(3) 保護者学習会

今年度は就業体験に向けて家庭で取り組めることや、合理的配慮、卒業生の生活について就労支援コーディネーターの翁長氏を招き講話を実施した。就労生活の具体的なイメージなど親子で共通認識が持てるよう保護者学習会は生徒の進路学習と合同で実施した。

III 進路決定状況（令和7年3月1日現在）

1 令和6年度進路先分類

一般就労	訓練等サービス利用			生活介護	進学	その他	計
	就労移行	継続A型	継続B型				
6名	0名	1名	3名	0名	0名	0名	10名
60%	0%	10%	30%	0%	0%	0%	100%

2 令和6年度卒業生進路予定先（令和7年3月1日現在）

進路先種目		事業所名
進学		なし
一般就労		<ul style="list-style-type: none"> ・KPG HOTEL&RESORT（グランメールリゾートオキナワ） ・ケアハウスふくぎ苑 ・デイサービス エデンの園 ・みちしお保育園 ・イオン琉球（イオンスタイルひやごん） ・いきがいのまचारま（予定）
福祉サービス	就労移行	なし
	継続A型	・縁人 中城営業所
	継続B型	<ul style="list-style-type: none"> ・有限会社ニハーデービル サンキュー ・株式会社トビラ ツクリバうるま ・スタジオライフワーク
	生活介護	なし
その他		なし

IV 成果と課題

1 成果

- (1) 学習活動や就業体験を通して生徒実態を把握し進路決定につなげることができた。
- (2) 進路学習会や各学期の四者面談、施設見学や抽出実習等を行い、進路選択の幅を広げ、進路決定に向け保護者と一緒に考える機会を設けることができた。
- (3) 実習事前事後学習や巡回指導等、分教室全職員で進路指導を行うことができた。

2 課題

- (1) 地域の企業開拓、福祉事業所の情報収集と関係機関との連携。
- (2) 就労アセスメントや求職登録、療育手帳更新等、各種手続きの保護者への周知と理解。

進路指導活動報告書

沖縄県立美咲特別支援学校
美里高等学校分教室

I 進路目標

美咲特別支援学校高等部に準ずる。

II 活動報告

1 活動内容

月	活 動 内 容	学年
4	・就業体験開拓・実習先面接及び事前挨拶	
5	・進路説明会及び前期校内実習保護者説明会 ・前期実習事前・事後学習 ・進路講話（講師：就労支援コーディネーター翁長氏） ・前期就業体験 5/20～5/31 の10日間 現場：20名 校内：16名（農業・ものづくり・デュアル実習（介護施設清掃））	全学年 2・3年 1年
6	・前期就業体験・校内実習の事後学習、報告会 ・四者面談	全学年
7	・進路ガイダンス（美里高校・分教室合同） ・就業体験先開拓（7～8月）	2年
8	・ハローワーク及び就労・生活支援センター登録	3年
9	・就業支援キャンペーン3年代表生徒参加（ヒルトン沖縄、知花の里） ・履歴書作成（講師：ハローワーク沖縄津波古みゆき氏）	3年
10	・後期就業体験保護者説明会 ・後期実習事前・事後学習 ・進路講話（就労支援コーディネーター翁長氏） ・後期就業体験 10/15～10/25 の9日間 現場：全学年36名 ・保護者進路学習会（分教室保護者） ・体験型職業理解（美里高校・分教室合同）	1～3年 全学年 保護者 1・2年
11	・後期就業体験の事後学習、報告会 ・四者面談 ・キャリア教育・就労発表会（展示の部）	全学年
12	・進路学習（市役所、自動車学校） ・進路学習（琉球リハビリテーション、夢のかけはし） ・抽出実習（対象生徒12月～2月）	3年 2年 対象生徒
1	・企業見学バスツアー（美里高校・分教室合同）	全学年
2・3	・四者面談 ・卒業生講話 ・就職生徒面接 ・進路先への引き継ぎ	

III 進路決定状況（令和7年3月1日現在）卒業生男子4名

一般就労	・沖縄美装管理株式会社（清掃業）・株式会社SUN企画（介護補助） ・沖縄リハビリテーションセンター病院（厨房補助）	3名
就労移行	・就労サポートセンターミラソル	1名

IV 成果と課題

1 成果

- (1) 分教室保護者を対象に、実習の様子や他校の卒業生が実際に働いている様子を紹介し、今後の実習先の選び方や進路選択などの学習会を持つことができた。
- (2) 進路ガイダンスや体験型職業理解など美里高校生徒と一緒に学ぶ進路学習においては、美里高校進路部と協力しながら行うことができた

2 課題

- (1) 次年度は、全学年2クラスがそろい生徒数が増えるため、限られた施設内での職業学習の持ち方や就業体験の受け入れ先の開拓。

進路指導活動報告書

沖縄県立はなさき支援学校

I 進路目標

1 本校の教育目標より

- (1) 健康な身体と明るい心を育てる。(心身ともに健康で明るい子)
- (2) 日常生活を豊かにする生活習慣を育てる。(身のまわりのことが自分でできる子)
- (3) 豊かな情操を育み、コミュニケーション能力を育てる。(心豊かで思いやりのある子)
- (4) ねばり強く最後までやりぬく力を育てる。(目標をもって最後まで努力し進んで働く子)
- (5) 自立、社会参加・貢献をめざし、必要な資質、能力、態度を育てる。(自ら考え学び、行動する子)

2 本校の教育テーマ

「生活する力」「人(社会)と関わろうとする力」の育成

3 本校の教育課題に対する指導の重点(キャリア教育の重点)

学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身につけていくことができるよう、特別活動を要としつつ、各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図る。

4 小学部のキャリア教育の重点

- (1) 個々の発達段階に応じて、自分でできることを増やし、社会生活において必要な基本的な生活習慣を身につける。
- (2) 家庭・地域社会と連携をとり、生活経験の拡大を図る。
- (3) 中学部・高等部と連携したコーポレーションタイムを通して、身近な仕事や作業に興味・関心を持ち、人間関係の形成に必要な基礎的能力の充実を図る。

5 中学部のキャリア教育の重点

- (1) 教育活動全般を通して生徒の資質・能力をできる限り引き出し、円滑に社会参加できるようにする。
- (2) 作業学習や校内実習を通して、働くことの大切さや楽しさを体験し、最後まで取り組む態度や意欲を養う。
- (3) 異年齢の小学部、高等部と連携したコーポレーションタイムを通して、他者と関わる力を育み、積極的に社会参加しようとする実践的な態度を養う。

6 高等部のキャリア教育の重点

- (1) 全ての教育活動を通して、主体的に生きる力を獲得できるようにする。
- (2) 進路学習や施設見学、校内実習・校外実習を通して、自己の能力や適性を把握し、進路を選択できるようにする。
- (3) 小学部・中学部と連携したコーポレーションタイムを通して、将来自立し、社会参加に向けた、実践的・体験的な活動を充実させ、自己有用感を高める。

Ⅱ 活動報告

1 今年度の主な取組

学期	月	内容
1	4	<ul style="list-style-type: none"> 職員研修（進路） 進路オリエンテーション →高等部各学年 現場実習先への依頼、事前調整（～5月）
	5	<ul style="list-style-type: none"> 前期実習事前学習（高等部） 前期現場実習保護者説明会（高2,3） 前期校内実習保護者説明会（高1） 実習前身だしなみ制服週間実施 5/27（月）～31（金）
	6	<ul style="list-style-type: none"> 前期実習（高等部）6/3（月）～6/14（金） →1年生は校内実習、2年生、3年生は基本現場実習 校区内市町村訪問（情報交換、B型利用確認） 前期実習事後学習、報告会（高等部） 施設見学（中学部）
	7	<ul style="list-style-type: none"> 進路四者面談（高2,3） 夏期高3抽出現場実習先への依頼、事前調整 事業所説明会（PTA主催）
	8	<ul style="list-style-type: none"> 夏期抽出現場実習（高3該当生徒）7/22（月）～8/23（金）
2	9	<ul style="list-style-type: none"> 後期現場実習先の確認、決定 現場実習先への依頼、事前調整 校内実習保護者説明会（中学部） 後期実習事前学習（中学部・高等部） 後期現場実習保護者説明会および実習先事前訪問 実習前身だしなみ制服週間実施 9/24（火）～27（金）
	10	<ul style="list-style-type: none"> 後期実習（中学部・高等部）9/30（月）～10/11（金） 後期実習事後学習、報告会（中学部・高等部） 校区内市町村訪問（情報交換、B型利用確認）
	11	<ul style="list-style-type: none"> 進路四者面談（高3） 第1回技能検定（11/8） 高3抽出現場実習開始
	12	<ul style="list-style-type: none"> 高3抽出現場実習期間 キャリア教育・就労支援発表会（展示の部、セレモニー発表） 市町村との情報交換（高3卒業に向けた手続きや相談） 産業教育フェア →展示の部参加 高1校外学習で参加
3	1	<ul style="list-style-type: none"> 高3抽出現場実習期間 高1、2年進路保護者説明会及び行政ガイダンス （講師：就労支援コーディネーター・5市町村福祉課） あいさつ運動週間実施 1/14（火）～2/28（金） はなさき支援学校卒業生育成会「はたちを祝う会」開催（1/19） 進路希望調査（保護者）、進路アンケート（生徒） 第2回技能検定（1/23）
	2	<ul style="list-style-type: none"> 保護者面談（高2）→進路希望調査を元に次年度実習先の希望を聞き取り 青年教室等育成会活動資料等引継ぎ 進路先、計画相談員等との移行支援会議（高3）

3	<ul style="list-style-type: none"> ・移行支援計画のとりまとめ、引継ぎ ・次年度準備
<p>【年間を通した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「はなさき進路の手引き」配布、周知、活用 ・進路学習（各学年）に関すること ・実習先、雇用先の開拓および情報収集 ・進路だよりの発行 ・本人、保護者、職員への情報提供 ・技能検定に関すること ・生徒、保護者との進路相談や施設見学 ・はなさき卒業生育成会（青年教室） ・コーポレーションタイム、職業班学習に関すること ・卒業生の定着支援 ・沖特進研に関すること 	

2 校内実習および現場実習について

(1) 前期実習（高等部のみ）

①校内実習：園芸・美化班、家庭班、産業サービス班、チャレンジ班（ⅡB類型）

②現場実習：18事業所 25名 ※重複あり（3年生11名、2年生14名）

事業所内訳（一般企業→7、就労移行・就労継続A・B型→8、生活介護→3）

○前期実習事後学習として報告会を実施。校内及び現場実習について全生徒の発表。

(2) 高3夏期抽出現場実習

1事業所 2名 事業所内訳（就労移行→2）

(3) 後期実習（中学部・高等部）

①校内実習：園芸・美化班（中高）、木工班（中）、窯業班（中高）、家庭班（中高）
手工芸班（中）産業サービス班（高）

②現場実習：19事業所 27名（3年生11名、2年生15名）

事業所内訳（一般企業→7、就労移行・就労継続A・B型→9、生活介護→3）

○後期実習事後学習として報告会を実施。中学部の報告会には小学部6年生の児童、高等部の報告会には中学部3年生の生徒が参観。

(4) 高3抽出現場実習（11月後半～2月の期間で設定）

7事業所 7名※重複あり

事業所内訳（一般企業→2、就労移行・就労継続A・B型→3、生活介護→2）

3 施設見学

中学部3年生を対象に就労継続支援B型事業所の見学。（はごろも）

高等部1・2年生の校外学習において、一般企業（食品加工工場）の見学。

4 コーポレーションタイム

火曜日の3時間、各学部で連携し、交流・協働する活動する場を設定している。それぞれの発達段階における社会参加の視点を持って、全児童生徒が5グループ（小学部は学年、中高は職業班で編制）に分かれて学習に取り組んでいる。また、今年度より全体コーポレーションを各学期設定し、校庭の清掃や卒業式の装飾作りを全校児童生徒で協力して取り組むことができた。

Ⅲ 進路決定状況

令和6年度卒業生進路先（令和7年3月1日現在）

	事業所	備考	人数
1	楽学喜サポート アチェンド	就労移行支援	3名
2	自立サポートセンターみらそる	就労移行支援	1名
3	Okinawa Star Academy	就労移行支援	1名
4	エデュカーレ	就労移行支援	1名
5	スマイリーワークぎのわん	就労継続支援B型	1名
6	北中はごろも支援センター	生活介護	1名
7	生活介護センター 彩風の杜きたなか	生活介護	1名
8	エデュカーレ	生活介護	1名

Ⅳ 成果と課題

1 成果

- (1) 高等部進路オリエンテーションにて、前年度の進路学習や実習評価等の振り返りをしたことで、目標を持って新年度スタートできるよう意識づけができた。
- (2) 高等部進路学習の記録としての進路学習ファイルとキャリアパスポート（ファイル）をそれぞれ整理できた。
- (3) 「高等部1・2年進路保護者説明会」では、就労支援コーディネーターの講話に併せて行政ガイダンスが実施できた。進路決定までの見通しや障害者福祉サービスの利用に関することを知ってもらう機会となった。特に、市町村のサービス担当から直接説明をいただいたことで、市町村と保護者、学校の三者の顔合わせや情報共有ができた。
- (4) 高等部2年生の保護者面談に進路担当が同席することで、生徒の希望や保護者の考え聞き、次年度前期実習及び進路に関する方向性の確認ができた。（親子で進路について考えるきっかけ、卒業までのイメージの共有など）
- (5) はなさき支援学校卒業生育成会の総会、青年教室が計画的に実施することができた。参加した卒業生や保護者から、卒業後の様子等を知る機会となった。
- (6) 就労支援コーディネーターと連携を図りながら、進路面談や実習先への巡回指導など生徒、保護者の考えを丁寧に傾聴しながら、最後まで進路指導を連携して進めることができた。

2 課題

- (1) 発達段階に応じた進路指導、卒業後の進路決定までの流れを高等部保護者だけではなく、小学部、中学部の保護者へも情報発信の工夫、年間計画の見直しをしていく。
（進路講話、進路学習会、進路だより、事業所見学会などの計画など）
- (2) 実習先を検討する段階から、支援関係者と情報共有する必要がある。特に、登校が難しい生徒等は支援者になり得る「人」へつなぐこと、生徒のケースによっては早い段階で支援部、ナカポツと連携する必要があると感じた。
- (3) こだわりの強い生徒や保護者のニーズに合う受け入れ先がなく苦慮した。
- (4) 卒業生の定着支援の在り方について、進路指導部だけでなく、卒業年次担任や関係機関との連携した取り組みが必要である。

進路指導活動報告書

沖縄県立大平特別支援学校

I 進路目標

児童生徒一人一人の障がいの状態及び発達段階、特性等を十分に考慮し、キャリア教育の視点を踏まえて関係機関との連携を密にした職業教育や進路指導を行い、可能な限り職業自立を目指す。

○各学部のキャリア教育の重点

小学部	中学部	高等部
<p>1 個々の発達段階に応じて自分で出来ることを増やし、社会生活において必要な基本的習慣を身につけるようにする。</p> <p>2 家庭・地域社会と連携をとりながら、生活経験の拡充を図り、人と関わる力を育む。</p>	<p>1 作業学習や校内実習及び教育活動全体を通して最後まで頑張る態度、働く楽しさや勤労意欲を養う。</p> <p>2 自分や社会について関心を深め、卒業後の進路選択や将来について考える力を育む。</p>	<p>1 産業現場等における実習等を通して自らの適性を知り、自己選択、自己決定する力を育てる。また、教育活動全体をとおして勤労や社会参加への意欲を高めるよう配慮する。</p> <p>1 学年 自己の理解を深め、将来の目指したい自分のイメージをつくる。</p> <p>2 学年 目指す将来像の実現に向けて具体的に取り組む。</p> <p>3 学年 卒業後の生活をイメージし、それに対応した取り組みを強化する。</p>

II 活動報告

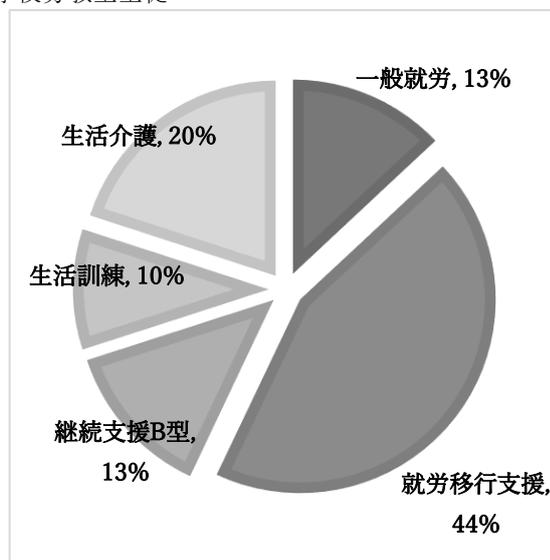
月	活動内容
4 月	(1)進路の手引き作成、配布 (2)前期実習先依頼、事前調整
5 月	(1)新職員研修(内容：本校進路指導の現状) (2)卒業生追跡調査(R5 年度卒) (3)前期実習先依頼、事前調整 (4)ちゅらマナー週間(2 週間)※実習に向けたマナー学習週間 (5)前期実習事前学習・壮行会 (6)前期実習保護者説明会 (7)就労アセスメント説明会 ※市役所福祉課担当による保護者向け説明会 (8)実習先企業・福祉サービス事業所対象 高等部授業参観 (9)前期実習
6 月	前期実習事後学習・報告会
7 月	(1)進路相談(2,3 年生実施：本人・保護者・担任・進路部) (2)保護者面談期間中に校内にて事業所紹介週間を実施(パンフレット等)
8 月	(1)求職登録(3 年生企業実習対象生徒) (2)就労アセスメント(継続 A 型・B 型希望者) (3)後期実習先依頼、事前調整
9 月	(1)後期実習先依頼、事前調整 (2)卒業生による進路講話 (3)おしごと発見フェア 2024 (1, 2 年生 8 名参加)

10月	(1)ちゅらマナー週間(2週間)※実習に向けたマナー学習週間 (2)実習先企業・福祉サービス事業所対象 高等部授業参観 (3)後期実習事前学習・壮行会 (4)後期実習保護者説明会 (5)卒業後の福祉サービス利用等説明会 ※市役所福祉課担当による保護者向け説明会 (6)後期実習 (7)後期実習事後学習・報告会
11月	第1回進路に関する学習会 (主催:PTA 進路みらい部) 参加保護者数 61名 「①卒業生の進路先や福祉サービスの種類について ②卒業生保護者による体験談」
12月	(1)進路相談(3年生実施:本人・保護者・担任・進路) (2)第36回キャリア教育・就労支援発表会 (3)第2回進路に関する学習会 (主催:PTA 進路みらい部) 参加保護者数 52名 「家庭における自立に向けた支援～小中高それぞれの発達段階に応じて～」
1月	(1)第3回進路に関する学習会 (主催:PTA 進路みらい部) 参加保護者数 58名 「親亡き後の備えについて～手当や制度等の基礎知識～」 (2)抽出実習(企業実習生・進路先未決定者) (3)重度判定の判定手続き(該当者) (4)就業・生活支援センター利用のための登録(企業内定見込み者)
2月	進路相談(1, 2学年実施:本人・保護者・担任・進路)
3月	(1)進路先への生徒の引き継ぎと個別の移行支援計画の作成・配布(担任・進路担当) (2)新入生オリエンテーション進路指導説明
通年	(1)進路情報発行 (2)学年集会での進路講話 (3)浦添市・宜野湾市自立支援協議会への参加 (4)卒業生企業就職者巡回相談 (5)就労支援ネットワーク会議への参加 など

Ⅲ 進路決定状況 (令和7年3月1日現在)

1 令和6年度進路状況 ※()は久米島高等学校分教室生徒

進路種目		人数
一般就労		5
地域活動支援センター		0
福祉サービス	就労移行支援	17
	継続支援A型	0
	継続支援B型	5
	生活訓練	4
	生活介護	8
進学・その他		0
合計		39(0)



2 令和6年度卒業生進路先

区分	進路先	人数	区分	進路先	人数
一般 就労	イオン琉球(株)マックスバリュ安謝店	1	就労	就労サポートセンター ミラソル	5
	イオン琉球(株)マックスバリュ伊祖店	1	移行	自立サポートセンター みらそる	2
	(株)サンエー マチナトシティ	1	B型	楽学喜サポート アチェンド	2
	(株)野嵩商会フレッシュプラザユニオン古島店	1		多機能型事業所 エデューカーレ	1
	(株)みなと食品沖縄	1		就労継続支援B型事業所 CONNECT	1
		ちぐさ B型事業所		1	
就労 移行	さぼーとせんたーiとお〜ち	1	生活 訓練	障がい者サポートステーション あるていー	1
	楽学喜サポート アチェンド	1		合同会社KINGKONG Cotori	1
	就労支援事業所 アンジュ	1		合同会社KINGKONG GoRiLla	2
	就労支援 いじゅの木	1	生活 介護	多機能型事業所 エデューカーレ	2
	多機能型事業所 エデューカーレ	1		北中はごろも支援センター	2
	指定障害福祉サービス事業所かりゆし結	2		生活介護事業所 Catch	1
	合同会社KINGKONG GoRiLla	1		生活介護事業所 そる	1
	就労支援センター さわやか	2		生活介護事業センター なずな	1
		社会就労センター わかたけ	2		

※複数利用含む
男子 24 名 女子 15 名 計 39 名

IV 成果と課題

1 成果

- (1) 実習先希望調査の提出に際し、生徒・保護者による事業所見学を必須にしたことにより生徒の特性と事業所の特徴とのミスマッチが減り、3年生は早期進路決定に繋げることができた。
- (2) PTA 進路みらい部と連携し「福祉サービス事業所合同説明会」の代わりに「進路に関する学習会」を全3回実施し、全学部の子供たちに進路活動や将来の備えについて考える機会を提供することができた。
- (3) 全生徒保護者面談に年2回進路部職員が同席し、実習先や進路先の選定に関する進路相談を行い、生徒の進路決定に向けた方向性の確認や情報の共有ができた。

2 課題

- (1) 不登校生徒等への指導方法等について、校内外の関係各所と連携し考えていく必要がある。
- (2) 就労選択支援制度について、関係機関との情報交換の場が必要である。また、全職員・保護者へも周知し、制度開始へ備える必要がある。

令和6年度 進路指導活動報告書

沖縄県立大平特別支援学校高等部
久米島高等学校分教室

I 進路目標

- 1 社会生活を営むための生活習慣の確立を図る。
- 2 社会人として調和のとれた人格形成を目指す。
- 3 職業生活に必要な基本的な知識・技能・態度を高め、就労に向けた実践的な態度を育てる。
- 4 働く喜びがわかり、あらゆることに根気よく続けることができる。
- 5 卒業後の進路に対する意識をもたせ、個々の能力や適性に応じた自己選択・自己決定ができるようにする。

II 活動報告

1 活動内容

月	活動内容
5月	・前期現場実習10日間 1年2名、2年2名（男子1名、女子3名） 実習先： 1年生「久米島町具志川改善センター」（島内実習） 2年生「中央保育所」（島内） 「イーフビーチホテル」（島内） ・前期現場実習報告会
9月	・久米島のキラ人講話（久米島高校生対象の講演会に参加）
10月	・職業理解ガイダンス（久米島高校生対象のガイダンスに参加） ・中期現場実習 9日間 1年2名、2年2名（男子1名、女子3名） 実習先： 1年生「校内実習」（島内実習） 2年生「坂田こども園」（島外） 「スイートフーズ久米島」（島内） ・中期現場実習報告（1年生は久米島高校のインターンシップ報告会で自らの体験を報告することができた）

2 活動の取り組み

- 「産業現場等における実習」 ○「久米島のキラ人講話」 ○「職業理解ガイダンス」

III 進路決定状況

卒業生無し

IV 成果と課題

1 成果

- (1)「産業現場等における実習」では、年間2回の現場実習を実施。生徒の要望を反映して実習先を決定することができた。
- (2)「職業理解ガイダンス」では、自分の興味のある職種・職業に出向き、今後の進路に繋がる話が聞くことができた。実際、このガイダンスをきっかけに中期現場実習先を決めることができた。

2 課題

- (1) 島内では実習できる企業が限られているので、生徒の希望する職種を探すことが困難。
- (2) 就労移行支援や就労支援継続A型の事業所がない。そのため現場実習を受け入れてもらえる事業所を探すことが難しい現状がある。障害者就労に対する理解を広める必要がある。

令和6年度 進路指導活動報告

沖縄県立那覇みらい支援学校

I 進路目標

〔学校の教育目標〕

児童生徒一人一人の人権を尊重し、個々の障害の状態と心身の発達段階に応じた教育を行うとともに、豊かな人間性や社会性を育み、健やかで自立し、社会に参加・貢献できる児童生徒を育成する。

〔校訓〕:「おもい」は「みらい」を「ひらく」

「おもい」: 意思を示し、考え、自らを理解し、意欲をもって行動すること

「みらい」: 「今日よりも明日」や卒業後も含めた将来

「ひらく」: 切り拓く、扉を開く、理解を啓く

〈目指す児童生徒像〉

○心や身体が健やかな人

○進んで何事にも取り組む人

○おもいを伝えられる人

○自らを理解し、他者を大切にする人

○持てる力（自分らしさ）を発揮し、自立し社会に参加・貢献する人

1 キャリア教育の充実

- (1) 児童生徒一人一人の障害の状態に応じ、これまで特別支援学校で取り組んできた教育活動を礎に、自立と社会参加・貢献を見据え、卒業後の生活を視野に入れ、自らの生き方を主体的に考え、自己実現を果たしていこうとする能力や態度を育成することをめざす。
- (2) 特別活動や学校教育全体で行う各教科等をつなぐキャリア教育の要として、児童生徒のキャリア発達を促し、キャリア教育の充実を図る。特に学級活動「一人一人のキャリア形成と自己実現」を踏まえ、学級活動・ホームルーム活動、学校行事の中でキャリア教育の充実を図れるようにする。

2 本年度の重点目標（キャリア教育に関する事項を抜粋）

- (1) 基本的な生活習慣の確立と日常の行動に留意し、些細な変化に気づくことができる生徒指導の実践
- (2) 生活学習室を活用した将来の自立し社会参加、貢献のための学びの充実
- (3) 保護者や地域と連携した児童生徒の将来を見据えたキャリア教育の推進
- (4) 地域支援体制の連携構築によるインターンシップ等の実施により進路希望の実現
- (5) 地域（企業・関係機関含む）とつながる機会の設定（学校開放日、学校カフェの開催、公園清掃等）
- (6) スクールバスの乗車指導及び自力通学の連携支援体制の構築による推進

3 小学部におけるキャリア教育の重点

- (1) 意思表示やあいさつなど人との関わりや集団への参加などで必要な力を育む。
- (2) 社会の決まり、金銭の取り扱い、様々な情報への関心などをもち、様々な経験を広げる。
- (3) 基本的な生活習慣の確立に取組み、自分ができることを通して、役割を果たす力を育む。
- (4) 日頃から、やりたいことを伝え、考え、選ぶ機会の経験を広げる中で振り返る力を育む。

4 中学部におけるキャリア教育の重点

- (1) 社会生活に必要な意思表示を行い、自己理解や学級や学部の活動で仲間とともに活動する中で他者理解の力を高め、協力・協同する力を育む。
- (2) 社会の仕組みやルールを理解を広げ、収集した情報を活用する力を育む中で、金銭の扱いに慣れ、働くことについて知る。
- (3) 自己理解し、自分ができる役割を進んで行う中で、職業生活に必要な習慣形成力を育むことや将来や職業、生きがいなどがあることを知る。
- (4) 自分を理解し、中学部卒業後の自分をイメージし、選ぶ力を育む。

5 高等部におけるキャリア教育の重点

- (1) 場に応じた意思表示を行い、他者の考えや個性を理解する中で、自分自身を理解し、必要な支援を求め、相談できる力を育む。
- (2) 職業生活等に必要な事柄の情報収集と活用する力や法や制度、消費生活を理解し対応する力や職業や働くことの意義を理解する力を育む。
- (3) 自己理解し、自分の役割を理解し、実行する力、社会生活に必要な習慣の形成、将来設計を行う力、余暇を活用する力などを育む。
- (4) 産業現場等による実習を通して、これまでの学びを振り返り、自らの意思に基づき進路を選択する力や自らのこれからの目標を定め、取り組もうとする力、様々な課題と折り合いをつける調整力を育む。

II 活動報告

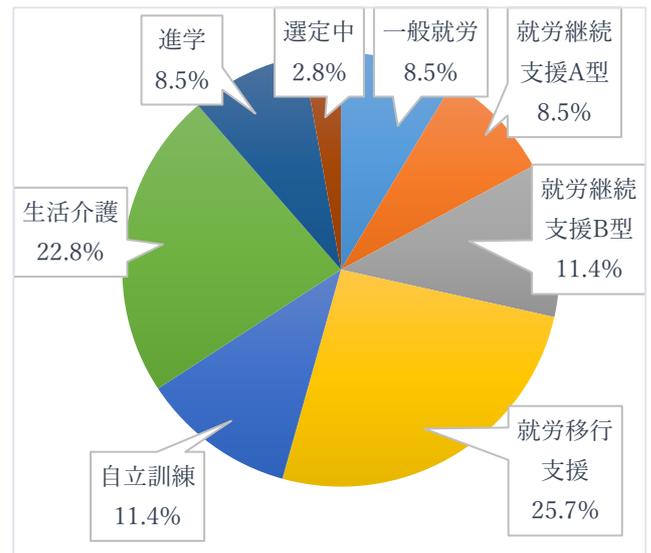
[年間のおもな取り組み]

学期	月	取り組み・活動内容
	5	保護者説明会（進路について・実習に向けて）全学年
1 学期	6	前期現場実習（校内・校外）
	7	進路面談（高等部1～3学年） ハローワーク求職登録 就業・生活支援センター登録 進路選択学習会（A型、B型、就労移行支援事業者について）：PTA 合同開催
2 学期	9	進路学習会（先輩と語る会）：就労を目指す生徒向け
	10	後期現場実習（校内・校外） 進路相談（3学年） 校内実習（中学部）
	12	進路面談（高等部1～3学年） 抽出現場実習 沖特進研「キャリア教育・就労支援発表会」
3 学期	1	抽出現場実習（高等部3学年進路未決定者のみ） 現場実習希望調査（次年度に向けて）
	2	抽出現場実習（高等部3学年進路未決定者のみ） 進路講話（全学年）※職業教育開催
	3	新年度の進路計画・立案 事業所との引き継ぎ（必要な生徒のみ：春休み期間）
年間を通して		進路便りの発行、職場開拓・訪問、事業所訪問、進路状況確認

Ⅲ 進路決定

1 進路先分類（令和7年2月28日時点）

No.	進路先分類	人数	割合
1	一般就労	3	8.5%
2	就労継続支援A型	3	8.5%
3	就労移行支援	9	25.7%
4	就労継続支援B型	4	11.4%
5	自立訓練	4	11.4%
6	生活介護	8	22.8%
7	進学	3	8.5%
8	選定中（一般就労）	1	2.8%
9	その他	0	0.0%
合計		35	100%



2 進路予定先

進路先	人数	備考（サービスの種類、他）
日本トランスオーシャン航空	1	一般就労
有限会社やいま企画	1	一般就労
沖縄ハーバービューホテル	1	一般就労
トライステップ那覇	1	就労継続支援A型
ベストライフ那覇	1	就労継続支援A型
ベーカリーハウスキキ	1	就労継続支援A型
就労支援センターあいこ	4	就労移行支援・自立訓練
就労サポートセンター ミラソル	2	就労移行支援
就労移行支援事業所 ドリームワークそてつ	2	就労移行支援
福祉型ワークスクール ゼロステップ	1	就労移行支援
どこでも work	1	就労移行支援
就がいサポートBBトレ	1	自立訓練
ディーエンカレッジ那覇キャンパス	1	自立訓練
野の花	1	就労継続支援B型
大樹	2	就労継続支援B型
みらコラボ	1	就労継続支援B型
デイセンター おおさと	4	生活介護
シルビアンコペルメント	1	生活介護
アングレカム	2	生活介護
そる	1	生活介護
わかたけ	1	生活介護
さくらんぼ2号館	1	生活介護
おおきなWa	1	生活介護
ひまわりファクトリー	1	生活介護
琉球大学	1	進学
沖縄ビューティ&ブライダル専門学校	1	進学
プードルタウンファンタジー	1	進学
就労先選定中	1	一般就労
事業所選定中	2	就労移行・生活介護

※（複数の事業所を利用する生徒がいるので生徒数より進路先が多い）

IV 成果と課題

1 主な成果

- (1) 幅広い教育課程に沿った進路指導を進めることができた。進学に向けた取り組みも含めて生徒の課程に合わせた「進路の手引き」を作成することができ職員、保護者へ発行することができた。
- (2) 現場実習（前期・後期）を2回計画、実施することができた。また、進路決定の進まない生徒へ抽出現場実習を何度か行い、進路決定へと繋げることができた。
- (3) 現場実習（校内実習・校外実習）の保護者説明会を学年ごとに実施することで、各学年の保護者へ進路の取り組みについての説明も行うことができ、情報提供と保護者の理解を得ることができた。
- (4) 校内で進路掲示コーナーの充実を図り、進路情報の発信に努め、生徒への情報提供を行うとともに保護者や職員への理解と進路に関する意識の高揚に繋げることができた。
- (5) 毎学期、保護者面談を実施することができ、実習での評価の報告や確認ができ、進路状況や進路希望について細かな話し合いを持つことができ共通理解を図ることができた。
- (6) PTA と合同で保護者向けに「福祉サービスについて」の進路学習会を（7月）開催することができ、進路選択についての情報提供ができた。
- (7) 一般就労やA型事業所を目指す生徒へハローワークの求職登録や就労・生活支援センターへの登録を迅速に行うことができた。
- (8) 外部講師を招いての「進路講話」や卒業生を招いての進路学習会（実習事前学習）を行うことで働くために大切な事や卒業後の進路を主体的に決めることができるような機会を設定することができた。

2 課題

- (1) 学校全体や各学部での進路研修を計画し進路の取り組みやキャリア教育について職員への伝達や周知を図る。
- (2) 学校の立地を活かし、職場開拓、事業所開拓に努め、幅広い生徒の実態に対応できる実習先や進路先を開拓できるようにする。（車椅子や医療的ケアの受け入れも含む）
- (3) 卒業生の定着指導や追指導の充実を図り、卒業生の現状を把握する。
- (4) 教科「職業」教育との連携を密にし、校内実習、現場実習へと繋げられるようにする。
- (5) キャリア教育の全体計画を基にキャリアパスポートを活用した進路支援の充実を図る。

進路指導活動報告

沖縄県立島尻特別支援学校

I 進路目標

〔 学校の教育目標 〕

めざす 幼児 児童 生徒 像	知 自ら考え、表現する子	①あいさつや返事ができる子 ②意思表示ができる子 ③見通しを持ち行動できる子
	徳 心優しく、思いやりのある子	①人に思いやりを持ち、ものを大切にできる子 ②みんなと仲良く、協力できる子 ③相手の気持ちを考えて、行動できる子
	体 体を鍛え、粘り強い子	①身体を動かすことが好きな子 ②最後まで粘り強く取り組める子 ③意欲を持って働ける子

1 高等部の教育目標

- (1) 社会規範について考え、実践する態度を育てる。
- (2) 集団生活に積極的に参加し、健全な人間関係を築く態度を育てる。
- (3) 基本的な生活習慣を整え、意欲を持って活動する態度を育てる。

《 めざす生徒像 》

- ・あいさつ、報告・連絡・相談ができる生徒
- ・思いやりをもち、協力できる生徒
- ・生活リズムを整え、主体的に活動できる生徒

2 学校の教育目標を達成するための方針（※進路指導に関する事項のみ内容を抜粋）

- (1) 卒業後の自立・社会参加を見据えた、家庭・地域社会・関係機関との連携の強化
 - ・中、高等部の職業学習等を地域へつなげる活動にする。
- (2) 幼・小・中・高及び寄宿舎での一貫したキャリア教育の実践
 - ・幼児児童生徒一人一人の実態に応じたライフキャリア・ワークキャリア及び進路指導の充実に努める。

3 本年度の重点目標（※進路指導に関する事項のみ内容を抜粋）

- (1) キャリア教育の理解、校内体制等の確立を図る。
- (2) 働くことへの意識を高めるため、幼・小・中・高及び寄宿舎での一貫したキャリア教育の推進を図るとともに、地域・家庭に対してキャリア教育に関する理解啓発に努める。
- (3) 「キャリア教育全体構造図」及び児童生徒の発達に段階に応じた「キャリア教育プログラム」を作成し実践する。
- (4) キャリア教育で児童生徒に身につけさせたい「基礎的・汎用的能力」を構成する4つの能力の視点を踏まえた、各教科等の年間学習指導計画の作成を推進する。
- (5) 時代に対応した作業種目の拡大と指導の充実に図り、職業自立に必要な知識、技能、態度の育成に努める。
- (6) 就業体験、職場体験、インターンシップ、校内実習等の充実に図り、総合的な探求の時間及び学級活動・LHRを活用した継続的なキャリアガイダンスを実践し、進路意識の醸成に努める。

(7) 生徒が自らの学習活動の学びのプロセスを記述し、振り返ることのできるポートフォリオ的な教材「キャリア・パスポート」を作成する。

4 小学部におけるキャリア教育の重点

- (1) 身近な人と触れ合い、愛情や信頼感を養う。
- (2) 生活リズムを整え、十分に体を動かすことができるようにする。
- (3) 将来の日常生活及び社会参加に必要な基礎的生活習慣の形成を図る。

5 中学部におけるキャリア教育の重点

- (1) 自己の役割を知り、他人との協調性を養う。
- (2) 進路（進学、就労等）や将来の自己実現に必要な基礎的な知識や体力を育てる。
- (3) 就業体験及び教育活動全体を通し、将来の自立と社会参加に向けて必要な知識、態度を養い、関心を高める。

6 高等部におけるキャリア教育の重点

- (1) 教育活動全体を通して、将来自立し社会参加できるようにする。
- (2) 保護者との連携を密にし、目標を持って自己理解・自己啓発に努め、適切な進路選択ができるようにする。
- (3) 関係機関とのネットワークを形成し、移行支援の充実を図る。

II 活動報告

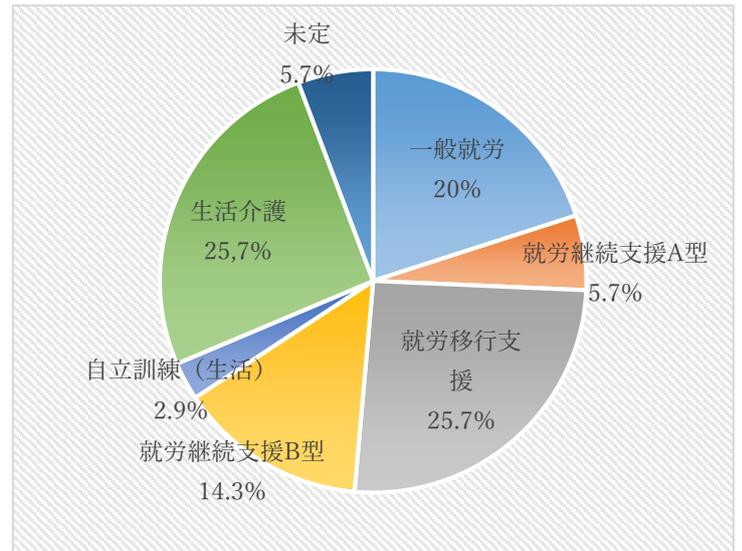
[年間のおもな取り組み]

学期	月	取り組み・活動内容
1 学期	6	前期就業体験（高等部）
	7	進路相談（高等部2・3学年）
夏季休業	8	求職登録 就業・生活支援センター登録
2 学期	10	後期就業体験（高等部）
	11	進路相談（高等部2・3学年） 事業所見学（高等部1学年）
	12	沖特進研「キャリア教育・就労支援発表会」 抽出就業体験（高等部3学年進路未決定者のみ） 進路相談（高等部2・3学年）
3 学期	1	抽出就業体験（高等部3学年進路未決定者のみ）
	2	抽出就業体験（高等部3学年進路未決定者のみ）
	3	新年度の進路計画・立案
年間		卒業生の進路状況確認、職場定着指導

Ⅲ 進路決定

1 進路先分類（令和7年3月1日時点）

No.	進路先分類	人数	割合
1	一般就労	7	20%
2	就労継続支援 A 型	2	5.7%
3	就労移行支援	9	25.7%
4	就労継続支援 B 型	5	14.3%
5	自立訓練(生活訓練)	1	2.9%
6	生活介護	9	25.7%
7	進学	0	0.0%
8	未定	2	5.7%
9	その他	0	0.0%
合計		35	100%



2 進路予定先

進路先	人数	備考（サービスの種類、他）
有限会社レキオスフーズ	3	一般就労
琉海ロジスティクス株式会社	1	一般就労
東の森保育園	1	一般就労
坂田保育所	1	一般就労
一般社団法人 KuKuru	1	一般就労
サンクスラボ株式会社 那覇オフィス	1	就労継続支援 A 型
ハートランドおきなわ首里	1	就労継続支援 A 型
就労支援センターさわやか	1	就労移行支援
自立サポートセンター・みらそる	1	就労移行支援
就労支援センター大樹	2	就労移行支援
てるしのワークセンター	1	就労移行支援
ワークセンター南城	1	就労移行支援
就労支援事業所 ゆいまーる	1	就労移行支援
さぼーとせんたー i とお〜ち	1	就労移行支援
ドリームワークそてつ	1	就労移行支援
ワークセンター愛の園	2	就労継続支援 B 型
ワークサポートセンター南山	1	就労継続支援 B 型
障害者地域生活支援センターそなえ会	1	就労継続支援 B 型
ワークセンター南城 たんぽぽ	1	就労継続支援 B 型
生活訓練 imaCoCo、生活訓練あるてぃー	1	自立訓練（生活訓練）
サポートセンターあすなろ、就労支援センター野の花	1	生活介護
多機能型事業所すぺーす	1	生活介護
シルビアンコペルミント生活介護	1	生活介護
デイセンターのんびり、美原デイサービス	1	生活介護
デイセンターおおさと、生活介護事業所わっくわ〜く	1	生活介護
障害者就労支援施設 ami、デイセンターおおさと	1	生活介護
デイセンターおおさと、沖縄中央育成園生活支援センター	1	生活介護
生活介護事業所うみとたいよう、生活介護 咲心	1	生活介護
生活介護事業所うみとたいよう	1	生活介護
未定（転居、施設入所）	2	

IV 成果と課題

1 主な成果

- (1) 前期・後期就業体験を計画通り実施することができた。3年生は卒業後の進路先決定に向け、2年生は後期から初めての校外実習を体験した。また事前に「ちゅらマナー週間」を実施し、就労を意識したあいさつや言葉遣い、身だしなみを習慣化するための取り組みを実施できた。
- (2) 7月、11・12月には高等部2・3年生および保護者を対象に面談を実施した。また進路先未決定者については面談や抽出実習を随時実施した。進路に対する意識向上のため、2月には1年生保護者にも面談を通して進路に関する情報提供（校外就業体験や新しい福祉サービスなど）できた。
- (3) 沖縄県就労支援コーディネーターによる生徒講話、保護者向け講話（PTA主催）を実施できた。生徒へは就業体験に臨む心構えや目標設定の方法、保護者へは特別支援学校卒業後の進路状況や就職に向け家庭でやっておきたいことなどを伝えていただき、就業体験・進路決定に向けモチベーション向上につながった。
- (4) 青年学級のとりくみを通して卒業生の親御さんから成年後見制度に関する情報が寄せられ、校内で共有し、対応策を保護者へ伝えることができた。
- (5) 福祉サービス利用予定者を対象に、受給者証利用申請の進捗状況を保護者や相談員と確認しながら進めることができた。
- (6) 所在する市町村の自立支援協議会や就労部会に参加し、福祉課や就労支援事業所、相談支援事業所、商工会等、関係機関と情報交換できた。
- (7) 卒業後、すぐに就労継続支援B型事業所を利用したい生徒について、生徒の居住する市町村福祉課等と対応方法について確認し、サービス利用申請前に保護者に情報提供し対応することができた。
- (8) PTAと連携し、保護者向けの福祉サービス説明会や就労支援コーディネーター講話、障害年金受給に向けた社会保険労務士による講話を実施できた。

2 課題

- (1) 一般就職の進め方や定着支援（定着支援サービス、ジョブサポーター、ジョブコーチ、職場適応訓練、卒業生の巡回指導等）の在り方。
- (2) 校内の職業班との連携強化がとても重要であるが、進路学習等についても連携した指導体制作りが課題である。
- (3) 就労移行支援を休止する事業所が出てきており、直接就労継続支援B型を希望することも増えてきている。まだまだ各市町村によって対応にばらつきがあるので、継続した要望を訴えていく必要がある。
- (4) 登校が困難な生徒等への支援や、幅広い生徒の実態に対応できる実習先や進路先の開拓の充実が課題である。

進路指導活動報告書

沖縄県立西崎特別支援学校

I 進路目標

1 指導の方針

- (1) 一人一人の能力、適正を把握し、その可能性の伸張を図るため低学年から指導にあたる。
- (2) 学部、学年、学級との連携を密にして進路指導の充実を図る。
- (3) 生徒、保護者との進路指導の機会を多く持つ。
- (4) 重度・重複の生徒の学習と進路保障ができるように取り組む。
- (5) 追指導、追跡指導を可能な限り行い、フォローアップに努める。

2 指導体制

- (1) 進路指導部を中心に全職員の共通理解のもと、学校教育全般を通じて進路指導を行う。
- (2) 進路指導の中心的な場は学級であり、教育活動全体と有機的な関係の中で行う。

3 進路に関する指導計画（各学部の目標）

- (1) 幼・小学部・・・基本的な生活習慣を中心に正しい言葉づかいができ、健康・安全に気をつけ、友達と仲良くできるようにする。
- (2) 中学部・・・自分の役割を考え、他人と協力する態度を養う。役割、活動を通して勤労意欲を高め労働の意義を知る。
- (3) 高等部・・・働く意義を理解し、積極的に働く態度を養う。

II 活動報告

1 就業体験

- (1) 高等部前期就業体験（前期：5月27日～6月7日）

①実習先の事業種別内訳

学年	生徒数	企業	就労移行	就労継続	生活訓練	生活介護	地域活動	校内
3年	20	5	7	7	0	1	0	1
2年	19	2	13	4	0	0	0	0
1年	33	校内実習（農園班、窯業班、家庭班、木工班）						33

②実習先一覧

サービス	企業	移行支援	継続A・B型	生活介護
事業所名	マクドナルド糸満店	たまん	ハルハウスA	アミ
	ハマキョーパン	大樹	エール	おおさと
	いすゞ自動車	イノー	ハピラボ	
	とみえーる	ソテツ	ひまわりファクトリー	
	ペットボックス	ピース	琉サポ南s	
	ヤマト運輸	ミラソル	りあむ	
	共同リネサービス		米須コースト	
			ブリオ	

(2) 高等部後期就業体験（後期：10月15日～10月25日）

① 実習先の事業種別内訳

学年	生徒数	企業	就労移行	就労継続	生活訓練	生活介護	地域活動	校内
3年	20	3	10	8	0	6	0	0
2年	19	3	6	9	0	1	0	0
1年	33	2	0	0	0	0	0	0

② 実習先一覧

サービス	企業	移行支援	継続A・B型	生活介護
事業所名	いすゞ自動車	たまん	ももA型、ハルハウスA型	Ami
	マックスバリュ糸満北店	イノー	ひまわりファクトリー	おおさと
	トヨタ自動車	ミラソル	ハピラボ、りあむ	ゆいハート
	OTSレンタカー	大樹	カインドハート	すぺーす
	沖縄ビルメンテナンス協会	そてつ	エール、ブリオ	やっほっほ
	かねひで西崎店	テクテク	ボンボン、スペース	アングレカム
	あんしん(キザール)	ピース	ゆかいな仲間達、	なかゆくい
	瀬長島ホテル			

2 施設見学

①工場・施設見学（5月） 対象：高等部1・2年生徒	1年：ドリームワークそてつ 2年：沖縄ヤマト運輸株式会社 障害者就労支援施設イノー
②中3施設見学（6月）	3年：就労支援センターたまん
③PTA施設見学（8月）	カインドハート（移行支援） 障害者就労支援施設イノー（移行支援） ひまわりファクトリー（継続支援B型） 障害者就労支援施設 ami（生活介護）

3 進路講話

(1) 「PTA進路勉強会」（1月実施）

対象：全学部保護者

講師：トータルサポート商会 委託就職コーディネーター 翁長 克

テーマ：「自立に向けて：進路選択で大切にしたいこと」

(2) 「高1・2年進路講話」

対象：高等部1・2年生（2月実施）

講師：障害者就業・生活支援センターブリッジ 國吉利生

内容①：一般就労、就労移行支援・就労継続支援B型について
ブリッジの役割について（就業・生活支援の事例）

講師：障害者就労支援施設イノー 德里 美樹

内容②：事業所の紹介、一般就労の事例紹介

- 4 進路相談（生徒、保護者、担任、進路の四者面談）
 - ・高等部全生徒（1学期全学年、2学期2・3年生、3学期1年生実施）
 - *面談時期以外でもいつでも相談に応じている。
- 5 ビジネスマナー訓練
 - ・企業実習を予定している生徒対象へ不定期に朝30分程度実施
 - ・訓練内容は、挨拶訓練（お辞儀の仕方や発声練習）や面接、履歴書の書き方など
- 6 進路情報誌「潮路」の発行
 - ・就業体験や施設見学、技能検定など、進路に関する内容
- 7 進路の手引きの発行
 - ・年間進路指導計画、企業・福祉サービス事業所の情報、福祉サービスの手続きの流れ
- 8 P T A進路指導部主催「福祉サービス事業所合同説明会」（11月）
 - ・P T A進路指導部と連携し、保護者が実習先や進路先を検討、選択する上で参考となる機会とするために実施
 - ・本校の会議室にて、各福祉サービス事業所別に担当者から事業内容を保護者に説明
 - ・参加事業所：障害サポートBBトレ、みなみの里、米須コースト、
障害者就労支援施設エール
- 9 青年学級「二十歳を祝う会」（1月）
 - ・青年学級への運営協力と二十歳を祝う会への参加

Ⅲ 進路決定状況（2/21付け）

NO	事業所名等	職種	人数	評価
1	株式会社あんしん	運輸業	1	採用
2	いすゞ自動車九州株式会社	運輸業	1	採用見込
3	リゾート琉球株式会社 瀬長島ホテル	宿泊業	1	採用見込
4	ハルハウス	就労支援A型	1	採用
5	障害者就労支援施設 たまん	就労移行	4	利用可
6	就労支援施設 イノー	就労移行	3	利用可
7	就労サポートセンター ミラソル	就労移行	1	利用可
8	ドリームワーク そてつ	就労移行	1	利用可
9	ワークショップ b r i o	継続支援B型	1	利用可
10	障害者支援施設 エール	継続支援B型	1	利用可
11	就労継続支援B型事業所りあむ	継続支援B型	1	利用可
12	障害者支援施設 アミ	生活介護	2	利用可
13	アングレカム	生活介護	1	利用可
14	袋中園	生活介護	1	利用可

15	ディセンター おおさと					生活介護	1	利用可	
一般就労	地域活動 支援センター	訓練等サービス				生活介護	その他	未定	卒業生数
		就労移行	継続支援 A	継続支援 B	生活訓練				
3	0	8	1	3	0	4	0	0	20

IV 成果と課題

1 成果

- (1) 今年度より2年生も後期就業体験において校外実習を実施し、卒業後の進路決定への経験を積むことができた。
- (2) 就労支援コーディネーターと連携し進路相談と職場開拓、進路決定まで効率よく行えた。
- (3) 卒業後の就労継続支援A型・B型利用に関して8月より各市町村と連絡調整が行えた。
- (4) 中学部においては、校内実習等を通して将来の社会参加に向けて意識や就労意欲等を高めることができた。
- (5) 進路に関わる情報(進路の手引き)を作成し1年生へは冊子、2・3年生へは電子媒体により配布することで、教育相談・進路情報・生活指導など学校生活全般に係わる情報発信を一元化できた。
- (6) 福祉サービス事業所や職業センター、就業・生活支援センター等の関係機関と連携し、配慮の必要な生徒の情報交換や進路先に応じた卒業後の支援体制づくりができた。
- (7) 高等部全員に年2～3回の進路面談を計画、実施することで生徒・保護者と情報交換を行い、卒業後の就労に向けた内容や福祉サービスに関する情報の提供ができた。
- (8) 校内における進路指導部・教育支援部・生徒指導部との連携や情報共有を生徒・保護者への情報発信の一元化を検討する取り組みを進めることで、より具体的な案を提案することができた。
- (9) 児童養護施設と児童相談所等の関係機関と連携を図り、就業体験や進路相談、卒業後の支援方法等の情報を共有することができた。
- (10) 進路講話を通して学校による指導だけではなく、外部活用することによって、より社会現場での声を生徒達が聞くことができた。

2 課題

- (1) 進路決定後近隣企業からの採用に関する相談があり、本人・保護者と再度進路について話し合いを持ったが保護者の心配も感じられた。
- (2) 事業所の職員人数の変化や事業所の急な閉鎖による実習や進路変更があり、急な調整が必要になった。
- (3) 生徒の就労意識やスキル等の向上を図ることを目的に、学部間における一貫したキャリア教育の推進、充実に努める。
- (4) 今後、生徒人数増が見込まれるため、関係機関との連携や情報収集に努め、就業体験先の安定した受け入れ協力や新規開拓を行う。
- (5) 進路選択の際に希望する仕事内容や本人の適性を踏まえたジョブマッチングに努め保護者や関係機関等、情報を共有しながら面談等の充実に努める。
- (6) 一般就労を希望する生徒の就労意識の向上のため早めの意識付けが必要である。
- (7) 卒業後に福祉サービスの併用(生活介護支援と就労継続支援B型)等の場合、保護者・本人の希望と利用事業所の方針の確認調整の必要性を感じる。

進路指導活動報告書

沖縄県立宮古特別支援学校

I 進路目標

1 進路指導目標

- (1) 卒業後を見据えた幼小中高及び寄宿舍が連携した一貫性のあるキャリア教育の推進及び進路指導の充実
- (2) キャリア教育の全体計画及び発達段階に応じた職業観・勤労観を育む
- (3) 保護者及び関係機関と連携した進路指導体制の充実

2 進路指導の重点

(1) 幼稚部・小学部

- ① 基本的な生活習慣を中心に日常生活の指導や体力の向上を図り、生き生きとした生活を営む能力の基礎を育む。
- ② 家庭や関係機関との連携を密にし、生活経験の拡大を図る。
- ③ 個別の教育支援計画の活用を図りながら見通しを持った指導を行う。

(2) 中学部

- ① 保護者や他の学部との連携を図りながら情報収集及び提供等を行い、進学に向けての指導を進めるとともに進路についての意識を高める。
- ② 作業学習や就業体験学習を通して、達成感や成就感を感じさせ、働く意欲の育成を図る。
- ③ 小学部で経験した学習を活かし、積極的に生徒が活動できる環境の設定を行い、生徒の自立性を高めさせる。

(3) 高等部

- ① 社会参加・自立に向けて家庭や関係機関、地域社会との連携を図り、生徒の能力や適性にあった進路が選択できるようにする。
- ② 就業体験実習、校内実習を設定し、勤労の意義を理解し、働く意欲を高めさせる。
- ③ コミュニケーションやマナーを日頃から適宜指導し、よりよい人間関係について意識を高めさせる。

(4) 寄宿舍

- ① 基本的な生活習慣の確立
- ② 自主能力の育成
- ③ 自己の健康管理能力の育成

II 活動報告

学期	活動内容
1	<ul style="list-style-type: none">・ 卒業生追指導・ 進路の手引き更新・ 職場開拓・ 就業体験希望調査 (高)・ 就業体験事前学習 (高)

1	<ul style="list-style-type: none"> ・前期就業体験（高1 校内、高2・3 校外 6/10～6/21） ・就業体験事後学習（高） ・就業体験報告会（高） ・保護者面談（高） ・PTA 進路講話（講師所属先：ムサアザ福祉会、みやこ福祉会）
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ハローワーク求職登録、障害者就業・生活支援センター登録（高3） ・卒業生進路講話「就職して感じたこと、後輩たちに向けてアドバイス」（高） （講師所属先：ハチワレスポーツ宮古島勤務） ・就労支援進路講話「社会生活をする上で、必要なこと」（高抽出） （講師：就労支援コーディネーター 翁長克氏） ・後期就業体験事前学習（高） ・後期就業体験（高1 校内、高2・3 校外 10/15～10/25） ・就業体験事後学習（高） ・就業体験報告会（高） ・PTA 進路先見学会（①あけぼの学園B型、②青潮園、③みやこ学園） ・職場見学（中・高） ・小学部作業体験（高等部職業） ・保護者面談（高） ・校内就業体験（中） ・雇用・就労支援フォーラム
3	<ul style="list-style-type: none"> ・二十歳を祝う会 ・重度判定 ・臨時就業体験①（高3・抽出）
通年	<ul style="list-style-type: none"> ・自立の部屋学習（寄宿舎） ・進路だより発行 ・卒業生定着指導 ・関係機関との連絡会議

○ 各学部の取り組み

1 小学部

体験活動（製作体験・施設見学）

校内校外での活動を通して、さまざまな体験を積み重ねながら、社会生活に必要な力を育んでいます。

2 中学部

職場見学

ヒルトン沖縄宮古島リゾートへ見学に行きました。

雇用・就労支援フォーラムで司会をしました。

3 高等部

職場見学（1年生）

先輩の就業体験中に実施

（見学先：アダナス、レストラン太平山）

雇用・就労支援フォーラムで体験発表をしました。

海上保安庁見学

空港見学



ヒルトン見学

(2) 就業体験学習（校内）

- ・農業班、家庭班の生産活動、清掃活動、袋詰め、ラッピング、販売



3 高等部

(1) 就業体験学習（令和6年度2月14日現在）

	一般就労	福祉的就労(A型)	福祉的就労(B型)	その他
前期就業体験	3名	3名	8名	3名
後期就業体験	6名	2名	5名	4名
臨時就業体験	1名	1名	0名	0名

就業体験先（一般就労）

スーパー、空港、飲食店、自動車会社等

(2) 就労支援進路講話

卒業後の進路先が一般就労を希望している社会生活のスキルが必要となる生徒を抽出で講話を行った。今年度は就労支援コーディネーター翁長克氏に「社会生活をする上で必要なこと」について講話を聴き、就業体験の「評価表」を基に個別の課題やこれからやるべきことのアドバイスをしてもらうことができた。

(3) 卒業生進路講話（教科：職業）

スポーツジムに勤めている卒業生に来校してもらい、「卒業後の今の状況」や「就業体験のアドバイス」を講話形式やインタビュー形式で行った。卒業後1,2年の先輩に講師をしてもらうことで、卒業後の社会生活を身近に感じてもらい、多くの活発な質問がありました。

(4) 学習発表会

高等部の職業の生産物やサービス、体験活動そして中学部の施設見学の成果発表として掲示物を展示（R7.2.1）。保護者以外の来校もあり、昨年度よりも大賑わいの中で実施することができた。保護者や地域の方に生徒の学習の成果物を購入して頂きました。



4 寄宿舎

(1) 自立の部屋学習（自分で生活を組み立て、卒業後の自立した生活に備える）

対象者：寄宿舎生高等部1～3年生

実施期間：5月～2月（個に応じて行う。）

Ⅲ 進路決定状況

1 進路状況（令和7年2月14日現在）卒業生6名（男子：5名、女子：1名）

一般就労	就労移行 支援	継続支援 A型	継続支援 B型	生活介護	その他
2	0	0	1	1	2

2 令和6年度卒業生進路予定先

事業所名など	職種	人数
はなまる弁当	一般就労	1
トヨタタウン宮古島支店	一般就労	1
株式会社グットトライ	継続支援B型	1
障害者デイサービスセンターいけむら	生活介護事業所	1
その他		2

Ⅳ 成果と課題

1 成果

- (1) 就業体験（校内・校外）を計画通り実施することができた。6月の前期、10月の後期以外に抽出で1月と2月に生徒の進路決定の状況に合わせて実施することができた。
- (2) 今年度は感染症の影響を受けずに、PTA進路部主催の進路講話、事業所見学ともに予定通り実施することができた。事業所見学は就業体験中に実施し就業体験の様子と同時に見学できた。また、保護者の希望に応じて生活介護事業所見学も実施することができた。
- (3) 保護者を招いて、就業体験報告会を開催することができた。先輩から後輩に仕事内容や成果や感想を伝える事により、次年度に向けて保護者への企業や事業所への情報提供になり、生徒の進路希望を考える機会になった。参加する保護者が増えた。
- (4) インターシップ保険をビジサボ学校賠償プラン（生徒の補償は学校管理下のみ）正式名称：統合賠償責任保険に変更したため、迅速な手続きができ良かった。
- (5) 小学部の児童が、中学部・高等部の授業の体験を行い、卒業後の見通しを持たせることができた。
- (6) 不登校の生徒に対して、抽出して事業所見学を行い、卒業後に向けた見通しを持たせることができた。

2 課題

- (1) PTA進路部主催進路講話や見学会への幼小学部・中学部保護者の参加が少ないので周知工夫、改善を図る。
- (2) 高等部において、早期の進路決定に向けた保護者への説明・情報提供、及び理解を促す必要がある。
- (3) 小・中学校から入学してくる生徒のキャリアパスポートの活用の工夫を図る。

進路指導活動報告書

沖縄県立八重山特別支援学校

I 進路目標

1 幼小学部

幼・小学部では、作業学習や就業体験などの直接就労に結びつくような進路指導ではなく、中学・高等部での進路指導へ向けての土台作りとして、キャリア教育の視点を取り入れた「基本的な生活習慣の定着」「体力の向上」「生活体験の拡大」「コミュニケーション能力の向上」をねらいとして、各教科等を通して指導を行っている。幼児児童の将来の自立・社会参加を望む上で、丈夫な身体と豊かな感性を基盤として、自身が住む地域や社会へ参加していこうとする意欲を育むことを目指している。また、基本的な生活習慣の定着に向けた取り組みとしては、個々の幼児児童の実態や発達段階に応じ、学校生活の流れに沿って、摂食や排泄、衣服の着脱、清掃活動などの指導が各学級で行われており、体力の向上を目指して、週2回15分間のリトミック・持久走を行っている。

2 中学部

本校中学部では、小学部のキャリア教育で培った能力資質をさらに発展させるため、地域での職場見学や校内就業体験を毎年行っている。各生徒の実態に合わせた見学場所や作業内容を設定し、事前学習を兼ねた取り組みとしている。社会生活や職業生活に必要な基礎的能力や態度を育てることや校外での就業体験を通して、働くことに対する関心をもち、働く喜びを味わい、卒業後の進路に対する意識を高めることを重点に置き取り組んでいる。また新たな取り組みとして、「あいさつスタンダード」と称し、段階に応じたあいさつ運動を実践中である。さらに、「クリーンデイ」では、計5回の活動日を設け、任された清掃場所をきれいにするだけにとどまらず、仲間と協力して活動する等、社会性を身につける取り組みへと発展させている。

(1)職場見学（見学先：八重山ビル管理株式会社、南ぬ島石垣空港内の清掃）

① ねらい

- ・校内実習を通して、働くことの意識を高める。
- ・みんなと仲良く協力し、ねばり強く最後まで頑張る態度を養う。
- ・楽しく参加し、自分の役割が果たせるようにする。

② 実施日

令和 6年 10月11日（金）

(2)進路学習（講師：進路主任 高等部 東 宏樹先生）

① ねらい

- ・高校生として求められる力を理解し、日々の学習や生活に活かす。
- ・社会生活や職業生活に必要な基礎的能力や態度を育てる。
- ・中学部段階での職業準備性の段階を知り、今後の課題を明確にする。

② 実施日及び対象学年

令和 6年 6月28日（金）、10月25日（金）、令和 7年 2月7日（金）

3 高等部

生徒が自らの在り方や生き方を考え、豊かにたくましく生きていくために、校外のあらゆる学習の場を通して計画的、組織的、継続的に取り組みを行う。

就業体験学習の充実を図るとともに積極的な職場開拓に努め、職業教育や進路指導の充実を図るとともに、卒業後を見据えたより実践的な進路指導を展開する。

卒業後においても個別の移行支援計画を活用して地域の関係機関と協力したきめ細かな支援を行う。

(1) 就業体験

今年度の就業体験は6月3日から6月14日までの2週間、全生徒、全22箇所（企業・事業所・施設等）での実習を行った。

3年生に関しては、7月22日から8月2日までの2週間、全12箇所（企業・事業所等）での就業体験を行った。抽出による就業体験を含め複数回、実施することができた。3年生においては、年度初め、生徒及び保護者に進路希望調査を行い随時、面談を行うなど準備を進めたことで、希望に沿った職種で就業体験ができ、本人及び保護者が納得の得られるかたちで就労へと結びつけることができた。

(2) ハローワークでの求職登録及び1，2年対象合同企業説明会

今年1月に3年生を対象にハローワーク八重山で求職登録を行った。ハローワークとの情報共有（求人情報等）を密にすることで個々の進路決定に繋げることができた。また、2月に1，2年生を対象に八重山地区14企業が集う合同説明会に5名が参加し、卒業後の進路に対する意識を高めた。

(3) 販売学習（第1回販売会、八特祭高等部販売会）

日頃の作業学習の成果をアピールするとともに、卒業後の進路を意識して働くことや収入を得ることとの関連性を知る機会とすることを目的とし、7月5日、本校体育館にて保護者向けに「第1回販売会」を実施した。事前学習ではロールプレイを取り入れたあいさつ練習や身だしなみ指導、接客方法等を学習した。また、数学の授業ではレジ操作や金銭の取り扱いについて、国語では接客用語の練習等、作業学習以外の教科との連携を図り指導する事ができた。

さらに、1月25日の八特祭では、「第1回販売会」の反省や課題をいかした上で、大盛況を得た。前回の販売会に比べ、接客態度がだいぶ向上しており、一人一役の係活動も頑張ることができた。

(4) 八重山地区企業・事業所説明会

今年初の試みとして5月25日に本校体育館において、八重山地区の9つの企業・事業所を招集し「八重山地区企業・事業所説明会」実施した。ねらいは保護者と各企業・各事業所が直接、意見交換ができる機会を設けることで、多くの保護者が訪れ、説明を聞く姿があった。

(5) 八重山労働基準監督署の出張セミナー

12月6日（金）、八重山労働基準監督署の渋谷雄太署長を招聘し、「働くための基本ルール教室」と題して、講義していただいた。「労働契約」等の話を本校生徒向けにアニメ動画を活用してわかりやすく説明したことで、理解を深めることができた。

Ⅱ 活動報告

月	活 動 内 容
4	<ul style="list-style-type: none"> ○進路オリエンテーション（全幼児児童生徒保護者対象） ○進路希望調査（中学部・高等部対象） ○進路アンケート（全学部対象） ○卒業生定着指導
5	<ul style="list-style-type: none"> ○職場開拓（就業体験実習先） ○就業体験保護者説明会（高等部） ○八重山地区企業、事業所説明会
6	○校内外就業体験及び報告会（高等部）
7	<ul style="list-style-type: none"> ○第1回進路面談 ○第1回販売会（本校体育館）
8	○3学年就業体験（夏季休業中就業体験）
9	○職業評価（高等部）
10	<ul style="list-style-type: none"> ○第2回進路面談 ○3学年抽出就業体験
11	<ul style="list-style-type: none"> ○受給者証申請等のための聞き取り調査 ○マッチング説明会（生徒、保護者）
12	○後期就業体験（高等部3年生）
1	<ul style="list-style-type: none"> ○後期就業体験（抽出実習） ○求職登録（高等部3年生） ○受給者証申請等のための聞き取り調査 ○重度判定（一般就労希望者高等部3年生）
2	<ul style="list-style-type: none"> ○後期就業体験（抽出実習） ○八重山地区就業・生活支援センターどりいむ登録（高等部3年生）
3	○進学・就職者の準備及びサポート
年間を通して	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生定着指導及び追指導 ・進路関連資料の配布 ・就業支援連絡会（月例：就業・生活支援センター、ハローワーク、福祉、学校） ・職場開拓 ・就職内定への取り組み ・進路相談 ・ケース会議

Ⅲ 卒業生進路決定状況

令和 7年3月1日現在

進路区分内訳			事業所別内訳			
区分	希望者	内定者	事業所名	男	女	計
一般就労	2	2	株式会社オンデーズ	1	0	1
			宮平観光株式会社	0	1	1
就労継続B型	2	2	大丈夫	0	1	1
			育成園	1	0	1
就労移行支援	1	1	サンマーリン	0	1	1
未定	1	1	調整中（一般就労希望）	0	1	1
合計	6	6		2	4	6

Ⅳ 成果と課題

(1) 成果

- ・職業実習（園芸班・木工班・家庭班・陶芸班・クリーンサービス班）での取り組みを就業体験や就労に結びつけることができた。
- ・保護者を交えての進路面談を随時実施することができた。定期的な実習だけに留まることなく3年生に関しては抽出での実習を何度か行うことで進路決定に結びつけることができた。
- ・最終のマッチング段階では、雇用する側との齟齬が生じないように保護者を含めた話し合いを行った。
- ・外部機関（ハローワーク、地区就業・生活支援センター等）と連絡会や連携を通して進路指導の充実を図ることができた。
- ・職場開拓を積極的に行うことで、就業体験先の拡大につながった。また、就業体験の取り組みを充実したことで、生徒及び保護者に卒業後の就労意識を高めることができた。
- ・大手企業「美ら花グループ」との協力協定を結ぶことができた。今後、就労に向けた取り組みが充実すると思う。

(2) 課題

- ・キャリア教育について全職員が理解し、意識をもちながら日頃の教育活動に取り組めるように研修や情報提供などの継続的な取り組みが必要である。
- ・一般就労者の希望が多く、生徒のニーズに合った受け入れ企業等の開拓や地域企業等への情報発信が必要である。

進路指導活動報告書

沖縄県立沖縄高等特別支援学校

I. 進路目標

1 基本方針

- (1) 生徒一人一人が自分の将来の生活に関心を持ち、自分の能力・適性を理解して、主体的に進路を選択・決定できるようにする。
- (2) 卒業後の生活を豊かにするために必要な力を伸ばしていけるよう、関係機関等との継続的な支援の環境づくりをする。

2 重点目標

生徒一人一人の能力や適性に応じた進路指導を行うことにより、就労による社会自立を目指す。

II. 活動報告

学期	月	活 動 内 容
1	4	<ul style="list-style-type: none"> ○校内研修 「本校進路指導と進路の手引きについて」 ○進路保護者研修会 「本校進路指導について/障害者雇用の現状と保護者の支援」 ○校内就業体験希望調査説明会 (1年生)
	5	<ul style="list-style-type: none"> ○校内研修 「就業体験説明会」 ○1学期就業体験・校内就業体験 保護者説明会 ○第1回沖縄特進研 総会・研修会 ○就労支援担当者連絡会議①
	6	<ul style="list-style-type: none"> ○1学期就業体験・校内就業体験 (5/29～6/9) ○校内研修 「定着指導について」 ○卒業生定着支援の実施 ○企業合同説明会 2社：(株)サンエー・サンエー運輸/ (株)金秀興産 ○進路学習会 「障がい者就業・生活支援センター登録、求職登録について」 (3年生)
	7	<ul style="list-style-type: none"> ○第2回沖縄特進研 役員会・研修会 ○就労支援担当者連絡会議② ○沖縄県障害者技能競技大会 (アビリンピック地方大会) ○2.3年三者面談 (本人、保護者、担任、進路担当) 7/25～8/1 ○定着支援 R4・R5年度卒業生対象～8月 (全職員)
	8	<ul style="list-style-type: none"> ○就労支援ネットワーク協議会① ○就労支援担当者連絡会議③ ○ハローワークへの求職登録 (北部地区・中部地区・那覇地区・南部地区) ○R6年度 障害者就職ミニ面接会

学期	月	活 動 内 容
2	9	○障がい者就職合同面接会 ○特別支援学校就業支援キャンペーン (兼正青果：生徒2名参加) ○お仕事発見フェア 生徒2名参加
	10	○第3回沖特進研 役員会・研修会 ○入学募集要項説明会(進路について) ○就労支援ネットワーク協議会④ ○2学期就業体験 保護者説明会 ○2学期就業体験(全学年 10/10～20) ○就労支援機関学校見学(公的機関)
	11	○3年生就業体験報告会(全生徒) ○企業合同見学会(40社参加) ○3年三者面談(本人、保護者、担任、進路担当) 11/1～11/30 ○全国障害者技能競技大会引率(喫茶サービス部門・情報処理部門) ○第4回沖特進研 キャリア教育事業・就業体験発表会(意見発表：3年比嘉月海)
	12	○沖縄県障害者職業センターによる重度知的障害者判定 ○進路希望調査保護者説明会 進路講話 (1・2年生保護者向け) ○進路希望調査説明会 (1・2年生生徒向け)
3	1	○3学期就業体験抽出(3年：1/15～1/26) ○2年生三者面談(本人、保護者、担任、進路担当) ○進路講話(3年生)「余暇活動について」 琉球スポーツサポート 手登根 雄次 氏 ○うるま市洲崎地区企業見学バスツアー(1, 2年生)
	2	○企業向け学校見学会② ○就労支援担当者連絡会議⑤ ○就労支援ネットワーク協議会② ○第5回沖特進研 役員会・研修会 ○2・3年生三者面談(本人、保護者、担任、進路担当) ○北大東島就労体験実習(2年生対象)
	3	○新入生オリエンテーション
通年		○卒業生定着指導 ○卒業生相談支援 ○抽出実習(2, 3年生)

Ⅲ. 進路決定状況

No.	事業所名など	職種	状況 (3/1 現在)
1	株式会社 サンエー	販売補助	内定
2	カインズ ABLO うるま店	販売補助	内定
3	株式会社リウボウストア (普天間りうぼう)	販売補助	内定
4	セブンイレブン伊祖店	販売補助	内定
5	イオン琉球株式会社	販売補助	内定
6	株式会社ユニクロ イーアス沖縄豊崎店	販売補助	内定
7	おんなの駅なかゆくい市場	販売補助	内定
8	金秀商事株式会社 タウンプラザかねひで	販売補助	内定
9	ホテル日航アリビラ	厨房補助	内定
10	沖縄ビル・メンテナンス株式会社 (ラグナガーデンホテル)	客室清掃	内定
11	北沖縄ビル管理株式会社	清掃	内定
12	医療法人徳洲会 中部徳洲会病院 (清掃業)	清掃	内定
13	医療法人 信愛の丘 (清掃業)	清掃	内定
14	あめそこ保育園	保育補助	内定
15	ひがしの大空こども園	保育補助	内定
16	株式会社 Kapok	建設業	内定
17	有限会社 沖縄イリョーサービス	クリーニング	内定
18	株式会社ぐしけん	食品加工	内定
19	株式会社 フリジポート 沖縄うるま工場	食品加工	内定
20	株式会社 あきんど スシロー	食品加工	内定
21	(株) 兼正青果	食品加工	内定
22	(株) オーディフ	食品加工	内定
23	株式会社 ソーイングアイ	製造業	内定
24	株式会社 JoeB テック	製造業	内定
25	拓南商事株式会社	リサイクル	内定
26	株式会社拓琉リサイクル研究センター	リサイクル	内定

27	沖縄トヨタ自動車株式会社	洗車	内定
28	老人ホームあぐに	介護	内定
29	うるま市役所	事務補助	内定
30	金武町役場	事務補助	内定
31	日本郵便局株式会社 石川郵便局	事務補助	内定
32	就労支援センターさわやか	就労移行	内定
33	就労継続支援 やーにんじゅ	就労継続 A 型	内定
34	株式会社ハートランドおきなわ	就労継続 A 型	内定
35	具志川職業能力開発校（総合実務科）（2人）	進学	内定
36	株式会社 金秀商事	販売補助	調整
37	読谷村役場	事務補助	調整
38	在宅（2人）		その他

IV. 成果と課題

1. 成果

- (1) 2年生までは寄宿舎からの就業体験（職種体験）だったが、2年希望者も3年生同様（就職を見据えて）の自宅からの就業体験を進めることができた。
- (2) 企業に向けた学校見学会で、40社近く参加があり、生徒による説明を取り入れて学校のPRを行うことができた。
- (3) 中城湾新港地区企業見学バスツアーを実施し、生徒の意欲を伝えたことで就業体験受入れ企業が増えた。また、うるま市の協力もあり、コミュニティーバス停留所1増できた。
- (4) 各地区での企業合同説明会に積極的に参加し、就業体験の実施や採用など進路開拓に結びつけることができた。

2. 課題

- (1) 生徒の就労意識を早めの段階で向上させ、企業とのマッチングを図る。
- (2) 今年度から福祉コースを新設したので、介護・保育の企業開拓を広げなければならない。

令和6年度 進路指導活動報告

沖縄県立陽明高等支援学校

I 進路目標

進路指導は、学校教育活動全体を通して行い、生徒一人一人の能力・特性等を把握し、個々の生徒の実態に応じた進路選択に努め、卒業後の社会生活に必要な能力や態度の育成を図る。

- (1) 生徒一人一人が自分の将来の生活に関心を持ち、自分の能力・適性を理解して、主体的に進路を選択・決定できるようにする。
- (2) 卒業後の生活を豊かにするために必要な力を伸ばしていけるよう、関係機関との継続的な支援の環境づくりをする。

II 活動報告

1 [年間の取り組み]

	月	取り組み内容
1 学期	4	○就業体験先の開拓・実習先面接及び事前挨拶
	5	○進路保護者説明会・進路講話 講師：就労支援センターみらそる「就労に必要な力と制度・年金について」 ○就業体験先・実習先の開拓・事前面接及び事前挨拶
	6	○就業体験事前学習 ○1学期就業体験（2・3年生校外・1年生校内） ○就業体験先・実習先の開拓・事前面接及び事前挨拶
	7	アビリンピック ○四者面談：就業体験の振り返り、2学期就業体験先、進路希望、各自の課題の確認。 ○ハローワーク求職者登録
2 学期	8	南部地区：本校にて説明会、個別面談・求職登録（那覇ハローワーク来校） 中部地区：ハローワーク沖縄にて個別面談、求職登録
	9	○生活・就業支援センター登録 南部地区：かるにあ 中部地区：花灯 面談・登録手続き
		○就業体験先・実習先の開拓・事前面接及び事前挨拶 ○就業支援キャンペーン
	10	○就業体験保護者説明会・卒業生講話 講師：国際ビル産業 杉本佳隆様 喜屋武琉希様 「企業に求められる人材とは」
		○2学期就業体験実習（全学年校外2週間） ○就業体験反省会（全学年）…各体験先にて反省会（3年生保護者同伴）
	11	○就業体験報告会 … 成果や課題の報告
		○電卓技能検定試験 ○特別支援学校技能検定
○四者面談 3年：就業体験の成果と課題・今後の流れを確認		

		1, 2年：就業体験の成果と課題の確認
		○テーブルマナー講習（3年）：ロワジュールホテルにて（外部講師）
	12	○キャリア教育就労支援発表会（販売学習）
		○みだしなみ講座（3年）：本校にて（資生堂より外部講師）
		○就業体験先・実習先の開拓・事前挨拶（抽出実習）
3 学 期	1	○保護者向け進路講話 講師：中部地区障害者就業・生活支援センター花灯センター長 知花えりか様「就職後に受けられる支援と相談事例について」
		○抽出就業体験実習（進路先未決定の3年生のみ実施）※3月まで実施の可能性あり
		○ハローワーク紹介状受け取り（本人・保護者）
		○四者面談（3年：就労手続と移行支援計画の確認、12年：希望就業体験先と課題の確認）
	2	○企業面接（各生徒、保護者、進路担当同伴で面接）
		○入社手続き（必要な企業のみ雇用契約書受け取りの同行）
	3	○生活・就労支援センターと企業への引継ぎ：顔合わせ、個別の移行支援計画の引継ぎ

2 活動内容について

(1) 職業

職業の授業を通して、挨拶・姿勢・聞く態度・身だしなみ等についての学習を行っている。また、就業体験前には事前学習週間として、朝のSHRの時間に実習のしおりを読み合わせるなど学級での取り組みも合わせて行い、就業体験先から出された生徒個々の課題解決に向けた取り組みや、一般就労を実現するために必要なビジネスマナー、対人スキルなどを学習している。

(2) 技能検定・アビリンピックへの参加

特別支援学校技能検定への取り組みも挑戦する生徒が多く、今年度は第1回技能検定14名、第2回技能検定16名参加している。流通サービスやトータルクリーニング、情報の授業を通して身につけた技術を更に伸ばすため、放課後練習にも励んでいる。

アビリンピックでは、パソコンデータ入力部門で金賞、オフィスアシスタント部門で金賞、喫茶サービス部門で努力賞を受賞し、金賞の二人は11月の愛知県での全国アビリンピック大会に県代表として出場することができた。

(3) キャリア教育・就労支援発表会への参加（販売学習）

昨年度新校舎での学習がスタートし、食品加工班も設備の整った加工室での学習に取り組むようになった。昨年度初めて校内での販売学習に6つの作業班がそれぞれ役割分担し取り組み、今年度も6月に実施した。生徒たちも仕込みから販売までの流れを徐々に把握できるようになってきており、今回キャリア教育・就労支援発表会に向けても、2週間前から試作を重ねたりしながら全学年でパン・菓子製造を協力して行い販売学習への参加となった。校内販売とは違い、企業や他校の職員・生徒・保護者等への接客は緊張感もありとても良い刺激となった。

(4) 進路講話

保護者向け講話：外部講師を招き、保護者向け進路講話を3回実施した。「就労に必要な身につけたい力と制度・年金について」は就労サポートセンターミラソルセンター長の葛原明美様、「企業に求められる人材について」は(株)国際ビル産業部長の杉本佳隆様、卒業生講話に同じく(株)国際ビル産業の喜屋武琉希様、「就職後に受けられる支援と相談事例について」は中部地区就業・生活支援センター花灯センター長の知花えりか様よりご講話いただいた。

例年卒業生講話は生徒向けに行っていたが、今年度就業体験保護者説明会の日に設定し、生徒・保護者とも一緒に話を聞き、卒業生の生活について共有することができ好評だった。

(5) 講習会

卒業を目前に控えた3年生を対象に家庭科の授業の一環で実施した。

ア) テーブルマナー講習

テーブルマナー講習を通して、一般常識や礼儀作法を身につけることをねらいとし、ロワジールホテル那覇にて実施。コースメニューを頂きながらテーブルマナーについての基本的作法やマナーについて講話を交えながら実践的に学んだ。

イ) みだしなみ講座

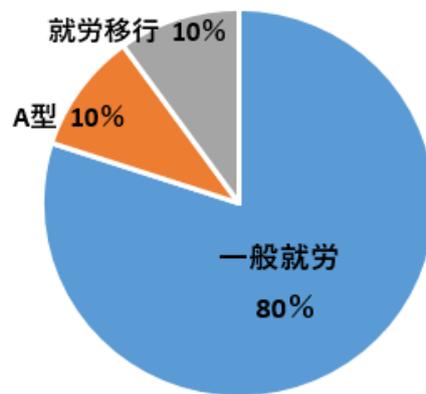
(株)資生堂の職員を講師として、社会人としてのみだしなみのポイントについて講習を行った。男女に分かれ、それぞれのビジネスマナーや洗顔、肌のスペシャルケア、ヘアスタイルなどの身だしなみ、女子はナチュラルメイクなども実際に体験し、面接時や就職時にも活用できる内容となっていた。



Ⅲ 進路決定状況

1 進路先分類 (令和7年2月10日時点)

NO	進路先分類	人数	割合
1	一般就労	16	80%
2	就労継続支援A型	2	10%
3	就労移行支援	2	10%
4	就労継続支援B型	0	0%
5	地域活動支援センター	0	0%
6	自立訓練	0	0%
7	生活介護	0	0%
8	進学	0	0%
9	未定	0	0%
10	その他	0	0%
	合計	20	100%



2 進路予定先 (令和7年2月10日現在)

※見込みを含む

進路先	人数	業種	仕事内容	備考
サンエー	3	スーパー・飲食店	店内業務全般・接客	一般就労
(株)タカダ 沖縄DDC	2	流通	倉庫内作業	一般就労
琉球エアコンピューター株式会社	1	事務作業		一般就労
タウンプラザかねひで	1	スーパー	店内業務全般	一般就労

ウイングアーク 1 s t 株式会社	1	農業	農業全般	一般就労
国際ビル産業	1	清掃業	清掃業務	一般就労
(株)特別養護老人ホーム 大名	1	介護	介護全般	一般就労
デイサービスおれんじ	1	介護	介護全般	一般就労
パティスリーアッシュユウジ	1	食品加工	洋菓子製造	一般就労
モスバーガー	1	飲食業	調理補助	一般就労
沖食スイハン株式会社	1	食品加工		一般就労
(株)琉球銀行	1	事務作業	清掃業務	一般就労
日本郵便株式会社	1	清掃業	清掃業務	一般就労
サンクスラボ 浦添オフィス	1	就労継続支援 A 型	PC 業務	A 型
(株)はじめのいっぽ	1	就労継続支援 A 型	PC 業務	A 型
アップドゥ合同会社	1	就労移行支援	就労訓練	移行
楽学喜サポート アチェンド	1	就労移行支援	就労訓練	移行
計	20			

IV 成果と課題

1 主な成果

- (1) 就労へつながる職種へ新たに開拓を行ない、希望する職種や、適性・能力に応じた職場へ就職することができた。
- (2) 生徒・保護者、授業担当者として生徒個々の課題を確認して改善を図ったことで就労へつなげることができた。
- (3) 求職登録など卒業後に向けた各種手続きについて、ハローワークや就業・生活支援センターと連携して進めることができた。
- (4) 県内企業及び外部機関を講師として招き、講習会を実施し、就職や卒業後の生活に対する意識づけができた。
- (5) 就労や福祉サービス利用についてハローワークや市町村の福祉担当者と連携を取った。

2 課題

- (1) 県内の経済状況等の企業の動向を見極めながらの新たな職場開拓。
- (2) 教育活動全体を通して、生徒個々の更なる課題解決に向け、生徒・保護者、担任、授業担当者と連携した継続支援。
- (3) 採用に向けた手続き、福祉サービスの手続きなど、保護者への周知と進路の手引きの活用。
- (4) 卒業生の就職定着のため、就業・生活支援センター等の外部機関との引継ぎと連携。
- (5) 就労移行支援等の福祉サービスを利用する際のサービス利用までのスムーズな手続き。(デイなどを使っていない生徒は、相談支援事業所を探すことから始める必要がある。)

進路指導活動報告書

沖縄県立南風原高等支援学校

I 進路目標

将来、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための力を養う視点から教育を行う。実際の指導に際しては、学校教育活動全体を通して行い、生徒一人一人の能力・特性等を把握し、個々の生徒に応じた進路選択に努めるとともに、卒業後の社会生活に必要な能力や態度の育成を図る。

II 活動報告

1 年間の取り組み

学期	月	取り組み
1	5	<ul style="list-style-type: none"> ・進路保護者説明会 ・保護者向け進路講話（就労支援コーディネーター翁長克氏） ・就業体験先挨拶及び面接、通勤練習 ・美らマナー週間
	6	<ul style="list-style-type: none"> ★1学期就業体験 校内（1年：農業、トータルクリーニング、食品加工） トータルクリーニング技能研修 校外（2・3年） ・就業体験事前事後学習 ・就業体験報告会 ・四者面談（～7月）：振り返り ・就業体験先について
	7	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生ハローワーク那覇施設見学 ・ハローワーク求職登録（3年） ・卒業生の追指導、事業所巡回
	8	<ul style="list-style-type: none"> ・就業・生活支援センターの登録（3年） ・実習先、就職先開拓
2	9	<ul style="list-style-type: none"> ・就業体験先挨拶及び面接、通勤練習
	10	<ul style="list-style-type: none"> ・就業体験保護者説明会 ・就業体験事前学習 ・卒業生講話（4期生卒業生4名） ★2学期就業体験 ・就業体験事後学習：振り返り、評価票分析、お礼状作成など
	11	<ul style="list-style-type: none"> ・就業体験報告会 ・四者面談（～12月） ・就業体験の評価、次回の就業体験先、3年：就職までの流れ
	12	<ul style="list-style-type: none"> ・進路未決定者の確認及び3学期就業体験の準備 ・就業体験事前学習（3年抽出） ・キャリア教育・就労支援発表会（特別支援学校の取り組み報告）

3	1	<ul style="list-style-type: none"> ・就職手続き（3年：ハローワーク指名求人票、最終面接、入社手続き） ★3学期就業体験（3年抽出） ・就業体験事前事後学習（3年抽出） ・就業体験先挨拶及び面接（3年抽出） ・個別移行支援計画の作成（3年）
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・金融セミナー・年金講話（3年） ・外部講師による調理実習リゾーツ琉球（1年） ★抽出就業体験（3年抽出） ・四者面談（1、2年：次回の就業体験先について） ・就業・生活支援センターや関係機関及び事業所との引継ぎ（3年）
	3	<ul style="list-style-type: none"> ・施設見学（2年） ・就業・生活支援センターや関係機関及び事業所との引継ぎ（3年）
年間を通して		<ul style="list-style-type: none"> ・職業（朝のSHRにて全学年一斉指導）・職場開拓（就職先の開拓） ・進路相談（担任及び進路担当） ・地域に開かれた学校づくり（農園芸・食品加工・トータルクリーニング） ・卒業生の追指導、関係機関との情報交換 ・沖縄県特別支援学校進路指導研究会 ・令和6年度「特別支援学校キャリア教育・就労支援充実事業」に係る ・就労支援ネットワーク協議会 ・令和6年度南部地区障害者自立支援連絡会議就労部会への参加

2 各取り組みの具体的内容

(1) 職業

職業では、あいさつ練習を始めキャリアパスポートを含めた就職に必要な学習をしている。学年を縦割りにし、先輩や後輩の目標や就業体験を共有することにより、他者理解・自己理解を深める機会を設定している。

(2) 評価票の作成及び活用

「かふやみ 15 の力評価票」を作成し、就業体験を始め職業や他教科と連携しながら、生徒の就労への意識を高める取り組みを行った。

(3) 就業体験

年に2回、2週間の就業体験を実施している。1年生の1学期は、校内就業体験を農園芸班、トータルクリーニング班、食品加工班で行った。2・3年生は、生徒が希望する職種や企業へ校外就業体験を行った。

(4) 進路講話及び進路保護者説明会

進路保護者説明会（2024.5.12）で就労支援コーディネーター翁長克氏による「特別支援学校からの雇用例と職業選択について」を演題として保護者向けに進路講話を行った。就業体験事前学習（2024.5.20）として同じく翁長克氏による「実習の心構え」を演題として生徒向け講話を実施した。

- (5) 特別支援学校技能検定の取り組み、アビリンピックへの出場
技能検定ではメンテナンス部門（テーブル拭き、モップ、ダストクロス）、喫茶サービスの練習に取り組み、受検することができた。アビリンピックにビルクリーニング部門、接客サービス部門に出場することができた。
- (6) トータルクリーニング技能公開研修（2024.05.30）
国際ビル産業の講師3名を招き、ビルクリーニングの実技指導（ガラス、モップ、机拭き）して頂き、清掃業務の基礎・基本を学んだ。
- (7) 年金・金融トラブル・消費者教育講話
南風原高校と一緒に、年金・金融トラブルについて卒業前講話を行った。
- (8) ハローワークの見学（2024.07.17）
3年生の生徒を対象に、ハローワークを訪問し、ハローワークの概要や求人検索方法、登録方法を学んだ。後日、別日でハローワークの求職登録を行った。
- (9) 卒業生講話（2024.10.15）
市役所、ホテル、総合スーパー、介護と職種の異なる4期生4名を招き、保護者及び生徒向けに講話を行った。生徒の就職への意識を高める良い機会となった。
- (10) 卒業生の追指導
昨年度の卒業生状況について、夏休み等を利用して職員で状況を確認した。また相談がある生徒については、障がい者就業・生活支援センターと連携することができた。

Ⅲ 進路決定状況

	職種	事業所	(3/1現在)
1	販売	麦飯石の水 中城店	内定
2	事務補助	那覇市役所 こども教育保育課	内定
3	製造業	株式会社ホクガン 糸満工場	内定
4	製造業	オキコ株式会社	内定
5	事務補助	那覇市役所 環境部クリーン推進課	内定
6	進学	学校法人みのり学園 琉球調理製菓専門学校	進学
7	製造業	美ら卵養鶏場 南風原喜屋武店	内定
8	スーパー	株式会社サンエー 豊見城ウィングシティ	内定
9	建設業	塩月興業	内定
10	飲食店	やっぱりステーキ 4th 国際通り店	内定
11	リネンサプライ	株式会社 ニック	内定
12	スーパー	コープ寒川	内定
13	製造業	(株) 沖縄パイオニアフーズ	内定
14	販売	JA おきなわ 食彩館菜々色畑	内定

15	スーパー	株式会社サンエー つかざんシティ	内定
16	航空機地上 支援業務	JALスカイエアポート沖縄株式会社	内定
17	製造業	ステーキハウス 88Jr	内定

IV 成果と課題

1 成果

- (1) 職業では、進路担当及び担任による職業を全学年合同で取り組んだ。挨拶練習を始めキャリアパスポートを含めた就職に必要な学習を行うことができた。先輩や後輩の未来宣言や実習先の探し方などにより、次の就業体験先を考える機会となった。
- (2) 「かふやみ 15 の力」を意識した目標を立て、日々の学校生活や家庭生活を振り返り、自己理解を深めることができた。学校、家庭、企業と連携し、卒業後の就職と結びつけて在学中から主体的に取り組む姿勢が見られた。
- (3) 進路講話及び進路保護者説明会で就労支援コーディネーター翁長克氏を招いた。生徒には実習の心構えとしてどのような力が必要なのかを考える機会となった。また進路保護者説明会では、生徒の就労や卒業後の生活、障害者雇用の現状や卒業後のビジョン、家庭サポートの必要性を確認することができた。
- (4) 3年生の生徒対象にハローワーク見学及び説明会を開催し、ハローワーク登録方法や求人検索方法など就職に至るまでの流れについて理解を促すことができた。
- (5) 卒業生講話では、卒業生 4 期生 4 名を招き、保護者及び生徒向けに講話を行った。働く上で必要な心構えや何事も最後までやりきる力など在校生徒へ意識付けすることができた。
- (6) 特別支援学校技能検定種目であるメンテナンス部門や接客部門、パソコン部門について授業で取り組み、就業体験先の業種選択や職業教育の技能及び就労意欲向上に結び付けることができた。技能検定では、多くの生徒がチャレンジし認定級を取得することができた。技能検定で基礎的技術を学んだ生徒を推薦し、アビリンピックのビルクリーニング、喫茶サービスに出場することができた。

2 課題

- (1) 生徒一人ひとりのキャリア形成に関する課題を明確化やきめ細かい多様な支援方について検討し、早期の進路選択・進路決定に向けたキャリア教育の充実に努めていきたい。
- (2) 生徒の実態に応じた職場・職種のマッチング、卒業後の進路先との丁寧な引継ぎ方法や安心できる職場の環境づくり等、関係機関との連携を図っていきたい。

進路活動報告書

沖縄県立中部農林高等支援学校

I 進路目標

- 1 良好な人間関係をつくり、協力して仕事を行うことができる。
- 2 自己の役割を理解し、仕事に向けて自己管理ができる。
- 3 仕事内容を理解し、課題に対応することができる。
- 4 キャリアプランニング能力を身につける。

II 活動報告

1 実施内容

月	取組内容	月	取組内容
4	<ul style="list-style-type: none"> ・就業体験先開拓 ・就業体験先挨拶 	10	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期就業体験保護者説明会 ・2学期就業体験（10/7-10/18） ・就業体験事後学習
5	<ul style="list-style-type: none"> ・就業体験先開拓 ・就業体験先挨拶 ・就業体験事前学習 ・三者面談（1学期就業体験保護者説明会） 	11	<ul style="list-style-type: none"> ・抽出実習（11/5-8）3年 ・三者面談
6	<ul style="list-style-type: none"> ・1年保護者進路説明会 ・<u>校内実習、1学期就業体験（6/10-6/21）</u> <u>1年…校内実習（農業、工業、洗車）</u> <u>2、3年…就業体験 ※1</u> 	12	<ul style="list-style-type: none"> ・履歴書作成 ・就業体験先挨拶
7	<ul style="list-style-type: none"> ・就業体験事後学習 ・三者面談（校内実習・就業体験評価、次回実習先について） ・進路施設見学 株式会社 J0eB テック ・抽出実習（7/22-8/2）3年 	1	<ul style="list-style-type: none"> ・就業体験先挨拶 ・就業体験事前学習 ・3学期就業体験（1/14-1/24）3年 ・就業体験事後学習 ・履歴書作成
8	<ul style="list-style-type: none"> ・3年ハローワーク求職登録 ・3年就業・生活支援センター「花灯」登録 ・就業体験先開拓 	2	<ul style="list-style-type: none"> ・抽出実習（2/10-14）2年 ・三者面談 1、2年…次回の実習先について 3年…企業面接、抽出実習 ・ハローワークへ紹介状受け取り
9	<ul style="list-style-type: none"> ・就業体験先開拓 ・就業体験先挨拶 ・就業体験事前学習 ・<u>企業向け学校説明会 9/11 ※2</u> ・<u>障害者就労支援キャンペーン</u> <u>「特別養護老人ホーム知花の里」9/12 ※3</u> 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ハローワークへ紹介状受け取り ・企業面接、雇用契約等

<下線部の説明>

※1 校内実習・1学期就業体験

1年生は校内実習（農業、工業、洗車）を実施し、2学期からの始まる校外での就業体験に向けた準備をおこなった。2、3年生は希望する実習先で就業体験を実施できた。



校内実習（木工）



就業体験（スーパー精肉）

※2 企業向け学校説明会

9月、中部農林高等支援学校の生徒を企業にアピールする機会とするため生徒主役の会として開催。生徒代表挨拶、アビリンピック沖縄大会での銀賞受賞者の演技披露（メンテナンス部門、ワープロ部門、接客部門）、就業体験報告、授業視察などを実施した。会の進行や授業の教室案内も生徒が行った。就労・生活支援センターと5社が参加。



就業体験報告（生徒発表）

※3 障害者就労支援キャンペーン

昨年度より4年ぶりの生徒参加となった障害者就労支援キャンペーンですが、今年度は2年生の代表生徒1名が沖縄市にある「特別養護老人ホーム知花の里」にて学校PRを行いました。訪問先では、就業体験で経験したことや将来の夢を交えながら、アピール文を読み上げました。



代表生徒挨拶

2 各教科・行事での取り組み

- (1) メモ帳の活用を就業体験・校内実習だけでなく、日頃の授業（農業・工業、流通サービス、職業、朝の自活など）に取り入れている。これにより卒業後スムーズにメモ帳を活用し、仕事の効率や確実性に寄与するものとする。実習先の担当からもメモを取る姿勢ができていて、とてもよいとお褒めの言葉をいただく生徒もいた。



就業体験事前学習

- (2) 設置校である中部農林高校が資格取得への取り組みに積極的で、本校生徒も希望者は受検可能なため、多くの生徒が様々な資格取得に向けて挑戦している。資格取得は生徒の「できる」「自信・意欲」に繋がっており、実際にアーク・ガス溶接を使用した作品づくりもおこなっている。今年度は全国パソコン技能競技大会にも出場した。

検定種類	合格・ 修了者	検定種類	合格・ 修了者
漢字能力検定 5級	1	アーク溶接作業従事者特別教育	6
フォークリフト運転技能講習	5	ガス溶接技能講習	2
プレゼンテーション検定 1級	2	小型車両系建設機械特別教育	10
日本語ワープロ検定 準2級	1	表計算検定 1級	1



アーク溶接作業従事者特別教育



フォークリフト運転技能講習



ガス溶接技能講習



全国パソコン技能競技大会

- (3) 特別支援学校技能検定への取り組みも積極的に行っている。「流通・サービス」の授業でビルメンテナンス部門の技術指導を、「職業」の授業で接客部門の技術指導を、「情報」の授業でパソコン操作部門の技術指導をそれぞれ行った。放課後はアビリンピック沖縄大会に向けた練習をおこない、パソコン操作部門で銀賞受賞者、接客部門で銀賞受賞者を出すことができた。今年度はアビリンピック全国大会に出場することができなかったが次年度の出場を目指したい。今年度実施された技能検定・アビリンピック沖縄大会の結果は以下の通りである。

①沖縄県特別支援学校技能検定

- ・ビルメンテナンス部門
 - モップ 1級 6名、机ふき 1級 5名
 - ダストクロス 1級 6名
- ・接客部門 喫茶サービス 1級 2名
- ・パソコン操作部門
 - ワード 1級 1名
 - エクセル 1級 27名



技能検定

②アビリンピック沖縄大会

- ・ビルメンテナンス部門 出場
- ・接客部門 喫茶サービス 銀賞
- ・パソコン操作部門 銀賞



アビリンピック沖縄大会

Ⅲ 進路決定状況(令和7年3月1日現在)

NO	性別	業種	事業所
1	女	スーパー	タウンプラザかねひで 北谷サンセット市場
2	男	スーパー	株式会社サンエー 赤崎店
3	女	訓練校	職業訓練法人 神奈川能力開発センター
4	男	スーパー	株式会社サンエー 赤道ショッピングタウン
5	男	事務	うるま市役所
6	男	保育補助	株式会社サンエー 具志川メインシティ
7	男	未定	未定
8	女	スーパー	株式会社サンエー 具志川メインシティ
9	女	保育補助	社会福祉法人ふくよか福祉会 ふくよか彩橋認定こども園
10	男	スーパー	ダイレックス安慶名店

Ⅳ 成果と課題

<成果>

- ・前年度から継続して実施している、朝の SHR での就業体験事前学習を行うことで、「途切れない進路指導」を行うことができた。
- ・就業体験の評価票を基に、授業（農業、工業等）における個人目標を設定し、毎時の初めに「目標確認」、終了時に「目標に対する反省」を発表する。これにより、就業体験の課題を日頃の授業に落とし込むことができています。
- ・前年度から継続して全生徒が手帳（胸ポケットサイズ）を購入し、スケジュール管理とメモ帳機能を一元化している。
- ・情報の授業と連携し生徒個々の名刺を作成し、事前面接などで活用することができた。
- ・前年度から継続して実習事後学習の取り組みで、iPad の「keynote」アプリを活用し、個々で実習のプレゼンテーション作成・発表をした。効果的な発表の仕方や見せ方を工夫して取り組むことができた。
- ・県の卒業生追跡調査を活用し、就業・生活支援センターとの連携を図り卒業生の定着状況を把握することができた。1 学期には就業・生活支援センターの卒業生担当者と卒業生との個人面談をおこない、登録説明や卒業後の定着支援の流れを確認することができた。
- ・ハローワーク沖縄の専門援助部門の協力で就業体験先の情報交換などで連携できた。ハローワーク沖縄の専門援助部門の担当者を講師として招き、1、2 学期に3 年生の面談を実施することで早期の進路決定につなげることができた。

<課題>

- ・給与や就業時間など細かい雇用条件について早くから本人・保護者と共有し、進路決定につなげる。
- ・就業・生活支援センターに未登録の生徒の今後の対応。
- ・定着支援のアプローチの方法を考える。
- ・離職者や職場での困り感等についての情報収集について考える。
- ・進路先に合った進路指導、職業学習の充実。

進路指導活動報告書

沖縄県立やえせ高等支援学校

I 進路目標

生徒一人一人の能力や適性に合った進路指導を行い、就労による社会自立を目指す。

- 1 自己の適性を理解し、就労に向けて自己管理ができる。
 - (1) 自己の役割を理解する力
 - (2) 前向きに考える力
 - (3) ストレスに対する忍耐力
 - (4) 主体的に行動する力
- 2 良好な人間関係をつくり、協力して仕事を行うことができる。
 - (1) 他者の個性を理解する力
 - (2) 他者に働きかける力
 - (3) コミュニケーション・スキル
 - (4) チームワーク
- 3 仕事内容を理解し、課題に対応することができる。
 - (1) 情報の理解・選択・処理する力
 - (2) 自己の課題を発見する力
 - (3) 課題に取り組む実行力
 - (4) 原因を究明し、評価・改善する力
- 4 キャリアプランニング能力を身につける。
 - (1) 働くことの意義や役割を理解する力
 - (2) 多様な生き方を理解する力
 - (3) 将来を設計する力
 - (4) 主体的に行動し、改善していく力

II 活動報告

1 主なとりくみ

月	取り組み内容
4月	<ul style="list-style-type: none">・障害者就業・生活支援センターとの情報共有（卒業生について）・卒業生の定着支援（企業訪問）・就労支援コーディネーターとの情報共有（在校生について）・生徒向け進路講話（進路主任・就労支援コーディネーター）・インターンシップ受け入れ調整
5月	<ul style="list-style-type: none">・保護者面談（進路指導の流れと就業体験実習先の選定について）・インターンシップ保護者説明会の実施・保護者向け進路講話の実施（やえせ・南部商業合同）・卒業生の定着支援（企業訪問・電話連絡）・前期インターンシップ実施要項等学部会提案・前期インターンシップ受入調整・顔合わせ等・前期インターンシップ事前学習、目標発表会実施
6月	<ul style="list-style-type: none">・前期インターンシップ受入調整・顔合わせ等・インターンシップ（6／3～6／14）

	1年：校内実習 （1年：農園芸、食品加工、トータルクリーニング、カフェ） 2・3年：校外実習 ・インターンシップ事後学習、報告会実施
7月	・1学期中に後期インターンシップ希望調査用紙配布&回収 ・保護者へ求職登録について案内配布 ・ハローワーク求職登録（7月末）
8月	・後期インターンシップ受入調整・顔合わせ等 ・卒業生の定着支援（企業訪問、電話連絡）
9月	・キッズビジネスタウン南商 with やえせマルシェ ・後期インターンシップ受入調整合わせ等
10月	・後期インターンシップ事前学習 就労支援コーディネーターによる生徒向け進路講話 ハローワーク那覇による講話「履歴書の書き方」 ・後期インターンシップ（10/21～11/1）
11月	・後期インターンシップ事後学習 ・3年生進路面談（11/18～11/29） ・保護者向け進路講話 ・卒業生講話 ・特別支援学校キャリア教育・就労支援発表会（展示の部で参加）
1月 ～ 3月	・3年抽出インターンシップ ・求人票受け取り、面接、入社手続き、履歴書作成 ・6月インターンシップ希望調査（1，2年） ・1，2年生個人面談（次年度の就業体験実習先について）

2 活動内容

(1) 進路学習会

就労への意欲を高め、将来の社会参加に向け、主体的な進路選択ができることをねらいとし、進路学習会を実施した。

①就労支援コーディネーターによる講話

（4月、6月前期就業体験事前学習）

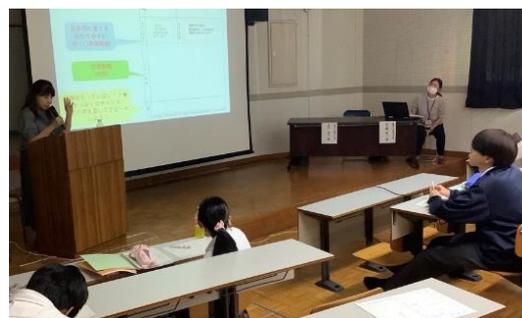
就労支援コーディネーターの翁長克氏による進路学習会を4月と6月の2度実施した。

講話の内容は「仕事選びの3つの条件」や「仕事を長く続けるために大切な事」などを中心に、後半には生徒からの質疑応答の時間を設けて行った。生徒からは職場の人間関係に関する質問が多く出ていた。



②ハローワーク那覇による出前授業 「履歴書の書き方」

ハローワーク那覇の平良恵子氏による出前授業「履歴書の書き方」を行った。生徒の実態に合わせて授業内容を工夫して下さり、生徒は「履歴書は自分の分身」という事を学んだ。



③卒業生講話

前年度、サンエー那覇メインプレイス無印良品と、ダブルツリーby ヒルトン那覇首里城へ就職した卒業生を2名招き、在校生へ向けて講話を行って頂いた。卒業生からは、「仕事の日の1日のスケジュール」「働いて気が付いた仕事のやりがい」や「在学中に身につけておいた方が良いこと」などの話があった。在校生からは「働いていて困った事はなかったか」「ストレスがたまったらどうしているか」「給料の使い道」等の質問があった。身近な先輩からの話に興味を示す生徒が多く、質問が盛んに交わされた。また、講話後、在校生からは「先輩みたいにしっかり働きたい」「来年、自分も講話をしたいので、声をかけて下さい」との声が多く聞かれた。



(2) 保護者向け進路学習会

5月と11月に、就労支援コーディネーターの長克氏を招き、保護者向けの進路講話を行った。5月は併設高の南部商業高等学校の保護者も対象とし、「就労に向けて家庭でできる支援」について講話を頂いた。11月は「障害者雇用について」の講話を実施して頂いた。保護者講話に向けては事前に質問を募集し、保護者からの疑問にも答えて頂くことができた。



(5) 消費者講習会

進路指導も兼ねて、外部講師を招いた消費者教育を行った。1・2年生は成年年齢引き下げに伴う消費者未然防止を図り、生徒一人一人が賢い消費者になることや契約・お金に関する注意点等を学んだ。3年生は、卒業後の生活設計について具体的に学び、計画的にお金



を使うことの大切さを学んだ。

Ⅲ 進路決定状況

分類	企業名
一般就労	株式会社あきんどスシロー 糸満西崎 株式会社丸大 真玉橋店 タピック沖縄株式会社 ユインチホテル南城 拓南本社株式会社 金秀興産株式会社 カインズホーム FC サンプラザ糸満 佐川急便株式会社那覇営業所
福祉サービス	就労支援センター大樹（就労移行）
その他	沖縄調理師専門学校（進学）

Ⅳ 成果と課題

1 今年度の成果

- (1) 就業体験の事前学習や事後学習において、生徒の実態に応じた進路指導を全職員で行うことができた。生徒の反省会や保護者面談において、実習評価を参考にしながら振り返ることで、生徒の特性に応じた進路選択、進路決定に向けて取り組むことができた。
- (2) 外部関係機関（ハローワーク、地域就業・生活支援センター）や就労支援コーディネーターとの連携・情報共有ができた。（進路学習会、実習先巡回と反省会の参加、進路面談の同席、実習先の相談、その他助言）

2 今後の課題

- (1) 仕事に関する情報や職種についての知識が少なく、また、路線バスを使用して実習先へ行くことに抵抗を示す生徒が多くおり、実習先の選定に苦慮しているケースが多々ある。公共交通機関を利用できることや知っている職種を増やすことを促していきたい。
- (2) 就労に対する関心が低い生徒や、人前で発表する事に苦手意識の強い生徒が複数名おり、インターンシップ報告会では特に1学年の欠席が目立った。生徒の実態や不安を考慮しながら、成功体験に繋げることができるよう支援していく必要がある。
- (3) 進路支援が十分でない家庭があったり、保護者説明会や講話への参加率が低かったりする状況があった。進路指導部や学校からの情報発信の方法を工夫していく必要を感じた。

進路指導活動報告書

沖縄県立桜野特別支援学校

I 進路指導について

1 本校の教育目標

児童生徒一人一人の障害の状態や発達段階及び特性に応じた教育を実践し、児童生徒一人一人が可能な限り自立し社会参加する「生きる力」を育む。本校の児童生徒に共通する「生きる力」とは、①健康を保持する力、②地域で長く楽しく活動する力と捉えている。

【 本校のめざす子ども像 】

- ・健康を意識する子
- ・素直で思いやりのある子
- ・主体的に活動をする子(ジンブンのある子)

2 各学部の進路指導目標

小学部

- (1) 保護者や名護療育医療センター及び福祉、就労等の関係機関、地域社会との連携を密にし、児童一人一人の健康の保持増進に努め、楽しい学校生活を過ごすよう指導する。
- (2) 学ぶことと自己の将来とのつながりについて見通しがもてるようにし、基本的な生活習慣の形成や体力の向上を図り、社会的・職業的自立に向けて必要な基礎となる資質・能力を育成する。
- (3) 学級担任を中心に保護者や職員間の共通理解を図り、家庭や中学部・高等部と連携、協力し、卒業後を見据えた視点で指導にあたる。
- (4) 個別の教育支援計画を作成し、小・中・高一貫した支援体制づくりに努める。

中学部

- (1) 生徒個々が生きがいを持って社会参加できる資質を培う。
- (2) 働くことや生活の場において、必要な自己及び他者理解を深める場面設定を適宜に取り入れる。
- (3) 校内実習や職業見学を通じて自らの適正に気付き、やりがいや充実感の体感を通して、働くことの意義や価値を知り、適切な進路選択ができる能力を養う。

高等部

- (1) よりよい人間関係を確立し、生活経験を広げ積極的に自立し社会参加する態度を育成する。
- (2) 自己の適性に応じて、適切な進路選択のできる能力を育成する。
- (3) 各教科、領域等の応用の場として就業体験または生活体験を行うことにより、社会性を育成する。(卒業後の家庭生活・社会生活・職業生活などを考慮した基礎的な内容から発展的な内容を学べるようにする)

3 進路指導の基本方針

- (1) 社会自立・職業自立を目指して基本的知識、技能、態度の育成を図る。
- (2) 小学部入学時から中学部・高等部の卒業までの組織的、計画的、系統的に指導する。
- (3) 家庭、施設との連携や協力、地域の啓発を重視した活動をする。
- (4) 職場の訪問、開拓の充実を図る。
- (5) アフターケア(卒後の支援)の充実を図る。
- (6) 関係機関との連携を密にする。

Ⅱ 活動報告

学期	月	取り組み・活動内容
1	4	<ul style="list-style-type: none"> ・進路オリエンテーション（中学部・高等部） ・進路の手引き作成、配布（職員・保護者） ・卒業生の追指導
	5	<ul style="list-style-type: none"> ・職場、事業所開拓（～3月） ・キャリア・パスポートの取組説明
	6	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回北部圏域障害者自立支援連絡会議（就労支援部会） ・就業体験実習事前学習 ・生活・就業体験実習（高1・高2） ・就業体験実習事後学習
	7	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア・パスポート作成の強化月間 ・進路便り発行
	8	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA研修とタイアップ（福祉サービス事業所見学会）
2	9	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア月間（高等部、PTAとの連携強化月間） ・進路便り発行 ・校内実習、実習発表会 ・就業体験実習事前学習 ・就業体験実習 ・PTA進路講話（翁長克氏）
	10	<ul style="list-style-type: none"> ・生活・就業体験実習 ・就業体験実習事後学習 ・進路便り発行
	11	<ul style="list-style-type: none"> ・名護市障害者自立支援協議会（進路連絡会） ・キャリア教育・就労支援発表会（沖縄市）
	12	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア・パスポート作成の強化月間 ・4者面談（I課程）
3	1	<ul style="list-style-type: none"> ・北部圏域障害者自立支援連絡会議（就労支援部会） ・進路講話（キャリア・パスポートのまとめ）
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・進路便り発行 ・名護市障がい者就労支援部会 ・保護者面談期間 ・移行支援計画作成
	3	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア・パスポート作成の強化月間 ・進路調整会議（進路先、計画相談員、本人、保護者、担任、進路） ・個別移行支援計画引き継ぎ ・次年度にむけて（キャリア教育の全体計画等）

1 就業体験実習（一般企業）

(1) 実習の意義

生徒の作業能力、興味、関心、適正、人間関係及び環境への適応性などを正しく把握する機会とし、仕事を通じて将来自立し、社会参加できる力を養う。

(2) 実習の目標

- ① 卒業後、社会人として自立するために必要な働く態度や意欲を養う。
- ② 職場における規律や対人関係の在り方を学び、適応力を身につける。
- ③ 実習における作業経験、社会経験の拡充により自信につなげる。
- ④ 実習の成果により、自己理解を深める。

(3) 実習先

- ① 本部町役場
- ② 国頭村役場
- ③ 名護市 「名護中央公民館」「名護博物館」
- ④ 社会福祉法 愛児福祉会 「やまびこ保育園」
- ⑤ 社会福祉法人リンク 「チャイルドリンク保育園」
- ⑥ 社会福祉法人 名護学院 「障害者支援施設 郷」

2 生活体験実習（生活介護事業所）

(1) 実習の意義

- ① 卒業後の地域活動の場を体験し、社会参加の楽しさを味わうことができる。
- ② 保護者ととともに施設での活動を体験し、卒業後の進路選択へと役立てることができる。
- ③ 学校から施設への移行を円滑に行う機会とするとともに、本校職員と施設職員の移行支

(2) 実習の目標

- ① 事業所の日課に沿って、様々な活動を体験する。
- ② 事業所における対人関係や環境に慣れる。
- ③ 実習における社会経験を増やす。

(3) 実習先

- ① 自立サポートセンター 「クローバー」
- ② 障害福祉サービス事業所 「いっぽいっぽ」

3 進路に関する行事

(1) P T A 研修（福祉サービス事業所見学）

- ① 社会福祉法人いしなぐ福祉会 いしなぐ（多機能型事業所）（B型・生活介護）
- ② 障害福祉サービス事業所「いっぽいっぽ」

(2) P T A 進路講話（一般就労にむけて今できること： 翁長 克 氏）

- ① 目的 就労支援コーディネーターのこれまで支援の実例を聞くことで、障がい者の一般就労の為に必要な知識・技能が何なのか知り進路選択の知識を深める。
- ② 対象者 保護者、学校職員
- ③ 内容 沖縄県の障害者雇用の実情について、学校・家庭での取り組むべきこと

4 校内実習（校内キャリア月間中に実施）

(1) ねらい

- ① 就業体験を通して、自分の良さや課題点に気づき、その身長または改善を図るための具体的な方法を身に着けることができる。
- ② 校内実習を通して、自分で作業内容を選択したり、自分に合った作業方法を考えたりしながら準備や作業ができる。
- ③ 仲間や小グループでの共同作業を通して、仲間の意見を受け入れたり、仲間の良さを認めたりしながら、集団参加や社会参加への意欲を高めることができる。

(2) 対象者 全児童生徒

(3) 内容 木工製品、織物製品、の製作と販売会の実施（中高等部） 製品製作現場の見学、インタビュー、販売会での買い物学習（小学部）

Ⅲ 進路決定状況（令和7年3月1日現在）

1 過去の進路先（5年間）

年 度	一般就職	進 学	就労移行			地域活動支援センター	自立訓練	生活介護	入 所	在 宅	合 計
			就労移行	継続A型	継続B型						
令和2年度	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	3
令和3年度	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2
令和4年度	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
令和5年度	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	3
令和6年度	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1

2 今年度の進路先予定

NO	進学先	学部 学科	備 考
1	名桜大学	国際学部 国際文化学科	

Ⅳ 成果と課題

1 成果

- (1) キャリア・パスポートの取り組みについて、年度初めに各学部でガイダンスを行った。また、1月には進路講話として、児童生徒・職員に向けてキャリア・パスポートの取り組みについて説明を行い、年度のまとめを一緒に行うことができた。
- (2) I課程生徒の就業体験実習を、法人や居住する市町村役場にて行うことができた。
- (3) 進学を希望する3年生の大学進学が実現できた。
- (4) PTA研修とタイアップし、一般就労についての進路講話を実施できた。
- (5) 夏休みにPTA研修とタイアップして、昨年度より再開した事業所見学会を継続実施することができた。小学部保護者1名、高等部保護者4名、職員3名が参加し、卒業後の進路に向けて情報収集できた。
- (6) 宮里病院と協定書の締結を行い、実習や企業見学について協力関係を構築した。

2 課題

- (1) I課程生徒の一般就労を見すえた取り組みの継続。
- (2) 宮里病院との協定内容の実施に向けた教育課程との連携、各学部との連携。
- (3) 選択就労支援制度についての情報収集。
- (4) 行政との協力関係の構築、強化。（就労支援部会参加など）
- (5) 事業所との連携協力の維持・強化。（事業所開拓、説明会、学校見学、実習受け入れ等）

令和6年度 進路指導活動報告

沖縄県立泡瀬特別支援学校

I 進路目標

1 本校の教育目標

児童生徒一人一人に応じた自立・社会参加を実現するため、それぞれが有する能力と可能性を最大限に伸ばし、「生きる力」を育む。

2 本校の教育目標を具現化する基本方針

本校の児童生徒に共通する「生きる力」を（１）「健康を保持する力」（２）「地域で長く楽しく活動する力」の２つのカテゴリーで捉え、教職員個々の専門性や多様な教育資源を活かし計画的、組織的に学校を機能させ、学習指導要領に示す資質・能力の三つの柱を充実する教育を実践する。その方針に基づき下記のように「本校のめざす子ども像」を示す。

〈本校のめざす子ども像〉

- 自身の健康を意識する子
- 望ましい態度で人と関わりをもてる子
- 意欲的、主体的に活動し、自立しようとする子

3 本年度の重点目標・具体的取り組み（進路指導に関連する事項のみを抜粋）

（１）児童生徒の「生きる力」を育む教育の実践

- ①児童生徒の「生きる力」の具体的事項を明確にし共通確認を図る。
- ②具体的に示す「生きる力」への資質・能力の三つの柱を明確にし、各教科等の取り組みの体系化の構築。
- ③「個別の年間指導目標」、「年間指導計画」、「自立活動目標・指導シート」と連動した学習活動の実践。
- ④「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、自己の生き方・在り方に迫る学びやその知識をどのような場面で用いるか、何故そうするのかについての指導の充実。

（２）保護者及び関係機関とのさらなる連携の強化

- ①保護者の学校行事、学習活動への参画の推進。
- ②高等部において、可能な限り自立した社会参加に向けて「個別の移行支援計画」やその他の提供資料を通しての、学校と地域社会との深い関係性の実践。

（３）開かれた学校づくりの推進

- ①保護者会及び地域社会における児童生徒の「生きる力」の育成を図る活動の拡充。（地域で本校児童生徒が主体となり活動できる教育資源の確認・開発）
- ②ホームページや各種便りを通し、情報提供の充実。

4 キャリア教育の重点

（１）小学部

- ①個々の実態に応じて基本的生活習慣の確立を図る。
- ②自分の良さを知り、相手の立場を考え協力して行動できるようにする。
- ③保護者や関係機関等と連携しながら、進路についての意識を高める。

(2) 中学部

- ①将来の社会参加、自立に向けて生徒の適正や能力に応じた指導の充実を図る。
- ②進路についての情報を収集し、学校、家庭、地域社会、関係機関等との連携を密にし適切な進路を見出していく。

(3) 高等部

- ①自立と社会参加を目指し、障害の状態や発達の段階に応じて社会の中で自分の役割を果たし、自分らしく生きていくために必要な能力や態度を育てる。
- ②進路学習や就業・生活体験を通して、自己の能力や適性を理解し、適切な進路選択ができるようにする。
- ③保護者や関係機関等と連携を密にし、進路希望の実現に向け、主体的に課題解決に取り組む力を育てる。

II 活動報告 [年間の主な取り組み]

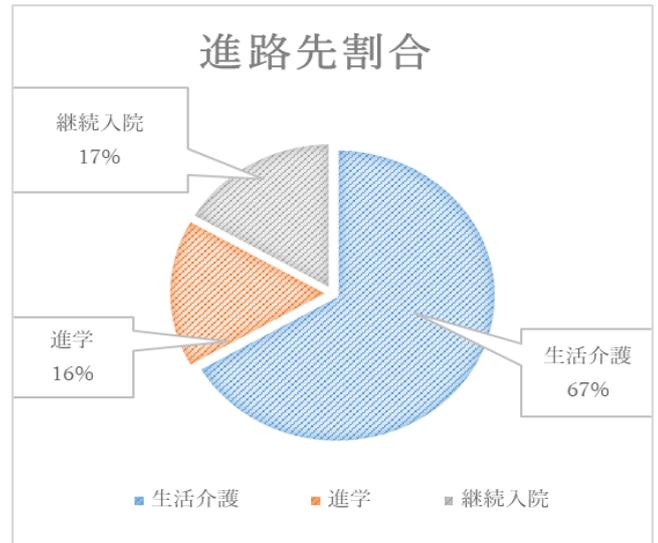
	月	活動内容	対象
1 学 期	4	<ul style="list-style-type: none"> ・職員向け進路指導方針説明 ・事業所年度初め挨拶、前期就業生活・体験先挨拶 	全体 高
	5	<ul style="list-style-type: none"> ・前期就業・生活体験保護者説明会 ・全体、校内班、学級等で事前学習 	高 高
	6	<ul style="list-style-type: none"> ・中部療育医療センター入所生進路情報交換会① ・前期就業・生活体験（校内・校外実習：2, 3年対象 2週間実施） ・進路学習会（インフルエンザ流行のため、中止） *高等部の就業・生活体験校内実習に1日体験参加。 	高 高 小 中
	7	<ul style="list-style-type: none"> ・就業・生活体験発表会（事後学習、各班） ・後期就業・生活体験希望調査 ・保護者面談 *必要に応じて進路指導部が参加。体験先の情報提供や進路相談を行った。 ・進路研修会（職員・保護者） *愛音楽はうす：利用者代表 *テーマ「本校の卒業生も含めた重度障害者の就労について」 	高 中 高 全 体 全 体
	8	<ul style="list-style-type: none"> ・職場開拓（3日間） 	高
2 学 期	9	<ul style="list-style-type: none"> ・学校説明会（入試係と連携） *中3生徒保護者を対象に高等部進路指導部の取り組みを紹介。 ・就業・生活体験事前・事後学習 ・就業生活・高校一日体験保護者説明会 ・就業生活・高校一日体験会（校外実習 2日間） ・志願前相談（入試係と連携） 	高 中 中 中 中

	10	<ul style="list-style-type: none"> ・後期就業・生活体験事前学習 ・後期就業・生活体験（校外実習：1、3学年対象 2週間実施） 	高 高
	11	<ul style="list-style-type: none"> ・後期就業・生活体験事後学習 ・中部療育医療センター入所生情報交換会② ・特別支援学校技能検定（PC部門：Word、Excel） 	高 高 高
	12	<ul style="list-style-type: none"> ・第36回沖縄県特別支援学校キャリア教育・就労支援発表会 *「展示の部にて参加 ブースアドバイザー：新垣大翔、玉城亮」 @沖縄市民会館大ホール ・保護者面談 *必要に応じ進路指導部が参加し、体験先の情報提供や進路相談を行った。 ・入試説明会 	高 高 中
3 学 期	1	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所説明会（13事業所の参加） *児童生徒・保護者・職員に対して、卒業後に利用されると想定される事業所を本校にお招きし、生活介護・就労等の各事業所の概要、取り組み等の説明を聞くことで卒業後の進路先を考え、理解を深める機会として行った。また、事業所間の情報交換の場の提供にもなっている。 	全体
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・高3進路面談 卒業後の進路先の最終確認。「個別の移行支援計画」を保護者と共に確認してもらう。必要に応じて進路担当が参加。事業所への引き継ぎ確認。 ・特別支援学校技能検定（PC部門：Word、Excel） ・高等部進路校外学習 *嘉手納町役場障がい福祉課を訪問。卒業後の福祉サービスを学ぶ。 	高 高 高
	3	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生定着支援 ・保護者面談 *必要に応じて進路指導部が参加。体験先の情報提供や進路相談を行う。 ・進路先への引継ぎ（3学年移行支援） ・事業所看護師と本校看護師、養護教諭との医ケア等の引継ぎ（3年生） 	高 全体 高 高
年 間 を 通 して		<ul style="list-style-type: none"> ・進路相談 ・進路だより「路」発行（各家庭への配布・校内拡大掲示） ・ハローワーク、市町村福祉課、生活・就労支援センターとの連携 ・新規事業所開拓 ・計画相談員との相談等 	

Ⅲ 進路決定状況

1 進路先分類（令和6年3月1日時点 進路先実人数）

No.	進路先分類	人数	割合
1	一般就労	0	0%
2	就労継続支援 A 型	0	0%
3	就労継続支援 B 型	0	0%
4	就労移行支援	0	0%
5	地域活動支援センター	0	0%
6	自立訓練（生活訓練）	0	0%
7	生活介護	7	87.5%
8	進学	0	0%
9	未定	0	0%
10	継続入院	1	12.5%
合計		8	100%



2 進路予定先

事業所名	人数	種類
美原福祉会	2	生活介護
クローバーラヴィット	1	生活介護
tetote	1	生活介護
チャレンジドスクール	2	生活介護
アンデルセン	3	生活介護
中部療育医療センター	2	入所支援、生活介護
若松病院	1	継続入院

Ⅳ 成果と課題

成果

- (1) 今年流行したインフルエンザの影響を受けつつも、前期、後期、抽出就業体験・生活体験を体験先との密に調整を重ね、予定通り実施することができた。（延べ33事業所）
- (2) 中部療育医療センターとの情報交換会を定例化することができ、入所生（4名）の進路についての課題を密に共有することができた。
- (3) 事業所説明会（13事業所）では、実施方法を2部入れ替え制（15分説明×3の2部制）から事業所負担軽減と選択できる事業所を増やす事を目的に入れ替えをなくし、一斉実施（15分×4事業所）に改善することで、さらに児童・生徒・保護者・教職員への進路を学ぶ機会や事業所間の情報交換の場を確保することができた。

課題

- (1) 年々、生徒の実態は重度重複化しており、保護者のニーズに寄り添うよう進路先の開拓が必要。具体的には、「看護師配置の有無や医療的ケアの充実、ショートステイの受け入れ」がある生活介護事業所の新規開拓に重点を置きたい。⇒新規進路開拓の充実
- (2) 今年度の事業所説明会の保護者参加者が17世帯だった。少しずつ進路意識の希薄さから脱却が見える。引き続き、小・中学部の早い段階からの進路意識の向上が必要。（児童生徒・保護者・教職員）⇒事業所説明会の改善
- (3) 「福祉事業所データベース」を保護者への周知、活用の啓発など、継続した取り組みが必要である。⇒進路だより「路」の充実

進路指導活動報告書

沖縄県立鏡が丘特別支援学校

I 進路目標

児童生徒一人一人の「キャリア発達」を育むために、以下に示すキャリア教育全体目標を踏まえて、学校教育活動全体の中で児童生徒に応じた活動を設定する。

〈鏡が丘特別支援学校 キャリア教育全体目標〉	
①	多様な実態のある本校の児童生徒一人一人の現在及び将来の自立(自分の能力を發揮し、よりよく生きる)と社会参加(様々なことに参加する)に必要な基盤となる能力や態度を育てることを通してキャリア発達を促す。
②	学習指導要領で示された資質・能力を踏まえて作成された「本校のめざす児童生徒像の実現に向けて育てたい力(鏡が丘 育てたい力)」を指標として、学校の教育活動全体の中で児童生徒一人一人の障害の状態と心身の発達の段階に応じた活動を設定する。

II 活動報告

表 1. 令和 6 年度の主な取り組み

月	活動内容	対象
4	・進路オリエンテーション ・進路希望調査 ・前期就業体験・生活体験 事前学習①(概要説明)	高等部生徒
5	・進路保護者オリエンテーション ・進路講話(進路指導部) 「進路指導 ウワサの真相」 ・前期 就業体験・生活体験 事前学習②(結団式) ・前期 就業体験・生活体験および校内実習(5/27～6/7)	中高 I・II A 課程生徒 全学部保護者 高等部生徒 高等部(1年:校内 2・3年:校外)
7	・進路面談(就業体験・生活体験先検討) ・職員研修(進路指導部)「卒業後の進路について」	高等部生徒・保護者 全学部・寄宿舎職員
8	・求職登録(ハローワーク、生活支援センター) ・就労アセスメント(直 B 制度)	高 3 生徒(今年度希望者なし) 高 3 生徒(利用希望者 3 名)
10	・中期 就業体験・生活体験(10/7～10/18) ・進路面談(就業体験・生活体験先検討) ・進路講話(沖縄県自立生活支援センター イルカ) 「これから何して生きてく？」	高等部 1, 3 年生徒 中学部生徒 高等部生徒
12	・沖特進研「キャリア教育・就労支援発表会」発表の部	高等部生徒(1 名)
1	・後期 就業体験・生活体験 (1/20～1/31) ・就業体験・生活体験および校内実習(1/27～1/31)	高等部 2・3 年希望生徒 中学部生徒
2	・進路講話(沖縄障害年金サポート)「障害年金について」 ・進路面談(進路決定および就業体験・生活体験先検討)	高等部 I・II A 課程生徒・保護者 高等部生徒・保護者
3	・高等学校入学者選抜試験 ・進路先や支援機関との調整 ・新入生オリエンテーション	中学部 3 年生徒 高等部 3 年生徒・保護者 高等部入学予定者
通年	・進路便り(毎月発行) ・卒業生追跡指導 ・浦添市障がい者自立支援協議会への参加 ・南部圏域自立支援連絡会議就労支援への参加	

Ⅲ 進路決定状況

1. 高等部卒業後の進路先

表 2. 卒業生進路先 項目別の累計(令和2年度～令和6年度)

	就 職	進学	福祉的就労			地域活動 支援 センター	自立 訓練	生活 介護	その他	合計
			就労 移行	継続 A型	継続 B型					
令和2年度	0	0	2	0	0	0	0	4	0	6
3	0	4	0	1	1	0	1	13	0	20
4	0	2	1	0	4	0	0	7	0	14
5	1	0	1	0	1	0	0	1	0	4
6	0	0	0	0	3	0	0	5	2	10

2. 今年度の進路先

表 3. 令和6年度進路先一覧(令和7年3月1日現在)

NO	進 路 先	備考
1	・就労支援センター あいこ南風原 ・就労継続支援B型事業所 でじるみ沖縄那覇	就労継続支援B型
2	・就労継続支援事業所 グッジョブワン	就労継続支援B型
3	・合同会社スタジオライフワーク ・アソシア ホイスコーレ	就労継続支援B型
4	・デイサービスセンター 美原うらそえ ・彩風の杜ぎのわん ・生活介護事業所 ラウレア	生活介護
5	・サポートセンターわくわく生活介護事業所わっくわーく ・デイサービスセンター 美原うらそえ	生活介護
6	・自立支援センター生活介護きらきら	生活介護
7	・デイサービスセンター 美原うらそえ ・沖縄療育園 ピノキオ ・自立支援センター生活介護きらきら	生活介護
8	・特定非営利活動法人 Toi Toi ・デイサービスセンター美原おおざと ・生活介護事業所 アンデルセン	生活介護
9	・福祉施設にて生活	生活介護
10	・未定(就労希望)	ひとり暮らし後、 就職活動を予定。

Ⅳ 成果と課題

1. 成果

(1) 進路講話

①「進路指導 ウワサの真相」

昨年度、小学部保護者から「高等部卒業後、子供がどんな所に進むのか。その為に何をし

たら良いのか知りたい」という要望があった。例年は外部講師を招聘して講話を実施してきたが、今回は進路指導部による進路活動に関する概要説明を実施した。主な内容は高等部生徒の進路活動、卒業生の生活、事業所の説明、各家庭で取り組んでほしいこと等である。発語がなくトークでコミュニケーションを行う車椅子ユーザーの生徒が路線バスを乗り継ぎ、国道を横断して実習先に向かう動画は、在校生に大きな刺激を与えた。また四肢を殆ど動かさない卒業生(大学3年生)がインターネットを活用して探したグループホームでの一人暮らしの様子を収めた動画は、視聴後に保護者から拍手が起こるほど好評だった。

②「これから何して生きてく？」

本校卒業生2名に講師を依頼し、収入の種類(賃金・年金)や、一人暮らしをする上で支出の種類や日頃心がけていることを教えて頂いた。生徒達は具体的な収入や支出の金額を知ること、よりリアルなイメージを持つことができた。「先生達の前で、こんなことを言うのはアレだけど・・・、親や先生達は進路に関していろいろアドバイスすると思うけど・・・、自分は何が好きで、何がやりたいのかを考えて生きていって欲しい」のことが非常に印象的であった。

③「障害年金について」

今年度初めて実施する講話で、障害者年金の手続きに関する内容であった。講話終了後も保護者からの質問が途絶えることなく関心の高さが窺えるものであった。事後アンケートには「幼少期からの記録がこんなに必要だとは思わなかった。忘れていたことも多いので不安。」「2年後に行う手続きの内容を知ったことで、その時の負担が軽減される。」「小学部の保護者にも聞いてほしい。」と感想が多くあった。

(2) 進路学習「キャリアガイダンス」

この授業は進路指導部職員が担当し、Ⅰ・ⅡA課程の生徒を対象とした1単位の座学である。毎年、生徒のレディネスや社会情勢等を考慮して授業を展開している。今年度は挨拶、一分間スピーチ、プレゼンテーション、SSTに加え、「道徳」と連携した授業の中で、恋愛、結婚(夫婦別姓や事実婚等)、セックス(出産・避妊・堕胎・生理等)について多岐にわたる学習を行った。さらに、近年多様化する詐欺の学習にも取り組み、職員をターゲットにした詐欺を生徒達が考案し発表した。どのようにしたら人は巧妙に騙されていくのかを自主的に考えることで犯罪者の心理や思考を理解し、被害者にならないための心構えが身に付いたと考えられる。

(3) 就業体験・生活体験

この取り組みは卒業後の就労を目指した就業体験と、生徒に合った居場所探しを目的とした生活体験で構成される。就業体験では生徒達に大きな変化が見られた。これまで基本的生活習慣が確立していなかったが自主的に寝る時間を調整し体調を整えた生徒、保護者の送迎に頼らず初めて移動支援制度を活用した生徒、インターネットから自分に合った事業所を探し体験を依頼する生徒、自宅で取り組むリモートワークで食事・排泄のヘルパー依頼を自ら行う生徒、書いた記事の新聞掲載や明日の一面記事を巡る大人の熱い討論を目の前に圧倒された生徒。通常の学校生活では味わえない就労体験を通し、生徒の成長を感じる期間となった。

生活体験では、生活介護事業所ごとの雰囲気や活動内容の違いを知り、生徒達の表情やリラックスの度合いから適しているか否かを感じることができた。同行した保護者からは、利用者の空きはあるのか、送迎の範囲に自宅が含まれるのか、ショートステイや日中一時サービスはあるのか等具体的な質問が多く聞かれ、とても有意義な時間となった。

(4) 職員研修

「進路指導 ウワサの真相」(Ⅳ-1-(1)-①参照)と、同様の内容を職員向けに実施した。

小学部の職員から「生徒の活動や卒業生の生活を動画で見ること、小学部で何をすれば良いのかを考えるきっかけとなった。」「安易な体重増加や他者を不快にする行動を減らす活動を保護者と連携して行いたい」などの意見が聞かれ、小学部・中学部・高等部・寄宿舎および各家庭における学びの連続性を意識した今後の活動につながると考えられる。

2. 課題

(1) 進路開拓

生徒や保護者のニーズに応じた事業所を新たに探す際、インターネットを活用することが多い。ニーズに合った事業所に電話で車椅子利用を伝えると入り口、階段、トイレ、事業所の広さなどから断られることが少なくない。また、医療的ケアを要する場合は看護師の人数やベッド数の関係で生活体験は可能でも、卒業後の利用に結びつかない例も見られた。更に、保護者のレスパイトを考慮するとショートステイも不可欠となるが、このような条件を満たす生活介護事業所には限りがあり、卒業後の利用もいくつかの事業所に殺到している現状で、数年の間に卒業生の受け入れが無くなることも予測される。今後も様々な機関と連携して、新たな事業所の開拓に取り組む必要がある。

(2) 自立に向けた取り組み

本校で就労を目指す生徒の特徴として、社会生活に関する経験が不足していることが多い。一人での買い物や公共交通機関の利用に関しては顕著である。支援を受けること自体は当然の権利だが、自身で考えるべき事や出来ることも支援を依頼する場面は少なくない。健常者である職員が理路整然と正しいことを伝えるよりも、卒業生のリアルな体験、特に失敗談が生徒達の心に響くと感じられる。今後も卒業生を招いての講話や情報交換の場が不可欠でなる。

(3) 職員・保護者の意識向上

社会的な経験が少ない生徒達の自立に向けて学校と家庭の協働は非常に重要である。学校での体験活動が単発的に終わることの無いように、家庭でも継続的に取り込まれ、その情報が双方向で行われることで、更なる体験活動に繋げて行くことが可能となる。

また、生活介護事業所を利用する生徒の保護者の中には、福祉サービスによる入浴支援を受けたことがなく、「自分ができる限りはやってあげたい。」という思いからサービスの利用に消極的な場合も見受けられた。親の子離れに関しても卒業生の保護者との交流する場を検討していきたい。

最後に ～3年生の進路活動で印象的だったふたりの活動から感じたこと～

一人目はある福祉の事業所で二度の就業体験(15日)を行い、本人、保護者共にその事業所を利用することで決まりかけていた。しかし、12月中旬に「先生、私、行きたい所をネットで見つけました。そこに行きます。」と嬉しそうに話しかけてきた。その生徒は1年の頃は「進路のこととか考えるだけで、頭の中がウワァ～となる!」と混乱していた頃が笑い話になるほどの飛躍的な成長を感じた。

二人目もある事業所で就業体験(10日)を行い、卒業後も利用する予定(と思っていた)が、「私は卒業後すぐに一人暮らしを始めます。働くのは生活が落ち着いたその後で!」と発言。その時、キャリアパスポートにも「一人暮らしがしたい」と常に記載していたことを思い出した。一般的な道ではなく、自分で切り拓こうとする姿に力強さを感じた。現在は自分にあった物件探しを保護者・計画相談員と取り組んでいる。

二人の発言に戸惑う一方、私達が思うよりも生徒達の自立心が育っていることを嬉しく感じる瞬間でもあった。その時、進路講話での卒業生のメッセージが思い出された。(IV-1-(1)-(2)参照)

進路指導活動報告書

沖縄県立那覇特別支援学校

I 進路の目標

[学校の教育目標]

め ざ す 子 ど も 像	笑顔いっぱい元気な児童生徒	健やかな身体を育てる。 「社会参加」 (社会と関わり合う、様々な活動に参加)する力を育てる。 「自立」 (持てる力を発揮し、自分らしく生きる)する力を育てる。 「学ぶこと」 を楽しみ、粘り強くやり抜く力を育てる。
	自らの思いを表現できる児童生徒	
	素直でみんなと仲良くできる児童生徒	
	目標に向かって可能性に挑戦する児童生徒	

1 学校の教育目標を達成するための方針

- (1) 障害を克服する意欲を育て、健康・安全の保持増進を図る。
 - ① 児童生徒の障害の状態や教育的ニーズを的確に把握し、医療・教育・福祉等の連携の下に自立活動の時間はもとより、学校の教育活動全体を通して指導の充実強化を図る。
- (2) 個に応じた学習指導の充実を図る。
 - ① 指導内容を精選し基礎的・基本的事項の指導を徹底し、個々の児童生徒の実態に即した適切な「個別の指導計画」を作成し、実践する。
- (3) 基本的生活習慣の形成を図る。
 - ① 個々の児童生徒の実態に即して身辺自立能力を高めると共に、基本的な生活態度を育てる。
- (4) 豊かな人間性の陶冶を図る。
 - ① 情操教育の充実に努め共生・共感・共同する豊かな心情をもつ児童生徒を育てる。
- (5) 通学や入生者の生活環境を理解し、課題の把握・改善に努める。
 - ① 通学に伴う児童生徒の健康・安全指導の充実を図る。
 - ② 訪問教育の教育活動(スクーリングを含む)において、児童生徒の健康安全指導の充実を図る。
- (6) インクルーシブ教育システムを推進し「共生社会」の実現をめざす。
 - ① 学校間や居住地校等との交流及び共同学習の充実を図る。
 - ② 理解啓発のため積極的に情報発信する。

2 本年度の重点目標

- (1) キャリア発達の視点からキャリア教育を推進し、キャリアの発達段階4能力「人間関係育成能力」「情報活用能力」「将来設計能力」「意思決定能力」を意図的・継続的に育成する。
 - ① 小・中・高一貫した進路指導体制を強化する。
 - ② キャリア発達を見据えた自立活動・各教科等の授業改善を図る。

③ 医療・福祉・保健・労働等の関係機関と連携強化を図る。

3 キャリア教育の指導の重点

- (1) 社会参加や自立を目指した力の育成を図るため、各学部が連携し、一貫性・系統性のある指導に取り組む。
- (2) 卒業後を見据え、児童生徒一人一人のキャリア発達を意識した授業を行う。
- (3) 高等部卒業後の進路決定については、生徒が社会においてその能力・適性の合った役割が果たせるように家庭や関係機関と緊密に連携を図る。

II 活動報告

[年間のおもな取り組み]

学期	月	活動内容
1	4	就業生活体験実習先への挨拶及び実習に関する打ち合わせ
	5	進路オリエンテーション（高等部1～3年） 前期就業生活体験実習保護者説明会（3年保護者） 校内実習事前学習会（高等部1～3年）
	6	前期就業生活体験実習（6/3～7） 校内実習（6/17～19）
	7	進路だよりの発行（第1号） 校内実習・前期就業生活体験の報告会（1～3年） 進路学習会「高等部卒業後に向けて～スムーズな移行をめざす～」 講師：南部療育医療センターサービス管理責任者 後期就業生活体験実習個別保護者面談（高等部3年保護者）
2	8	抽出実習（高等部3年）
	9	進路だよりの発行（第2号） 後期就業生活体験実習（9/9～13）
3	1 2	3年生進路相談 抽出実習（高等部3年）
	1	個別移行支援計画の作成
	2	進路面談（高等部3年）
3	3	進路だよりの発行（第3号） 新年度の進路計画・立案
	年間	卒業生の進路状況確認

Ⅲ 進路決定状況

卒業生 5 名（令和 7 年 3 月 1 日現在）

No.	事業所名	性別	職種	所在地
1	デイホームさくらんぼ 1 号館	男	生活介護	豊見城市
2	未定	女		
3	沖縄南部療育医療センター	男	施設入所	那覇市
4	沖縄南部療育医療センター	女	施設入所	那覇市
5	沖縄南部療育医療センター	女	施設入所	那覇市

Ⅳ 成果と課題

1 成果

- (1) 3 年生対象の就業生活体験実習は、通学生に加えて、卒業後にグループホーム入所を希望しているセンター入所生の実習を、センターと合同で行うことができた。そのため、卒業後の進路選択の幅を拡げることができた。
- (2) 校内実習では、商品作り（クリアファイル、ネギとハーブのボルトジユ）及びレク活動、販売学習を行った。自分たちで福祉事業所を立ち上げ、事業所名を決めたり、販売して得られた収入を、給料として支給してもらった体験学習を行った。作る楽しさ、育てる楽しさ、見て香りを味わう喜びを感じる学習を行った。楽しくお仕事をすることで、みんなで喜びを共有することができた。
- (3) 進路学習会では、南部療育医療センターのサービス管理責任者より、高等部卒業後のスムーズな移行に向けて、福祉サービスに関するお話をしていただいた。分かりやすく丁寧にお話していただくことで、卒業後の生活への移行を、より明確にイメージできるようになり、見通しが持てるようになった。

2 課題

- (1) 本校の高等部の生徒は、本年度は通学生が 2 名、センター生が 7 名である。通学生 2 名が卒業し、次年度以降は全員がセンター生となるため、センター入所生の実習の持ち方や内容を検討する必要がある。

校内実習（商品作り、レク、販売）

クリアファイル作り

ボルトジユコ仕込み

ホットケーキ作り



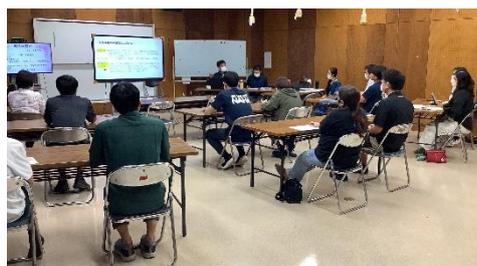
販売学習

給料

クリアファイル作り、ネギ・ハーブのボルトジユコ仕込み、レクではホットケーキ作りを行い、作る楽しさ、育てる楽しさ、見て香りを感じて味わう喜びを感じました。また、販売学習をし、実際に給料を支給してもらいました。楽しくお仕事をすることで、みんなで喜びを共有することができた実習でした。

進路学習会

南部療育医療センターのサービス管理責任者より、高等部卒業後のスムーズな移行に向けて、福祉サービスに関するお話をしていただきました。分かりやすく丁寧にお話していただくことで、卒業後の生活への移行を、より明確にイメージできるようになり、見通しが持てるようになりました。



高等部卒業後に向けて・・・

◎市町村の障害福祉課へ障害区分認定の申請を行う。（18歳から可）
※誕生日の3ヶ月程度前から手続き可能。センター入所者の場合は遅くとも12月上旬には申請するのが望ましい。
判定が出るまでに2ヶ月程度かかるため、1月2月に申請をすると4月に間に合わない恐れがある。その場合、入所費用（医療費等含む）が10割負担になってしまう。（約30万円/月）→医療ケアがある方はさらに高額になる。

◎相談支援事業所と契約し、サービス等利用計画を作成する。



障害福祉課窓口にてリストがもらえます。

※必ずしもお住いの市町村内の相談事業所と契約しなければならないという事はありません。

進路指導活動報告書

沖縄県立森川特別支援学校

I 進路目標

1 本校の教育目標

病気や障害の状態及び発達段階に応じた適切な教育を施し、心身の調和的発達を促し、力強くたくましく生きる意志や態度を養い、病気や障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服し、自立し、社会参加できる児童生徒を育成する。

2 学校教育目標における進路指導

病気や障害による学習上または生活上の困難を改善・克服し、自立し社会参加できる児童生徒を育成する。

3 各学部における重点目標

(1) 小学部

- ① 自分の良さを知る。
- ② 身近で働く人たちへ興味・関心を持たせ、憧れている職業や将来の夢について考える。
- ③ 職場見学や情報機器の活用を通して働くことの大切さを知る。

(2) 中学部

- ① 自分のよさや個性が分かり、他者の感情や立場に配慮しながら行動ができる。
- ② 職場見学や情報機器の活用を通して、いろいろな職業を知り、仕事への関心や意欲を高める。
- ③ 将来の進路希望に基づいて当面の目標を立て、その達成に向けて努力する。
- ④ 医療機関や家庭と連携しながら、自分の病状を理解し、働くことの意義や将来の生き方を考える。

(3) 高等部

- ① 自己の能力や適性を理解し、場に応じた適切なコミュニケーション能力を育成する。
- ② 生徒に早い段階から望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識・技能を身につけ、自己の個性についての理解と主体的に進路を選択する能力と態度を育成する。
- ③ 進路の情報を多角的に収集し、就業体験や情報機器の活用を通して自己を生かせる進路を考える態度を養う。
- ④ 医療機関や家庭と連携しながら自分の病状をふまえ、進路希望の実現に向け、課題を設定し解決に取り組む。

4 進路指導の基本方針

- (1) 社会自立・職業自立を目指して基本的知識、技能、態度の育成を図る。
- (2) キャリアパスポートを活用し、系統性のある進路指導を実践する。
- (3) 家庭、施設との連携や協力を重視した活動をする。
- (4) 職場・事業所の訪問、開拓の充実を図る。
- (5) 追支援（卒業後の支援）の充実を図る。
- (6) 関係機関との連携を密にする。

Ⅱ 活動報告

1 主な活動報告

時期	項目	内容
4月	進路計画	○進路指導計画 ○キャリアパスポート引き継ぎ
	家庭訪問（担任・担当）	○進路希望及び体験場所の希望確認 ○前期就業体験の説明
	キャリア教育	○キャリアパスポート目標設定
	進路学習	○進路の手引き読み合わせ（卒業後の進路について） ○進路便り発行・読み合わせ
5月	前期就業体験事前学習	○体験内容の確認 ○体験の心構え（挨拶・マナー・非常時の対応法） ○しおりの作成及び体験の目標設定
	キャリア教育	○履歴書作成 ○名刺の渡し方、受け取り方 ○自己紹介
	体験先への事前挨拶	○本人による電話での事前訪問アポイントとり ○本人・保護者・担任（進路部）で事業所訪問 ○挨拶及び体験の日程・内容の確認
	進路学習	○進路便り発行・読み合わせ
6月	前期就業体験	○就業体験実施 焼肉五苑、宜野湾市民図書館、他7カ所 ○就業体験最終日に振り返り指導
	就労アセスメント打合せ	○本人・保護者・担任・進路・計画相談員による確認
	追支援	○卒業生動態把握及び支援
	キャリア教育推進週間	○校内実習 事業所見学（ハートフルユニオン） 事務補助&用務員補助、美化活動 ○就業体験見学（宜野湾市民図書館）
	就業体験の事後指導	○体験の振り返り・課題の確認 ○就業体験報告会の準備・発表
7月	進路学習	○進路の手引き読み合わせ（進学編） ○進路便り発行・読み合わせ
	キャリア教育	○キャリアパスポート学期振り返り
8月	四者面談 （本人・保護者・担任・進路指導部）	○前期就業体験の振り返り ○後期就業体験の説明 ○体験場所の選定 ○進路希望調査
	学校説明会参加	○専門学校説明会参加（本人・保護者・進路指導部）
	追支援	○卒業生動態把握及び支援
9月	キャリア教育	○キャリアパスポート目標設定
	進路学習	○進路便り発行・読み合わせ

10月	後期就業体験事前学習	○前期就業体験の課題等確認 ○心構え・体験内容の再確認 ○しおりの作成及び体験の目標設定
	体験先への事前挨拶	○本人による電話での事前訪問アポイントとり ○本人・保護者・担任（進路部）で事業所訪問 ○挨拶及び体験の日程・内容の確認
	進路学習	○進路の手引き読み合わせ（一般就労と福祉就労） ○進路便り発行・読み合わせ
11月	後期就業体験	○就業体験実施（A&W、沖縄こどもの国、RYUBO、他5カ所） ○1年生就業体験見学（B型事業所ありあむ） ○就業体験最終日に振り返り指導
	後期就業体験事後学習	○体験の振り返り・課題の確認 ○就業体験報告会の準備・発表
	進路学習	○進路便り発行・読み合わせ ○進学先研究
12月	卒業生追支援	○卒業生動態把握及び支援
	進路学習	○進路便り発行・読み合わせ
	キャリア教育	○キャリアパスポート学期振り返り
1月	卒業生進路講話	○令和4年度卒業生 宮平愛心「上手くいく、働き方」
2月	四者面談（1, 2年生）	○次年度の就業体験の説明、体験先の選定
	キャリア教育	○キャリアパスポート学年振り返り
3月	卒業生追支援	○卒業生動態把握及び支援
	進路学習	○進路便り発行・読み合わせ

2 指導の実際

(1) 進路学習

- ① 進路の手引きを活用し、卒業後の進路、進学、一般就労と福祉就労について、授業のなかで、生徒が理解できるように丁寧に説明を行った。
- ② 進路便りを通して、高校や大学入試の情報を細かく本人や保護者に伝え、自分の進路について考える機会を増やすことができた。また、森川本校だけでなく琉球大学病院や南部医療センター内にある森川院内教室の生徒の取り組みを知ることによって、小学生が高校生の進路の取り組みを知るなど、森川独自の進路ツールとして活用した。
- ③ 進学先研究では大学や専門学校について各自で研究し、そこで行われる授業やどのような資格が取れるか調べるとともに、自宅で過去問に挑戦する生徒もいた。

(2) 就業体験活動の取り組み

【実習の目標】

- ①卒業後、社会人として自立するために必要な態度や働く意欲を養う。
- ②職場のルールや対人関係を実際に経験し、適応力をつける。
- ③実習における作業体験及び社会経験の拡充により、達成感や成就感を味わう。
- ④実習の成果により自己理解を深め、進路について考える。

【活動・報告会の様子】



(3) キャリア教育推進活動取り組み

① 大学・専門学校説明会

夏休み期間に行われた大学や専門学校の説明会に生徒・保護者と進路部で参加し、進路意識を高めるとともに早期の進路決定を促した。

② 卒業生進路講話

2年前に本校を卒業した生徒を招いて、高校生活で大切にしてきたことや進路決定に至る迄にやるべきこと、働いてみての苦労話等のアドバイスを聞くことができた。講演会後の交流会では、生徒目線の悩みなどを相談する様子も見られ大変有意義であった。



Ⅲ 進路決定状況（令和7年3月1日現在）

No	進路先	職種
1	沖縄国際大学総合文化学部英米言語文化学科	進学
2	沖縄ポリテクカレッジ国際ホスピタリティ観光科	進学
3	京都芸術大学通信教育部文化コンテンツ創造学科イラストレーションコース	進学
4	就労センター 大樹	継続 B 型
5	障がい者就労支援センター すばる	継続 B 型

Ⅳ 成果と課題

1 成果

- (1) 進路の手引きや進路便りを活用した進路学習では、保護者とも情報を共有することで卒業後の進路について意識を高めることができた。
- (2) 就業体験では、それぞれの生徒が前回の課題克服に努めるとともに、自分の進路選択の幅を広げることができた。報告会も全員が参加し、素晴らしいプレゼンであった。
- (3) 大学・専門学校への積極的な参加により、同世代の高校生の様子を肌で感じながら、自分の進路について考えるきっかけとなった。卒業生講話では、より身近な先輩の話聞くことで社会の厳しさなどを理解できたようである。

2 課題

- (1) 1年生は入学後間もない中で、生徒の実態を把握してキャリア教育習慣の取り組みを進めたが、もう少しじっくりと評価しながら段階的に行っても良かった。
- (2) 進路に関する授業を多く行ったが、面談において生徒と保護者で進路についての話がまとまっていないことが多く、早期の進路決定に向けた取り組みがさらに必要である。

沖縄県特別支援学校進路指導研究会会則

第1条（名称及び所在地）

この会は沖縄県特別支援学校進路指導研究会（以下会と称す）と称し、事務局を会長所在の学校におく。

第2条（目的及び事業）

- （1）この会は会員相互の密接な連携及び協力により各教科以外の教育活動の内容等に関する学業生活及び進路選択決定に関する問題を検討し解決することと、卒業後のアフターケアに関する問題の検討及び解決を目的とする。
- （2）前項の目的を達成するために以下の事業を行う。
 - ① 進路指導の研究
 - ② 進路指導に関する情報の交換
 - ③ アフターケアに関する情報の交換及びその取り組み
 - ④ 関係諸団体との連携
 - ⑤ 機関誌及び研究調査物の発行
 - ⑥ 調査活動
 - ⑦ その他この会の目的達成に必要な事項

第3条（組織）

沖縄県に所在する特別支援学校の進路指導関係職員及び本会の目的に賛同する教職員をもって組織する。

第4条（役員）

- （1）この会に次の役員をおく。

1 会長	1名
2 副会長	1名
3 事務局長	1名
4 常任委員	各校1名（分校・分教室も1校とみなす）
5 監事	2名
6 会計	1名

ただし

- ① 会長は特別支援学校校長会で選出された校長があたる。
 - ② 副会長は会長校の副校長または教頭とし、事務局長及び会計は会長校の進路指導担当教諭があたる。
 - ③ 常任委員は原則として各校の進路指導担当教諭とする。
 - ④ 監事2名を進路指導担当教諭の中から選出する。
- （2）役員は総会において選出し、その任期は1年とする。ただし再選することを妨げない。補欠による役員の任期は前任者の残任期間とする。

第5条（役員の仕事）

- （1）会長は会を代表し、会の運営を統括する。
- （2）副会長は会を補佐し、会長が事故あるときはその業務を代行する。
- （3）事務局長は会の事務全般の業務を担当する。
- （4）常任委員は会長の指示に従い、役員会に属する事項を行う。
- （5）監事は会の会計を補佐し、その結果を総会において報告する。
- （6）会計は出納、会費徴収の他、会計に関する業務を担当する。

第6条（役員会）

- （1）役員会は第4条の役員をもって構成し、第2条に定める目的を遂行するための諸施策を審議決定しその実現に努める。
- （2）役員会は役員の過半数の出席によって成立し、議事は出席役員の過半数で決める。
- （3）役員会は年間計画に基づいて開催し、必要に応じて臨時に開くことができる。

第7条（総会）

- （1）この会は毎年1回、年度の始めに総会を開く。
- （2）総会は第4条第2項に定めるもののほか、次の事項を審議決定する。
 - ① 規約の改廃
 - ② 予算、決算の承認及び分担金の決定
 - ③ 会の解散
 - ④ その他、会の運営に必要と認められる事項
- （3）総会の成立及び議事の決定は、第6条第2項を準用する。ただし、会の解散については会員の4分の3以上の同意を得なければならない。
- （4）臨時総会は役員の過半数の要求によって開くことができる。

第8条（会の経費）

会の運営に関する経費は各特別支援学校の分担金と補助金、その他の収入をもってこれにあてる。分担金は各特別支援学校に在籍する中・高等部の生徒1名につき100円とする。ただし、分校・訪問学級及び分教室の生徒については、当該学校長の判断によりその数に含めないことができる。

第9条（会計年度）

この会の会計年度は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第10条 この会に下の表簿をおく。

- （1）会則
- （2）会員名簿
- （3）役員名簿
- （4）金銭出納簿
- （5）証憑書類綴り
- （6）文書発送、受付簿
- （7）文書綴り
- （8）会議録
- （9）備品台帳
- （10）その他必要な書類

付則 この会則は平成19年5月31日から施行する。

付則 この会則は平成23年6月2日から施行する。

付則 この会則は平成24年7月6日から施行する。

令和6年度 沖特進研 役員・常任委員

会長	1	古我知 博樹	大平特支
副会長	2	花城 一茂	大平特支
事務局長	3	宮城 勝巳	大平特支
会計	4	柴引 瑞乃	大平特支
監事	5	新垣 真美	沖縄盲
監事	6	楠田 真由	沖縄盲

常任委員	1	新垣 真美	沖縄盲
	2	仲宗根 あや子	沖縄ろう
	3	仲村 まゆみ	名護特支
	4	照屋 寛史	美咲特支
	5	伊地 民恵	美里高分教室
	6	國吉 明耶	センター分教室
	7	山城 信哉	はなさき支援
	8	勝馬 あずさ	大平特支
	9	新垣 聡子	久米島高分教室
	10	真玉橋 克彦	みらい支援
	11	城間 笑子	島尻特支
	12	嘉陽 尚美	西崎特支
	13	渡久地 幸太	宮古特支
	14	東 宏樹	八重山特支
	15	横田 期彦	沖高特支
	16	古川 ひろみ	陽明高支
	17	松本 美智子	南風原高支
	18	竹本 理人	中農高支
	19	仲宗根 あきの	やえせ高支
	20	仲松 将人	桜野特支
	21	谷畑 学	泡瀬特支
	22	伊是名 広史	鏡が丘特支
	23	花木 美穂	浦添分校
	24	玉寄 久乃	那覇特支
	25	白金 広朗	森川特支

令和6年度 沖縄県立特別支援学校 進路指導担当者一覧

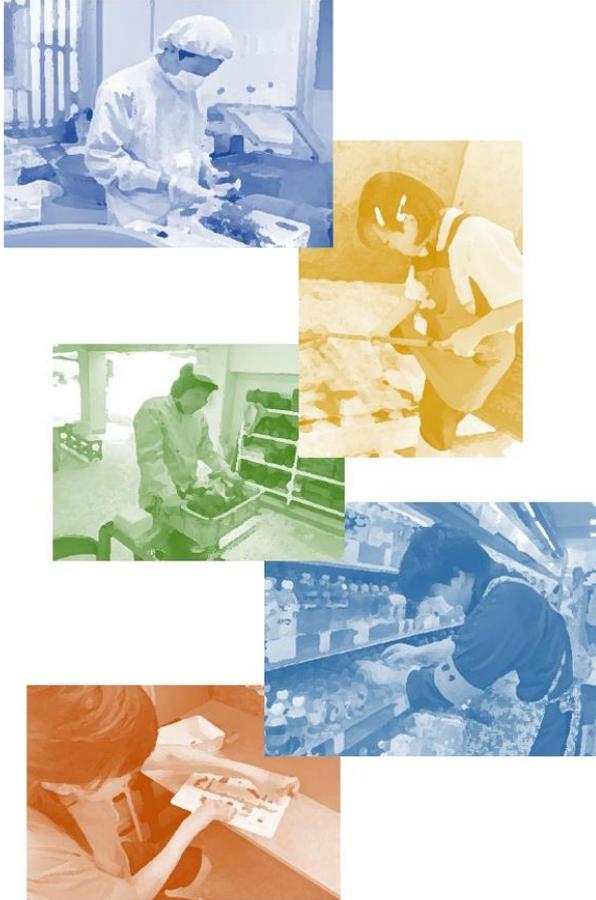
1	1	沖繩盲学校	〒 901-1111	主 新垣真美	常任委員連絡用メールアドレス	yakabumm@open.ed.jp
		校長 新垣ゆかり	南風原町字兼城473	小 仲村真子		
		教頭 川満恵	T 098-889-5375	中 屋山由美		
		常任 新垣真美	F 098-888-2547	高 仲村渠弘康、楠田真由、赤嶺美奈子、大見謝匡		
2	2	沖繩ろう学校	〒 901-2304	主 仲宗根あや子	常任委員連絡用メールアドレス	nakasoa@open.ed.jp
		校長 福田政博	北中城村字屋宜原415	小 洲鎌このみ		
		教頭 比嘉淳	T 098-932-5475	中 仲宗根あや子		
		常任 仲宗根あや子	F 098-932-8248	高 波平ちあき		
3	3	名護特別支援学校	〒 905-0006	主 仲村まゆみ	常任委員連絡用メールアドレス	nakamumy@open.ed.jp
		校長 國越 猛	名護市宇字茂佐760	小 比嘉愛美		
		教頭 仲松 智	T 0980-52-0505	中 新里夏菜		
		常任 仲村まゆみ	F 0980-54-1486	高 新里豪、比嘉伸哉、宮城岬		
4	4	美咲特別支援学校	〒 904-2153	主 照屋寛史	常任委員連絡用メールアドレス	teruyahi@open.ed.jp
		校長 内間秀樹	沖繩市美里4-18-1	小 上江洲日南		
		副校長 仲里智美	T 098-938-1037	中 幸地修也		
		常任 照屋寛史	F 098-938-7700	高 三好和重・奥間政亮・仲村剛志・上原由紀子・島田大夢		
		5	美里高校分教室	T 080-9854-9322	高 伊地民恵	常任委員連絡用メールアドレス
5	7	はななきき支援学校	〒 901-2304	主 山城信哉	常任委員連絡用メールアドレス	yamasinh@open.ed.jp
		校長 井手一宏	北中城村屋宜原415	小 新垣杏樹		
		教頭 下里佳代子	T 098-989-0192	中 城間美紀		
		常任 山城信哉	F 098-989-0193	高 山城信哉、與那覇尚子、又吉潤、松田未逢		
6	8	大平特別支援学校	〒 901-2113	主 勝馬あずさ	常任委員連絡用メールアドレス	katsazus@open.ed.jp
		校長 古我知博樹	浦添市大平1-27-1	小 伊良部星汰		
		教頭 花城一茂	T 098-877-4941	中 伊佐圭子、糸数千春		
		常任 勝馬あずさ	F 098-876-4148	高 廣渡善治、宮良みゆき、金城久枝、瀬底智樹、島袋朝哉		
7	10	那覇みらい支援学校	〒 900-0024	主 新垣聡子	常任委員連絡用メールアドレス	arakasatok@open.ed.jp
		校長 栗園静夫	那覇市古波蔵4-10-17	小 真玉橋克彦	常任委員連絡用メールアドレス	mdnbshik@open.ed.jp
		教頭 今村清輝	T 098-855-7831	中 比嘉ゆうな		
		常任 真玉橋克彦	F 098-855-7832	高 上江洲安史 真玉橋克彦 和宇慶愛代 具志堅里枝 上原真子 坂本里梨奈子 仲田幸一朗 神田匡志		
8	11	島尻特別支援学校	〒 901-0411	主 島田時彦	常任委員連絡用メールアドレス	arakakis@open.ed.jp
		校長 中山充雄	八重瀬町字友寄160	小 金城萌		
		教頭 湧武 真也	T 098-998-8240	中 崎山鈴花		
		常任 城間 笑子	F 098-998-7655	高 平良雅子 有川正悟 島田時彦、川田綾子、城間笑子、仲本祥子、大田文代		
8	12	西崎特別支援学校	〒 901-0305	主 嘉陽尚美	常任委員連絡用メールアドレス	kayounom@open.ed.jp
		校長 呉屋光広	糸満市西崎1-1-2	小 比嘉智子		
		教頭 野原小侑介	T 098-994-6855	中 外間千香		
		常任 嘉陽尚美	F 098-994-6856	高 中村省月 嘉陽尚美 眞榮里倫子		
9	13	宮古特別支援学校	〒 906-0002	主 渡久地幸太	常任委員連絡用メールアドレス	toguckouta@open.ed.jp
		校長 濱元伸	宮古島市平良字狩俣4005-1	小 照屋静乃		
		教頭 前川考治	T 0980-72-5117	中 大石花音		
		常任 渡久地幸太	F 0980-72-5320	高 砂辺紗綾 渡久地幸太 仲宗根出 東加奈子		
10	14	八重山特別支援学校	〒 907-0243	主 東宏樹	常任委員連絡用メールアドレス	azumahrk@open.ed.jp
		校長 福田洋一	石垣市宇宮良77	小 浅井康之		
		教頭 與那城 哲	T 0980-86-7345	中 伊良波長之		
		常任 東宏樹	F 0980-86-8113	高 東宏樹 武内望 小八重桂子		
11	15	沖繩高等特別支援学校	〒 904-2213	主 横田期彦	常任委員連絡用メールアドレス	yokodanr@open.ed.jp
		校長 城間政次	うるま市宇田場1243	小 土屋知子		
		教頭 友寄英一郎	T 098-973-1661	中 前泊一則		
		常任 横田期彦	F 098-974-1680	高 知念育美		
14	16	陽明高等支援学校	〒 901-2113	主 古川ひろみ	常任委員連絡用メールアドレス	kishabah@open.ed.jp
		校長 宮里哲	浦添市大平488番地	小 比嘉智子		
		教頭 朝倉康介	T 098-879-3062	中 外間千香		
		常任 古川ひろみ	F 098-879-9520	高 中村省月 嘉陽尚美 眞榮里倫子		
13	17	南風原高等支援学校	〒 901-1117	主 松本美智子	常任委員連絡用メールアドレス	mtsmotom@open.ed.jp
		校長 嘉数修	南風原町字津嘉山1140	小 松本美智子 金城努 古川誠		
		教頭 山里剛	T 098-889-4618	中 竹本理人	常任委員連絡用メールアドレス	takemasa@open.ed.jp
		常任 松本美智子	F 098-889-3667	高 東江さつき		
12	18	中部農林高等支援学校	〒 904-2213	主 竹本理人	常任委員連絡用メールアドレス	takemasa@open.ed.jp
		校長 新垣博之	うるま市宇田場1570	小 仲宗根あき子	常任委員連絡用メールアドレス	shiroakn@open.ed.jp
		教頭 金武圭代	T 098-973-3578	中 親泊昌彦	常任委員連絡用メールアドレス	nkmtsuyk@open.ed.jp
		常任 竹本理人	F 098-973-3357	高 仲松将人		
15	19	やえせ高等支援学校	〒 901-0411	主 仲宗根あき子	常任委員連絡用メールアドレス	shiroakn@open.ed.jp
		校長 與那嶺さゆり	八重瀬町友寄850	小 谷畑学	常任委員連絡用メールアドレス	tanihatm@open.ed.jp
		教頭 島袋聡	T 098-998-2401	中 吉田曜		
		常任 仲宗根あき子	F 098-998-4697	高 當間豊		
16	20	桜野特別支援学校	〒 905-0006	主 親泊昌彦	常任委員連絡用メールアドレス	nkmtsuyk@open.ed.jp
		校長 津波 佳和	名護市宇字茂佐1787-1	小 谷畑学	常任委員連絡用メールアドレス	tanihatm@open.ed.jp
		教頭 金城 奈緒子	T 0980-52-3920	中 吉田曜		
		常任 仲松 将人	F 0980-54-1488	高 當間豊		
17	21	泡瀬特別支援学校	〒 904-2173	主 谷畑学	常任委員連絡用メールアドレス	tanihatm@open.ed.jp
		校長 田盛信壽	沖繩市比屋根5-2-20	小 吉田曜		
		教頭 崎原和廣	T 098-932-7584	中 當間豊		
		常任 谷畑学	F 098-933-0797	高 平良尚紀 玉城あゆみ 安次富響葵		
18	22	鏡が丘特別支援学校	〒 901-2104	主 伊是名広史	事務局 連絡用メールアドレス	izenahr@open.ed.jp
		校長 上運天 滋	浦添市当山3-2-7	小 砂川千尋		
		教頭 池間 千佳子	T 098-877-4940	中 古堅好乃 伊波興作		
		常任 伊是名広史	F 098-877-9958	高 伊是名 広史 佃智美 比嘉美保		
19	24	浦添分校	浦添市字経塚715	主 花木美穂	常任委員連絡用メールアドレス	urasobunko-ah_2404@open.ed.jp
		教頭 下地正也	T 098-879-5590	中 花木美穂		
		常任 花木美穂	F 098-879-5609	高 花木美穂		
		那覇特別支援学校	〒 902-0064	主 玉寄久乃	常任委員連絡用メールアドレス	kinjoush@open.ed.jp
20	25	鏡が丘特別支援学校	〒 901-2104	主 伊是名広史	事務局 連絡用メールアドレス	izenahr@open.ed.jp
		校長 下地直子	那覇市寄宮2-3-30	小 具志望のぞみ		
		教頭 嘉手納清	T 098-834-0948	中 玉寄久乃		
		常任 玉寄久乃	F 098-834-6430	高 玉寄久乃		
20	25	森川特別支援学校	〒 903-0128	主 白金広朗	常任委員連絡用メールアドレス	shrokneh@open.ed.jp
		校長 岩崎政志	西原町字森川151	小 新城春菜		
		教頭 鳩間盛松	T 098-945-3008	中 平岡美沙乃		
		常任 白金広朗	F 098-946-5567	高 平岡美沙乃		

令和6年度 生徒数（中・高等部）・分担金一覧

	学校名	中学部	高等部	合計	分担金
1	沖縄盲	5	11	16	1,600
2	沖縄ろう	7	4	11	1,100
3	名護特支	36	54	90	9,000
4	美咲特支	89	113	202	20,200
5	美里高分教室		36	36	3,600
6	センター分教室		20	20	2,000
7	はなさき支援	40	51	91	9,100
8	大平特支	72	101	173	17,300
9	久米島高分教室		4	4	400
10	みらい支援	54	103	157	15,700
11	島尻特支	70	89	159	15,900
12	西崎特支	47	73	120	12,000
13	宮古特支	18	24	42	4,200
14	八重山特支	16	31	47	4,700
15	沖高特支		141	141	14,100
16	陽明高支		60	60	6,000
17	南風原高支		54	54	5,400
18	中農高支		30	30	3,000
19	やえせ高支		28	28	2,800
20	桜野特支	6	8	14	1,400
21	泡瀬特支	24	26	50	5,000
22	鏡が丘特支	31	24	55	5,500
23	那覇特支	8	9	17	1,700
24	森川特支	10	8	18	1,800
	合 計	533	1,102	1,635	163,500

第36回沖縄県特別支援学校

キャリア教育・就労支援発表会



日時：令和6年 12月 5日（木）

展示・販売 12:30～13:30

発表会 14:00～16:00

場所：沖縄市民会館（沖縄市八重島 1-1-1）

大ホール（発表会・清掃演示）

中ホール（展示・販売）

主催：沖縄県特別支援学校進路指導研究会

共催：沖縄県教育委員会 沖縄県特別支援学校長会

後援：沖縄県ビルメンテナンス協会

沖縄 B. M. C.（沖縄宴会支配人協議会）

沖縄労働局 沖縄市教育委員会

問い合わせ先

沖縄県特別支援学校進路指導研究会事務局

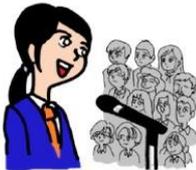
（沖縄県立大平特別支援学校内）

〒901-2113 浦添市大平 1-27-1

TEL：098-877-4941 FAX：098-876-4148

就業体験・生活体験発表会
清掃演示の部

14:00～16:00 (大ホール)



**「就業体験
・生活体験発表会」**
沖縄県の特別支援学校の中
から7校の代表生徒が発表
します。



「清掃演示」
沖縄県特別支援学校技能
検定メンテナンス部門出場
生徒による、清掃技能デモン
ストレーションを行います。

就業体験・生活体験発表会の発表校

沖縄盲学校

名護特別支援学校

美咲特別支援学校

沖縄高等特別支援学校

中部農林高等支援学校

鏡が丘特別支援学校

那覇特別支援学校

特別支援学校キャリア教育の取組報告

南風原高等支援学校

施設案内図
(沖縄市民会館)

駐車場

展示・販売の部

12:30～13:30 (中ホール)

「展示」
特別支援学校のキャ
リア教育の取り組みを
パネルにて展示します。



「販売」
特別支援学校で製造
した食品などを紹介、
販売します。



大ホール
発表の部



中ホール
展示・販売の部

特別支援学校で取組んでいる「就労訓練・キャリア教育」などを生徒が発表する場となっております。また各
学校のキャリア教育の取り組みの展示・販売等もあります。多くの方のご来場をお待ちしております。

事前申込は必要ありませんが、座席を確保したい場合や車イス等の配慮を要する場合は「問い合わせ先」へ
11/1(金)までにご連絡ください。

第36回 沖縄県特別支援学校「キャリア教育・就労支援発表会」要項

1 目的

- (1) 生徒が就業体験や学校生活等における生活体験を発表することを通して、自己を見いだし自分の将来に対する意識の高揚を図る。
- (2) 生徒が、社会参加するための学習で習得した技能を発表することを通して、将来を切り拓く自信を深める機会とする。
- (3) 沖縄県の特別支援学校におけるキャリア教育の取組みを展示・紹介することで、学校、生徒、保護者そして地域の支援者との相互理解につなげ、生徒の職業的・社会的自立の促進を図る。

2 「発表の部」プログラム

	内 容	
1	開会のあいさつ	沖縄県特別支援学校進路指導研究会 副会長 花城 一茂
2	主催者あいさつ	沖縄県特別支援学校進路指導研究会 会長 古我知 博樹
3	来賓あいさつ	沖縄県教育委員会 教育長 半嶺 満
4	発表① 「私たちの福祉事業所～パラダイスジョブ～」	那覇特別支援学校 高等部3年 友利 庵獅
5	発表② 「過去の自分を思い返して」	名護特別支援学校 高等部3年 津嘉山 琉季
6	発表③ 「私の描く未来」	沖縄盲学校 高等部2年 比嘉 野乃加
7	発表④ 「就業体験を通して学んだこと」	美咲特別支援学校 高等部3年 上間 恒哉
8	特別支援学校技能検定について	沖縄県教育庁県立学校教育課 指導主事 富川 盛章
9	清掃デモンストレーション 種目：ダストクロス 種目：テーブルふき	中部農林高等支援学校 3年 上原 航 3年 玉元 輝
10	学校取り組み報告 「南風原高等支援学校の取り組み報告」	南風原高等支援学校 教諭 松本 美智子
11	発表⑤ 「私の進路実現～就業体験実習を通して～」	沖縄高等特別支援学校 3年 比嘉 月海
12	発表⑥ 「将来、私の生活が楽しくなるために」	鏡が丘特別支援学校 高等部2年 照屋 碧
13	発表⑦ 「高校生活を振り返って」	中部農林高等支援学校 3年 武井 琉李
14	閉会のあいさつ	沖縄県特別支援学校進路指導研究会 副会長 花城 一茂

私たちの福祉事業所～パラダイスジョブ～

沖縄県立那覇特別支援学校 高等部3年 友利 庵獅 ともり あんじ

私たち那覇特別支援学校高等部のメンバーは、卒業後の生活を見据えて、みんなで校内実習に取り組みました。その活動の様子を、画像や動画で報告いたします。

まず始めに、自分たちで福祉事業所を立ち上げ、事業所名を決めました。事業所名は、みんなで話し合い「パラダイスジョブ」にしました。お互いに自分の得意なことを活かして、真剣かつ楽しく仕事に取り組むとともに、レクレーションを楽しみ、そこで生み出された豊かさを、みんなで分かち合うことができるように、という願いを込めて、この事業所名にしました。

期間は、6月17日月曜日から6月19日水曜日までの3日間です。実習期間は、登校すると、出勤簿にシールを貼るところから1日が始まります。いつもと違う1日の始まりに「さあ、仕事だ！」と気持ちが高まるのを感じます。

午前中は創作活動で、クリアファイルを制作しました。美術の授業で制作した作品に込めた楽しさや、私たちが感じている日々の想いを、家族やお世話になっている事業所の皆さん等、身近な人たちと分かち合うために作りました。午後は、みんなで育ててきた二十日ネギとハーブのボルトジユの販売準備や、ホットケーキ作り等のレクレーションをしました。ホットケーキ作りでは、生地をこねたり、香りを感じたり、味わったりしました。作ったホットケーキは、小中学部の児童生徒や職員の皆さんにもお裾分けすることができ、喜びでいっぱいでした。校長先生も、にっこり。

実習後に行った販売学習では「買ってください！！」という気持ちを込めて、元気に声を出したり、みんなで作った販売促進のためのポップを見てもらって、アピールしました。そして、完売することができ、嬉しくてたまりませんでした。また、販売することで給料をいただくことができたことが、とても嬉しかったです。

卒業後に進む事業所では、この実習を活かして、自分の得意なことをますます伸ばし、良いところをアピールして、自分らしくのびのびと、人生を楽しんでいきたいです。

か こ じ ぶ ん お も か え
「過去の自分を思い返して」

つかやま りゅうき
沖縄県立名護特別支援学校 高等部3年 津嘉山 琉季

僕は、5月27日から6月7日までの期間で行われた前期就業体験実習と10月21日から11月1日までの期間で行われた後期就業体験実習の2回にわたって、特別養護老人ホームでいご園で就業体験を行いました。

僕が、いご園を志望した理由は大きく分けて2つあります。1つ目は、僕のひいおばあちゃんが現在介護が必要な状況であるため、介護の知識を身に付け、ひいおばあちゃんの介護の手伝いをしたいと考えたからです。2つ目は、前期就業体験実習で、いご園に実習に行った際に、職員の方々が明るく、相談しやすい方が多くいらしたので、働きやすい雰囲気だと感じたからです。

いご園では、オムツ交換や入浴介助、食事介助やトイレ補助、トイレ掃除や掲示物作成など、さまざまな業務を体験させていただきました。

オムツ交換では、利用者さんへの声かけの仕方や交換する際の立ち位置、汚物の処理の仕方など、一つ一つの作業に丁寧さと細かさが必要だと職員の方から教えていただきました。実際にやってみると、想像以上に難しく、職員の方にも手伝ってもらいながらなんとか交換することができましたが、交換した後の利用者さんのすっきりした顔を見たとき、大変な作業だと感じると同時にやって良かったという想いも湧き上がってきました。

入浴介助では、利用者さんが滑って転ばないように脱衣所の床が濡れていたら拭いたり、浴室へ移動する際も利用者さんの身体の状態に合った移動方法で移動させるなど安全に気を付けて介助をしました。また、利用者さんの頭をシャンプーで洗ったときは、利用者さんが気持ち良さそうな顔をしていたので、やって良かったと感じました。

食事介助では、食事の準備から介助まで一通りの流れを体験させていただきました。食事の準備では、利用者さんによって、流動食や固形物など変えて用意したり、アレルギーの有無を分かりやすくするために、トレー上に色付きのネームプレートを用意するなど工夫する必要があることが分かりました。食事の介助では、食事をすることは生きる為に必要なことですが、一歩間違えると死に繋がる恐れがあることを職員の方から教えていただき、緊張感を持って介助を行いました。

排泄介助では、トイレ介助、ポータブルトイレ介助、オムツ介助、便器、尿器を利用する介助の4つの介助があり、利用者さんによって介助の仕方を変えていることが分かりました。僕は主にオムツ介助とトイレ介助の利用者さんの介助に入り、どちらも利用者さんが不快にならないような配慮と安全確認が大事だと教わりました。

その他にも、トイレ掃除やシーツ交換、掲示物作成をしました。トイレ掃除では、床みがきをした際に、水が残った状態で掃除を終わってしまうと、利用者さんの転倒に繋がる恐れがあるので、早く乾くように水切りワイパーでしっかり水を切る必要があるなど、ただ掃除をするだけでなく、後から使う人のことを考えて掃除をする必要があると感じました。シーツ交換では、1日のほとんどをベッドで過ごす利用者さんもいることを考えながら、しわがつかないようにいねいにシーツ交換を行いました。掲示物作成では、その時期

に合った掲示物を利用者さんと一緒に作成し、掲示することで、コミュニケーションを図りました。

でいご園での実習を終えて、振り返り会にて担当の濱田さんに言われて嬉しかったことは、「琉季くんは視野が広く、気が使える。分からないことがあればすぐ質問するなど、学ぶことについて積極的で、本当であれば、すぐにでも働いて欲しい。」と言われたことです。実習に行く前の自分を思い返してみると、介護という仕事に興味はありましたが、果たして自分にできるのか、体調を崩さずに毎日行くことができるのかなど、不安もたくさんありましたが、2回の実習で改めて僕にとって介護という仕事は天職だという想いと、でいご園で絶対働きたいという想いの2つの想いが強くなりました。まだまだ知らないことや満足にできていない事も山ほどありますが、残りの学校生活の中で、普段の勉強を頑張り、積極性を身に付けることで、4月から即戦力として働くことができるよう、自分のスキルアップに努めたいと思います。

「^{わたし} ^{えが} ^{みらい}私の描く未来」

沖縄県立沖縄盲学校 高等部 2年 ^{ひが} ^の ^の ^か比嘉 野乃加

「私の見え方でもできる仕事がある。」

6月10日～12日の3日間、豊見城市役所で行った就業体験での経験が私にそう思わせてくれました。私は弱視で右目がほとんど見えず、左目の視野も普通の人のお半分程です。それに、まぶしさが苦手だったり、明暗の順応に時間がかかったりします。でも、視力自体はある程度もっているんで、普通の文字を読んだり、書いたり、道具を扱ったりすることもできます。

視覚障害者の就労と聞くと、あん摩マッサージ指圧師や鍼灸師を思い浮かべると人も多おと思います。私と同じように目の病気もっている父もその仕事をしていまして、私自身もその道に進む意外ないと考えていました。そのため、校外での就業体験をどこに行きたいか尋ねられても、あまり実感がなく、何となく家の近く、バスで行ける、少し公務員の仕事に興味があるなどの理由が当てはまった豊見城市役所で就業体験をさせてもらうことにしました。興味はあったものの、どんな仕事をするのか、私にできることがあるのかと少し心配してでしたが、心配なのは私だけでなく、視覚障害者を受け入れる側の豊見城市役所の方も同じだったのではないのでしょうか。市役所の方達の安心と私自身の安心につながると思お、事前に私の見え方や私ができること、苦手なことを伝えることにしました。

- ・右目はほとんど見えていません。
- ・左目は視力が0.9くらいありますが、視野が普通の人のお半分くらいです。
- ・まぶしいのが苦手です。
- ・明るいところから暗いところ、暗いところから明るいところに移動すると目が慣れるまでに結構時間がかかります。
- ・文字は大きすぎると逆に読みにくいので、11～18ポイントくらいが読みやすいです。
- ・文字も書けます。
- ・道具も使えますが、そんなに上手ではないかもしれません。
- ・パソコンで簡単な文字入力ができます。

など、自分の見え方やできること、苦手なことをまとめ、事前に伝えることができました。伝えた後は、不安だった気持ちが少し軽くなり就業体験へ行くことに少しワクワクしました。せっかく就業体験に行くのだから必ず何かを得たいと考える、「積極的に質問する」、「自分の得意なこと苦手なことを知る」、「自分の見え方でどのくらい働けるのか知る」の三つの目標を立てました。市役所では人事課での仕事を体験させてもらお、郵便物の振り分け、文書の収受、ファイルの整理、事務作業などを行いました。

一つ目の目標、「積極的に質問する」では、質問はできましたけど、少し緊張して声が小さくなってしまい、あまりハキハキ話すことができませんでした。分からないことは分からないと、難しいことは難しいと具体的に、はっきり伝えられるようになりたいです。それが、私にとっても、一緒に働く人にとっても働きやすい環境になると思おいました。

二つ目の目標、「自分の得意なこと苦手なことを知る」では、得意なことは分かりませ

んでしたが、パソコンを使って表の作成ができました。学校で取り組んだことが、こういう所で活かされるのだと、学習の意味を実感することができました。難しかったことはファイルの背表紙を作るためにはさみを使い、線に沿って紙を切ることでした。ゆっくりはさみの刃を入れても、少しゆがんでしまったり刃がどこまで入っているのかが、見えづらかったりして、うまくできませんでした。でも、市役所の人が「上手にできていたよ」と言ってくれて嬉しかったです。

三つ目の目標、「自分の見え方でどのくらい働けるのか知る」では、最初、市役所で私のできる仕事があるのかな。周りの人と同じように動けるのかな。と不安でいっぱいでしたが、私にもできそうな仕事内容を準備してくれていたので安心しました。私が事前でできることや苦手なこと、配慮して欲しいことを伝えたことで、市役所の方も対応しやすかったのではないのでしょうか。仕事内容は違いますが、周りの人と同じように働けたことが嬉しかったですし、安心しました。事前に伝えていなかったら、今回のように働けなかったかもしれません。どのような環境でも自分の見え方を説明して、合理的配慮を求められるようにしていくことの大切さを就業体験で学びました。

就業体験での経験は私の見え方でも働くことができるという自信と、職業選択の幅を広げてくれたと思います。今の目標は盲学校の専攻科へ行きあん摩マッサージ指圧師、鍼灸師の資格を取り、社会的に自立することです。以前のように、この道しかないからそこに行くのではなく、私の見え方でも仕事ができたといい就業体験で得た自信が、将来にきちんと目を向けようと思ったきっかけになりました。また、自分の強みや弱みを周囲に伝えて合理的配慮を求めても良いこと、そこで自分自身が居心地良く過ごせることも分かりました。就業体験で学んだことを今後の生活に生かして、社会に貢献できる人になりたいです。私が描く未来が実現できるように…。

しゅうぎょうたいけん とお まな
「就業体験を通して学んだこと」

うえま こうや
沖縄県立美咲特別支援学校 高等部 3年 上間 恒哉

私は5月27日から6月7日までの2週間、かねひで美里市場で前期就業体験を行いました。2年生の時にスーパーでの実習を経験し、高等部卒業後はスーパーで働くを楽しそうだと思い、家族や先生方と相談して就業体験先を決めました。

かねひで美里市場での仕事内容は、青果コーナーのバックヤードで野菜の袋詰め、値段シールの貼り作業、野菜の陳列作業などを行いました。その後は、お菓子コーナーの前出しや補充作業に取り組みました。最初は緊張していましたが、従業員の方が丁寧に教えてくださったので、安心して作業を覚えて進めることができました。値段シール貼り作業では、見やすい位置にシールを貼り付けることを教わり、お客様の立場になって丁寧に作業することの大切さを学びました。お菓子の補充はパッケージが見えるように陳列し、こまめな前出しを繰り返す作業でした。毎日大量だったので、お菓子の補充作業は大変だと感じました。しかし、たくさん商品補充をするということは、お客様が満足して商品を購入しているのだと思い、もっと頑張ろうという気持ちになりました。反省することは、早く仕事を終わらせようとあわててしまい、商品を落としそうになってしまったことです。大事な商品を落としてしまうと売り物にならなくなってしまい、店舗にもお客様にも迷惑がかかります。だから、後期就業体験では落ち着いて作業することを意識しようと思いました。

後期就業体験は、10月15日から10月25日までかねひで照屋店で行いました。仕事内容は主に食品補充や前出しでした。作業の仕方は前回と同じように、お客様が見やすいように商品を並べることを従業員の方と確認しました。前回の実習の反省を意識し、忙しい時もあせらないよう気をつけて、商品を落とさないように丁寧に作業しました。牛乳などを並べている時に、従業員の方に「パッケージだけでなく賞味期限がきちんと見えるように並べると良い」と教えてもらいました。丁寧に商品を扱うだけでなく、商品によって陳列や品出しの仕方を工夫することが大切だとあらためて実感しました。就業体験の後半は、苦手な接客も頑張ることができました。お客様に商品の場所聞かれても、棚の位置を覚えていたので落ち着いて案内することができました。また、お客様に「このお菓子はおいしいの？」と質問された時に「とてもおいしいですよ。」と返事をするとうれしく「ありがとう」と言って商品を買ってくれたことがあり、お客様とコミュニケーションをとることが楽しいと感じられ、接客に対して少し自信を持つことができました。

前期・後期就業体験を通して、地域住民の生活に欠かせないスーパーで働くことの充実感を学び、以前よりスーパーで働きたいと思う気持ちが大きくなりました。私が目指す「信頼される社会人」になれるよう、普段から自分自身の行動や言葉づかいにも気をつけ、希望のスーパーに就職できるよう頑張っていきたいです。

とくべつしえんがっこうぎのうけんてい と く
「特別支援学校技能検定の取り組み」

沖縄県教育庁県立学校教育課
特別支援教育室

1 特別支援学校における技能検定

特別支援学校の生徒の就業に対する意欲や態度の向上を目的とし、企業就労に求められる基礎的、基本的な作業能力等の客観的な指標となる特別支援学校独自の職業技能検定として多くの都道府県で実施され、関連業種への就労にもつながっています。

2 沖縄県のキャリア教育の取り組み

(1) 「特別支援教育の専門性向上事業（キャリア教育関係）」

就労支援を必要とする生徒への計画的・継続的な進路決定に係る支援を行う事業で、この「沖縄県特別支援学校技能検定」やそれに向けた会議や研修会をはじめ、「就労支援担当者会議」、「就労支援ネットワーク会議」の開催及び関連事業に取り組んでいます。

(2) 「自立を目指す特別支援教育環境整備事業」

「就労支援コーディネーター」を委託し、県内全ての特別支援学校の生徒を対象とした職場開拓のほか、生徒・保護者・教員向けの研修会の実施など、特別支援学校におけるキャリア教育の充実と就労支援に取り組んでいます。



3 「沖縄県特別支援学校技能検定」について

沖縄県特別支援学校技能検定は平成28年度から本格的に実施が始まり、今年度で9年目の取組となります。年に2回の実施を計画しており、今年度は第1回目の検定を11月8日（金）に実施し、第2回目を令和7年1月23日（木）に予定しています。

(1) 名称について

県教育委員会が認定する、職業的な能力の指標となる「信頼度の高い技能検定」を目指した取組を行っていることから、「沖縄県特別支援学校技能検定」としています。

(2) 検定種目

検定種目については、毎年度、新しい種目についての検討を重ねつつ、検定内容の充実をはかっています。今年度の検定種目は、「メンテナンス部門（テーブルふき、モップ、ダストクロス）」と「接客部門（喫茶サービス）」、「パソコン操作部門（ワード文字入力、エクセル数字入力）」の3部門で6種目を実施しています。

(3) 検定の概要

検定の概要は以下の通りで、各級位の認定は、県教育委員会が行います。

	メンテナンス、喫茶部門	パソコン部門
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・各種目に52～88の評価項目 ・審査員3人の内、2名以上の承認で項目をクリアとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・10分間で入力した文字数を評価 (ワード) ・10分間で入力した数字数を評価 (エクセル)
級位認定	<ul style="list-style-type: none"> ・クリアした項目の合計点より1～10級を認定 	<ul style="list-style-type: none"> ・入力数により1～10級を認定

(4) 指導用教材

検定の標準化を目的として、作業見取り図や使用する物品などを示す「仕様書」、検定の作業内容を細かく示す「工程表」、検定時のチェック項目を明記した「評価表」を策定し、各特別支援学校に配布しています。

(5) 技能検定指導者研修会

沖縄県ビルメンテナンス協会会長、ホテル料飲部統括支配人の方々を講師として招聘し、技能検定対象校の職員を対象に指導者研修会を実施しています。評価の視点のポイントなどについて確認を行い、教職員の指導力向上を図っています。

4 関連した取り組み等

(1) 特別支援学校就業支援キャンペーン

沖縄労働局、ハローワーク、特別支援学校校長会、PTA代表、県の労働関係課等と連携し、県内企業等を訪問し、特別支援学校の実験体、卒業生の雇用拡大等の協力依頼を行っています。

(2) 障害者雇用要請（沖縄労働局主催）

沖縄県商工労働部雇用政策課と連携し、沖縄県経営者協会など、県内9つの経済団体に対して県知事名による要請文を手交し、障害者の積極的な雇用と実習の受入等について要請を行っています。毎年、特別支援学校からも代表生徒が要請文の読み上げを行っています。

(3) キャリア教育・就労支援発表会（沖特進研共催）

沖縄県特別支援学校進路指導研究会と連携し「就業体験・生活体験発表会」を発展させ、各学校のキャリア教育の取り組み紹介、技能検定種目の実演披露なども含めた「キャリア教育・就労支援発表会」として実施しています。

(4) アビリンピックおきなわ（沖縄県障害者技能競技大会）

沖縄県障害者技能競技大会は、障害者が日頃培った技能を互いに競い合うことにより、その職業能力の向上を図るとともに、企業や社会一般の人々が障害者に対する理解と認識を深め、その雇用の促進を図ることを目的に開催しています。

沖縄県特別支援学校技能検定から更に上位の競技会との位置づけで、特別支援学校の生徒が多数チャレンジしています。また、上位入賞者が全国大会に進むなど、生徒の職業能力の育成の機会となっています。

～「沖縄県特別支援学校技能検定」がめざすもの～

【社会や企業に対して】

- 特別支援学校の生徒が持っている就労に関する力をアピールする。
- 技能検定の定着により、生徒の特性の理解を促し、職域を広げる。

【生徒にとって】

- 得意分野（得意な作業）の検定に挑戦し、級位認定者として努力が認められる。
- 上位の級位獲得を目指すことで、目標を持って活動に臨むことができる。

【キャリア教育の充実】

- テキスト、指導書、評価表による指導法を確立することで、専門教科・職業において技能レベル向上を図る。
- 様々な生徒の実態に応じた検定種目を拡大し、より多くの生徒を検定に参加させる。

5 「沖縄県特別支援学校技能検定（令和6年11月8日実施）令和6年度 第1回」
学校別受検生徒数一覧

学校 No	学 校 名	検定受検者数						各校 受検者 人数	引率 職員	検定 役員
		テーブル ふき	モップ	ダスト クロス	喫茶サー ビス	ワード文 字入力	エクセル 数字入力			
01	沖縄盲学校	0	0	0	0	1	0	1		
02	沖縄ろう学校	0	0	0	0	1	1	2		
03-1	名護特別支援学校	0	0	3	0	1	0	4	1	1
03-2	名護特別支援学校	2	4	0	1	1	0	8	1	1
04-1	美咲特別支援学校	6	3	4	0	0	36	49	3	1
04-2	(美里高分教室)	3	1	3	0	16	16	39	2	1
04-3	(総教七分)	5	0	1	0	4	1	11	2	1
05	はなさき支援学校	0	1	1	3	6	0	11	1	1
06-1	大平特別支援学校	1	1	1	0	37	37	77	1	1
07	那覇みらい支援学校	8	2	3	6	51	0	70	4	1
08-1	島尻特別支援学校	2	0	4	0	14	3	23	0	1
09	西崎特別支援学校	3	1	1	1	0	0	6	1	1
10	宮古特別支援学校	0	0	0	0	1	6	7		
12	沖縄高等特別支援学校	10	10	5	4	0	0	29	6	3
13	陽明高等支援学校	2	1	2	1	5	3	14	1	1
14	南風原高等支援学校	4	0	3	1	11	6	25	1	1
15	中部農林高等支援学校	2	2	2	0	30	30	66		1
16	やえせ高等支援学校	4	2	2	3	4	8	23	2	1
18	泡瀬特別支援学校	0	0	0	0	3	1	4		1
19	鏡が丘特別支援学校	0	0	0	0	0	7	7		1
合 計		52	28	35	20	186	155	476	26	19
									521	

技能検定デモンストレーション

《 ビルメンテナンス部門 》

(ダストクロス) 中部農林高等支援学校 3年 上原 航(うへはら わたる)

(テーブルふき) 中部農林高等支援学校 3年 玉元 輝(たまもと ひかる)

1 学校紹介

本校の前身は、平成 22 年 4 月、南風原高等学校内に設置された沖縄高等特別支援学校 南風原高等学校分教室である。平成 29 年 4 月から、「共生（ともに生きる）」、「共学（ともに学ぶ）」の理念の下、南風原高等学校と併設型の特別支援学校として南風原高等支援学校が開校した。それに伴い、学科を普通科から産業科へと変更し、専門教科（トータルクリーニング、食品加工、農園芸、オフィス実務）を設置することで、職業教育の充実を図ることができるようになった。現在、1 年生 20 名、2 年生 17 名、3 年生 17 名、計 54 名の生徒が在籍している。今後も軽度の知的障がいをもつ生徒の社会自立を目指す観点から、職業教育に重点を置き教育活動を展開していく。

2 南風原高等支援学校の特徴

- (1) 職業教育に関して、流通・サービス（トータルクリーニング、オフィス実務）、農業（農園芸、食品加工）の専門教科を設定している。
- (2) 農園芸では、菜や草花栽培、校内外での花壇等の管理を行っている。オフィス実務では、ビジネスマナー、PC 操作等の習得を学んでいる。またトータルクリーニングでは、ビルメンテナンス及び洗車技術の向上に取組、校内や近隣の施設等の清掃活動を行っている。食品加工では、パン・菓子等の食品製造・販売、喫茶サービスマナーの習得を目指し、地域の子ども食堂へお菓子の寄贈をし、地域社会に開かれた学校づくりに取り組んでいる。
- (3) 共生社会の実現に向けた交流及び共同学習では、南風原高等学校と合同で授業を行う各教科（体育、書道、美術等）を設定している。郷土文化の授業では、沖縄の伝統芸能を学び、舞台や公演等にも一緒に参加している。また、ほとんどの学校行事（スポーツ大会、文化的行事）や生徒会活動、部活動を南風原高等学校と共に学び、積極的に取り組んでいる。

3 本校における就業体験評価票「かふやみ 15 の力評価票」について

- (1) 「かふやみ 15 の力」とは

本校の教育目標は「生徒一人一人の特性等を最大限に発揮させ、将来の社会的・職業的な自立を図り、働く喜びと誇りを持ち自他ともに敬愛する心豊かな人間」を目指し、育成している。本校の目標として「将来の社会的・職業的自立に向けて」必要な基盤となる基礎的・汎用的能力が求められている。基礎的・汎用的能力とは「人間関係形成・社会形成能力（かかわる力）、自己理解・自己管理能力（ふりかえる力）、課題対応能力（やりぬく力）、キャリアプランニング能力（みとおす力）」に整理している。本校では今年度から、それら育成するために、4 つの力の頭文字をとって「かふやみ 15 の力評価票」を作成した（沖縄県立教育センター 令和 4 年度調査研究報告書 かふやみ 20 の力参考）。その評価票を活用し、キャリアパスポートを始め、職業や各教科、就業体験等の教育活動を通してキャリア教育を行っている。

- (2) 「かふやみ 15 の力評価票」の評価基準

「かふやみ 15 の力評価票」の評価基準は、A～E の 5 段階に生徒が自己評価できるように、分かりやすい言葉で、作成した（沖縄県特別支援学校進路指導研究会「就業体験個人評価票 15 の力」を参考）。企業が就業体験後に使用する評価票でもある。

(3) 目標設定やふり返り活動

就業体験時のふり返りでは、「かふやみ 15 の力」を意識した目標を立て、自己評価を行う。他者評価として、企業からのアドバイスや保護者からの励まし等を頂き、次の目標に向けて取り組んでいる。目標設定やふり返り活動を繰り返し行うことにより、客観的な自己理解を深めていく。学校、家庭、企業と連携し、卒業後の就職と結び付けて、在学中から学びに向かう力や主体的に学習に取り組む態度を育成する。

(4) キャリアパスポートとして活用

「かふやみ 15 の力」は、キャリアパスポートとしても作成し、活用している。年度始めの目標を立てる際に、かふやみ 15 の力で自己をふり返り、それを参考に 1 年の目標を立て、未来宣言として発表している。高校 1 年生から高校 3 年生まで持ち上がる「ポートフォリオ」の 1 つとして、活用していく。

(5) 各教科（社会）との連携

各教科でも就労の意識をもち、生徒一人ひとりに応じた「かふやみ 15 の力」の目標に対して、自己評価や他者評価の振り返りを積み重ねることで、自らの良い所や課題点について気づき、新たな学習への目標を立て実践していく。

4 進路指導部の主な取り組み

(1) 職業

職業では、あいさつ練習を始めキャリアパスポートを含めた就職に必要な学習をしている。学年を縦割りにし、先輩や後輩の目標や就業体験を共有することにより、他者理解・自己理解を深める機会を設定している。

(2) 就業体験

年に 2 回、2 週間の就業体験を実施している。1 年生の 1 学期は、校内就業体験を農園芸班、トータルクリーニング班、食品加工班で行った。2・3 年生は、生徒が希望する職種や企業へ校外就業体験を行った。

(3) 進路講話及び進路保護者説明会

進路保護者説明会（2024. 5. 12）で就労支援コーディネーター翁長克氏による「特別支援学校からの雇用例と職業選択について」を演題として保護者向けに進路講話を行った。就業体験事前学習（2024. 5. 20）として同じく翁長克氏による「実習の心構え」を演題として生徒向け講話を実施した。生徒の就労や卒業後の生活、家庭でのサポートについて関心を高める取り組みを実施している。

(4) 特別支援学校技能検定の取り組み、アビリンピックへの出場

技能検定ではメンテナンス部門（テーブル拭き、モップ、ダストクロス）、喫茶サービスの練習に取り組み、受検することができた。アビリンピックにビルクリーニング部門、接客サービス部門に出場することができた。

(5) トータルクリーニング技能公開研修（2024. 05. 30）

国際ビル産業の講師 3 名を招き、ビルクリーニングの実技指導（ガラス、モップ、机拭き）して頂き、清掃業務の基礎・基本を学んだ。

(6) ハローワークの見学（2024. 07. 17）

3 年生の生徒を対象に、ハローワークを訪問し、ハローワークの概要や求人検索方法、登録方法を学んだ。後日、別日でハローワークの求職登録を行った。

(7) 卒業生講話（2024. 10. 15）

市役所、ホテル、総合スーパー、介護と職種の異なる4期生4名を招き、保護者及び生徒向けに講話を行った。生徒の就職への意識を高める良い機会となった。

(8) 年金・金融トラブル・消費者教育講話

南風原高校と一緒に、年金・金融トラブルについて卒業前講話を行っている。

(9) 卒業生の追指導

昨年度の卒業生状況について、夏休み等を利用して職員で状況を確認した。また相談がある生徒については、障がい者就業・生活支援センターと連携することができた。

5 卒業生の主な進路先

スーパー・販売	サンエー	清掃	ユインチホテル南城	車	スズキ自販沖縄
	ユニオン、コープ		JAL スカイエアポート沖縄		沖縄トヨベツト
	マックスバリュウ		国際ビル産業	運	株式会社あんしん
	JA おきなわファーマーズ			輸	沖縄ヤマト運輸(株)
飲食	コメダ珈琲店	介護	有限会社 ユイ・ライフ福寿の都	宿	HOTEL SANSUI NAHA
	やっぱりステーキ		有料老人ホーム ひまわり		琉球温泉波之上の湯
	A&W、びっくりドンキー		有限会社 陽気デイサービスはいさい	業	ダブルツリーby
	ワールドグルメ		特別養護老人ホーム東雲の丘		ヒルトン那覇首里城
	バイキングアレツタ	製造	かねひでフードサービス	建	ロワジュールホテル那覇
			株式会社 第一パン	築	平良設備工業
小売	ドラッグイレブン		オキコストアパン工場	事	株式会社 琉球銀行
公務員	那覇市役所会計年度任用職員			務	琉球エアコミューター

6 成果と課題

(1) 成果

地域の学校や施設等の様々な活動を通して、社会と学びの関係性を理解しようとする意識が高まった。また共生社会の実現に向けた交流及び共同学習を通して、個々の違いを認め合う態度を育むことができた。さらに職業教育を含めたキャリア教育について「かふやみ15の力」を活用して、キャリアパスポートを始め、職業や各教科、就業体験等の様々な教育活動に取り組み、就労への意識が高まった。

(2) 課題

生徒一人ひとりのキャリア形成に関する課題の明確化や多様な支援方法を検討し、生徒が自己実現できる進路選択・進路決定に向けたキャリア教育の充実に努めていきたい。また卒業後の進路先との丁寧な引継ぎ方法や安心できる職場の環境づくり等、関係機関との連携を図っていきたい。

わたし しんろじつげん しゅうぎょうたいけんじっしゅう とお
「私の進路実現～就業体験実習を通して～」

ひがるか
沖縄高等特別支援学校 3年 比嘉月海

沖縄高等特別支援学校に入学して2年半がたちました。

私たちの学校では、年に2回、2週間の就業体験実習を行います。これまで私は1年生で、校内の木工工場、「タウンプラザかねひで」での品出し・前だしなどの販売補助、2年生では「キャッスルハイランダー」での厨房補助、「うるま市役所」での事務補助を体験してきました。それまでは、働くことに対してあまり考えられなかったけれど、残りの実習も2回になった頃、本気でやりたい仕事を探そうと考えるようになりました。

3年生の前期にチャレンジしたのが、「ジーケイフーズ株式会社」です。ここは、沖縄ファミリーマートの指定工場、野菜を洗ったり、ハムやお肉を並べたりしました。中でも、1日約1,000個もの卵を割る作業は、なかなか貴重な体験でした。2週間の実習で1万個くらいは割ったので、一生分の卵を割ったかもしれません。

後期は「株式会社パイプニット」というかりゆしウェアを作っている縫製工場を実習を行いました。縫製工場に興味を持ったきっかけは、学校の授業です。選択授業の「縫製」で工業用ミシンを使って、作品をつくっていると、こういう仕事も面白いかもしれない！思うようになりました。授業の担当の先生が進路担当だったこともあり、すぐに工場見学の機会をつくってもらい、かりゆしウェアを作っている縫製工場を2カ所見学に行きました。実際に見学に行ってみると、様々なタイプの工業用ミシンで、作業が行われており、私たちが授業で使うスピードとは全く違うスピードで、生地が縫われており、とても興味深かったです。実際の実習では、ミシンを分解して仕組みを勉強させてもらったり、かりゆしウェアの襟部分や袖部分の縫製を担当させてもらいました。また、好きな生地で自分のかりゆしウェアを作らせてもらいました。難しい作業もありましたが、完成したときはとても達成感があり、お気に入りのシャツが出来上がりました。

これまでをふり返ってみると、私は幼い頃から物作りが好きだったのだと気づきました。私は4月から、パイプニットさんで縫製の仕事を予定しています。大好きな物作りに携われることをうれしく思います。沖縄県の縫製技術は高いという話を聞きます。県民の正装として欠かせないかりゆしウェアを丁寧な作業で心を込めて作っていきたいと思います。

様々な就業体験を重ねてきた中で、私は最後に好きな物作りに出会うことができました。夢や目標、やりたいと思ったことは口に出すことが大切だと思います。私も、口に出したことで、トントン拍子に工場見学が決まりチャンスをゲットすることができました。後輩の皆さんも、ぜひ進路の先生や担任の先生とたくさんしゃべって、チャンスを見つけてほしいです。

高校生活も残りわずかですが、1日1日を大切に、感謝の気持ちを持って過ごしていきたいと思います。

しょうらい わたし せいかつ たの
「将来、私の生活が楽しくなるために」

てるや あおい
沖縄県立鏡が丘特別支援学校 高等部2年 照屋 碧

私は中学校まで沖縄南部療育医療センターに入所しながら那覇特別支援学校に通って来ました。高校入試の時に母から「他の学校に進学してみない？」と言われ、初めはとても驚きました。それは、私がセンターから退所することも、他の学校へ進学することも想像することができなかつたからです。さらに母から「鏡が丘特別支援学校という学校が、あなたには合っていると思うよ」と言われて、そこへ進学することを考え始めました。違う学校への進学は、環境も変わるので、とても不安でしたが、いろいろ調べてみると、鏡が丘は生徒数が多く、ボッチャ部もあり、同年代の友だちができるかもしれないということを知り、進学しようと決めました。

本校には、就業体験があります。1年生の時、沖縄県自立生活支援センター・イルカで1日、就業体験を行いました。その時の実習で、電動車いすで長時間外出してレストランまで行き、昼食をとる体験をしました。それまで、自分で外出したことがほとんどなかったので、外に出ることが怖かったのですが、やってみると意外と楽しく外出することができました。その体験を通して、これまでチャレンジしてこなかったことの中に、自分ができることがあるということに気づくことができました。

2年生の就業体験では、サンクスラボ浦添オフィスで5日間、リモートワークを体験しました。主な業務内容は、ホームページから企業情報を調べ、エクセルファイルにコピー&ペーストをすることです。1日目と2日目は、気持ちの焦りからか、落ち着いて作業することが難しかったのですが、3日目からは業務内容にも慣れ、安定して作業することができるようになりました。また、コピー&ペーストができたことや、作業のスピードが速くなったことを褒められ、とても嬉しかったです。

私の目標は、働いてお金を貯めて、そのお金で家族と旅行に行くことです。他にも、私はプロ野球チームの読売巨人が大好きなので、東京ドームに行くことや、巨人の試合を全部放送する日テレジータスのチャンネルと有料契約して、巨人の試合を楽しむことも目標の1つです。また私は、洋楽も大好きなので、特にマルーン5というアーティストのライブに行きたいと考えています。これらの目標が達成できれば、きっと私の将来の生活は楽しくなると思います。そのために、パソコンの技術をもっと高め、仕事に就けるように頑張ります。

私の話を最後まで聞いていただきありがとうございました。

こうこうせいかつ ふりかえって
「高校生活を振り返って」

たけい るい
沖縄県立中部農林高等支援学校 総合実務科3年 武井 琉李

4月になり、僕は高校3年生になりました。今年は最上級生になり、1、2年生のお手本になるのと、卒業後の進路を決める大事な一年となります。僕は中部農林高等支援学校に入学してから、さまざまなことに取り組んできました。学校での体験を通し、大きく成長することができました。

今、僕はサッカー部に所属しています。高校2年生の時に顧問の竹本先生に「サッカー部に入らないか」と誘われて始めました。最初はあまり乗り気ではありませんでしたが、友達と練習していくうちにだんだん楽しくなり、今では毎日サッカーボールを蹴らないと落ち着かないぐらいのめり込んでいます。現在、サッカー部は全日高支合わせて17名、マネージャー3名が在籍しており、みんな和気あいあいと練習に励んでいます。昨年7月に行われたフットサル沖縄大会では、1戦目やえせ高等支援学校に勝利し、2戦目沖縄高等特別支援学校にも勝利。8月の九州大会出場の切符を手にししました。残念ながら台風の影響で九州にはいけませんでしたが、特別に全国大会に行けることになり、全国9位という成績を修めることができました。サッカーの方でも九州大会に出場し、試合には負けましたが、とてもいい経験になりました。今年度のフットサルは7月に沖縄大会優勝し、8月には九州大会がありました。結果は惜しくも準優勝となり全国大会への出場は叶いませんでしたが、チームメイトで取り組んだことはいい経験になりました。また、サッカーの方でも九州大会に出場し、全国大会出場をかけて試合に望みましたが、惜しくも負けてしまい全国大会への出場は叶いませんでした。

学校生活では、進路決定に向けてさまざまな取り組みを行っています。総合実務科では、在学3年間で6回就業体験があり、仕事のマッチングを行います。1年生最初の就業体験では、ホテルムーンビーチでベッドメイキングをしました。2年生では、フレッシュプラザユニオン赤道店、サンエー赤道ショッピングタウンでの品出し、沖縄ダイケンでの清掃業を行いました。特に大変だったのは、赤道サンエーでの品出しの仕事でした。店舗も大きいので扱う商品も多く、お客様もたくさんいらっしゃいます。品出ししている時にカートが邪魔になっていないか、品物にキズや汚れがないかなど、確認することが多くあり、とても気を使う仕事です。集中して仕事に取り組むように心がけました。これまで職種の違う場所でさまざまな就業体験を行いましたが、どの職場でも仕事をする上で体力や集中力、コミュニケーション力が必要であることがわかりました。1日中立ちっぱなし、またはしゃがんだり立ったりを繰り返すので、きつと感じることもありました。でも部活で暑い中練習し体を鍛えているので、乗り越えることができました。サッカーを続けていてよかったなと思いました。

僕は今、資格取得にも励んでいます。2年の時に、日本情報処理検定の日本語ワープロと表計算3級の資格を取りました。資格を取るには長時間の講義を受けたりたくさんのお話を覚えたりと大変ですが、自分の進路選択の幅を広げ、就職に役立てるために頑張ろうと思います。あと一つ、頑張ったことがあります。それはアビリンピックです。アビリンピックとは、職業技能を競う大会で、社会に出て働いている一般の方や高校生も参加しま

す。昨年7月、僕はビルクリーニング部門という種目に出場し、県内で高校生初となる金賞を受賞しました。そして沖縄代表として、愛知県で行われた全国大会に出場しました。残念ながらいい結果を残すことができませんでしたがとても良い思い出になりました。

3年生になった今、卒業まで残り3ヶ月になりました。在学中に、社会に出るための力をたくさん身につけたいと考えています。今年度はサンエー赤道ショッピングタウンでの青果部門での就業体験をおこなっています。3学期にある最後の就業体験では、前回の課題を克服し、成長した姿を見ていただけるよう頑張っ、卒業後の一般就労を勝ち取りたいと思います。